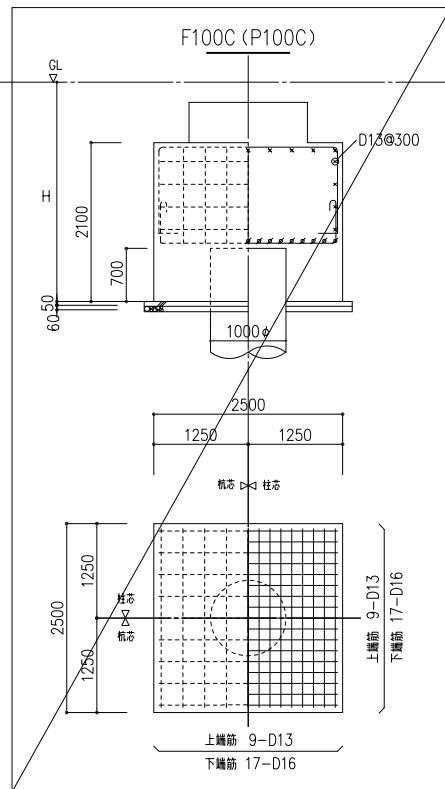
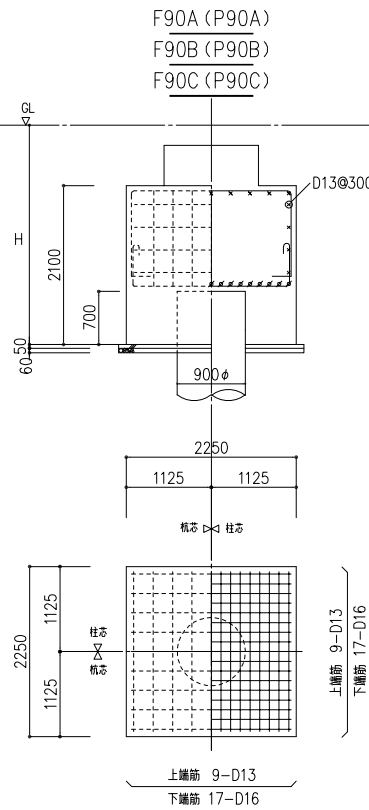
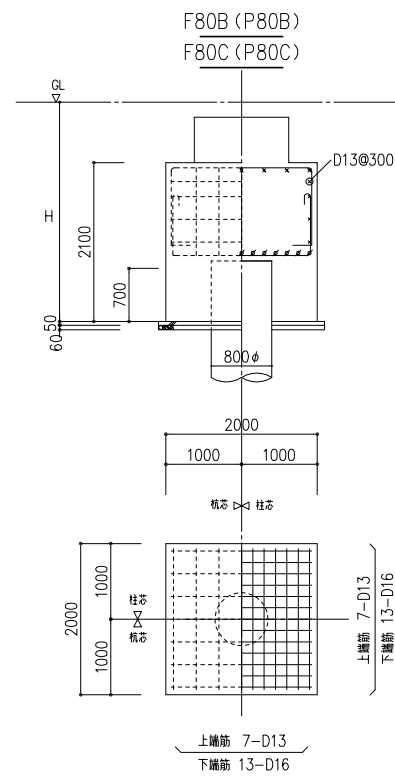
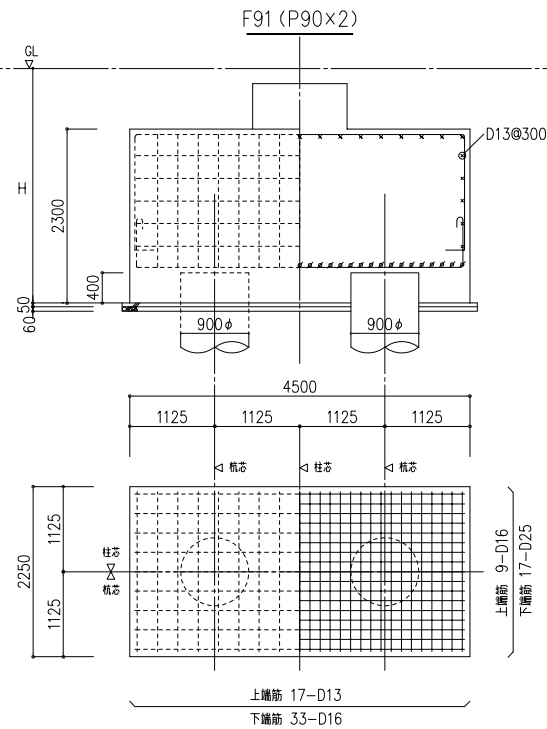
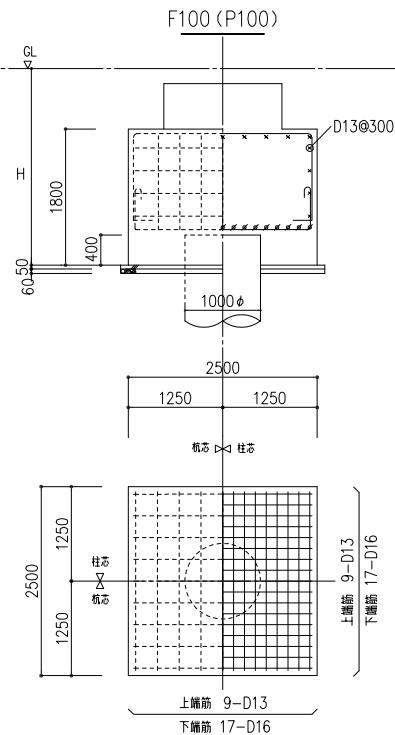
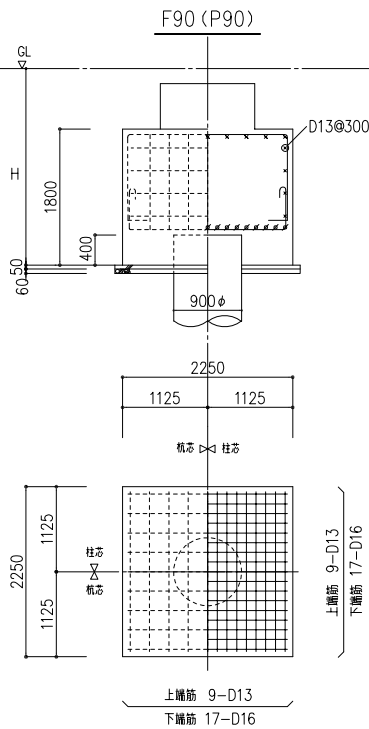
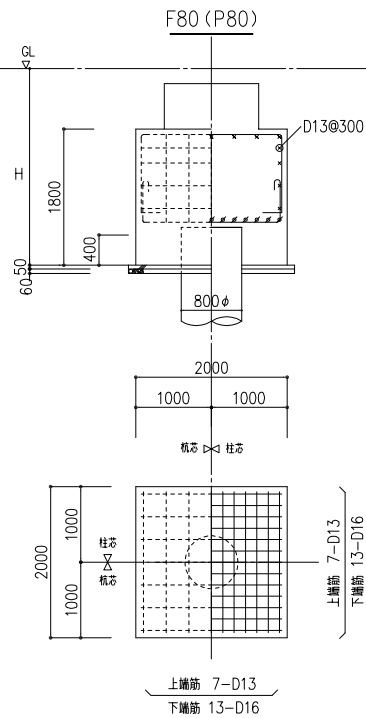
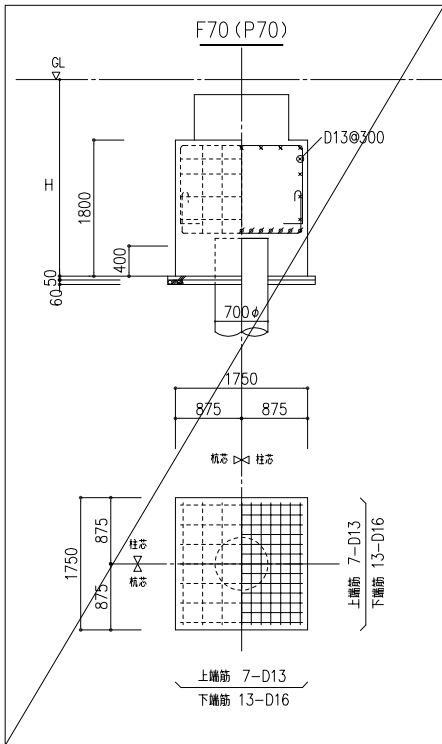


共通事項（特記なき限り）

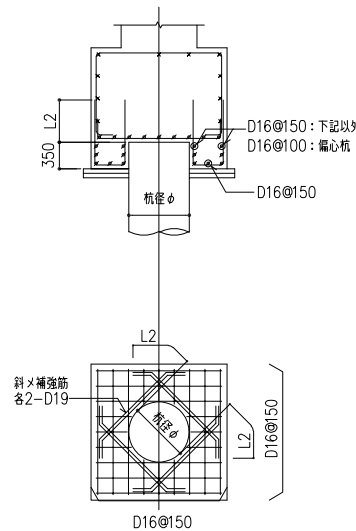
。基礎深さHは 杭・基礎伏図 による。

。基礎下地層は 地コンクリート ⑦50.砕石 ⑦60とする。

。鉄筋材質は D10～D16 SD295、D19～D25 SD345 とする。

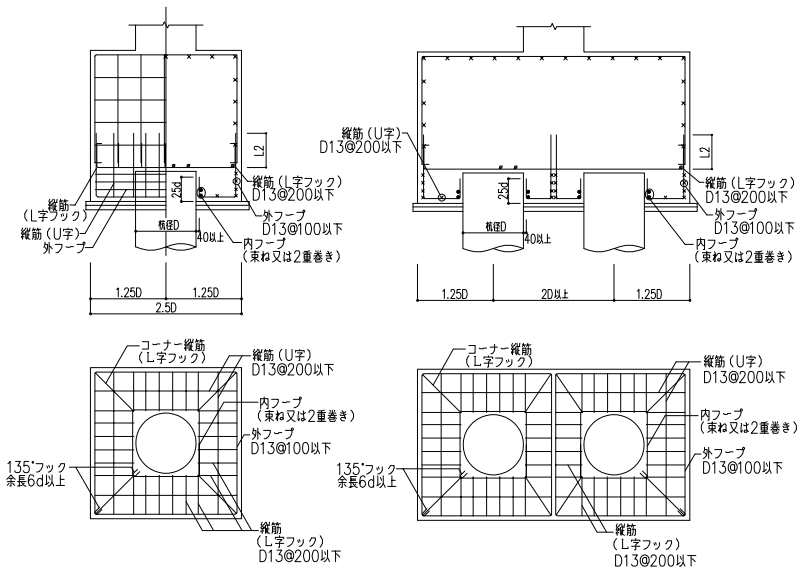


杭頭周辺補強筋要領（SC杭の場合）



杭径700φ～900φ

※へりあきが大きいの関係でタテ筋（U字）が必要なもの



＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事
S 建築工事
43 基礎リスト
最終版 2024年12月
株式会社 柴建築設計事務所

基礎梁リスト(1) 1:50

共通事項(特記なき限り)
1. 巾止筋は D10@1000 とする。
2. 梁下地盤は 捨てコンクリート ⑦50、砕石 ⑦60とする。
3. 腰筋は、それが接合する部材内に、40d以上アンカーのこと。
4. 2・3段目主筋 カットオフ長さ(LD)は
MAX(リスト内数値、Lo/4+15d)とする。
6. SD295A D16以下、SD345 D19~D25、
SD390 D29~D32

凡 例
スタースラップ 4-D13@200 は
左図 Ⅲ-D13@200 を示す。

階	符 号	FG1 (FG1A)		FG2 (FG2A)		FG3	FG4		FG5	FG6	FG7		FG8	
1階	位 置	C1通り端・中央	C2通り端	端部	中央	全断面	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	FG7端	中央・他端
	断 面													
	B×D	800x2000		800x2000		800x2000	800x2000		800x2000	800x1400	800x1400		800x1400	
	上端筋	6 (9) -D32		6 (9) -D32	5 (8) -D32	4-D32	6-D32	4-D32	6-D32	11-D32	11-D32	8-D32	11-D32	8-D32
	下端筋	6 (8) -D32		4-D32	5 (6) -D32	5-D32	4-D32	4-D32	4-D32	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32
	肋 筋	2-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @150	2-D16 @200		4-D16 @150	4-D16 @150	2-D16 @200		2-D16 @200	
	腰 筋	10-D13		10-D13		10-D13	10-D13		10-D13	6-D13	6-D13		6-D13	
	備 考	FG1端:LD=2100 ()内はFG1Aを示す。		()内はFG2Aを示す。										

階	符 号	FG9		FG10		FG11			FG12			FG21 (FG21A)		FG22
1階	位 置	中央・他端	FG10端	端部	中央	Ys1・Ys2通り端	中央	他端	端部	中央		端部 (X4端)	中央	全断面
	断 面													
	B×D	800x2000		800x2000		800x1400			800x1400			800x2000		800x2000
	上端筋	8-D32		11-D32	8-D32	4-D32	4-D32	6-D32	6-D32	4-D32		7 (8) -D32	4-D32	9-D32
	下端筋	10-D32		8-D32	10-D32	6-D32	6-D32	4-D32	4-D32	6-D32		7-D32	6-D32	6-D32
	肋 筋	2-D16 @200		2-D16 @200		2-D16 @200			2-D16 @200			2-D16 @200		4-D16 @200
	腰 筋	10-D13		10-D13		6-D13			6-D13			10-D13		10-D13
	備 考											FG21 :LD=1600 ()内はFG21Aを示す。		

階	符 号	FG23 (FG23A)		FG24		FG25		FG26 (FG26A)		FG27		FG28	
1階	位 置	C1通り端・中央	X4通り端	端部	中央	X5・X9端	中央、X4・X10端	端部	中央	端部	中央	X9端	中央・他端
	断 面												
	B×D	800x2000		800x2000		800x2000		800x2000		800x1400		800x2000	
	上端筋	4 (9) -D32		6-D32	4-D32	6-D32	8-D32	5 (8) -D32	4-D32	6-D32	4-D32	7-D32	7-D32
	下端筋	8-D32		4-D32	4-D32	4-D32	7-D32	4 (5) -D32	4-D32	4-D32	6-D32	7-D32	6-D32
	肋 筋	2 (4) -D16 @200		2-D16 @200		2-D16 @200		2-D16 @200		2-D16 @200		4-D16 @200	
	腰 筋	10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		6-D13		10-D13	
	備 考	()内はFG23Aを示す。											

＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭 ＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一	06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
	S	建築工事	最終版 2024年12月
	44	基礎梁リスト (1)	1:50 (A1) 1:100 (A3)
		株式会社 柴建築設計事務所	

基礎梁リスト(2) 1:50

- 共通事項(特記なき限り)
1. 巾止筋は D10@1000 とする。
2. 梁下地盤は 1階でコンクリート ⑦ 50、砕石 ⑦ 60とする。
3. 腰筋は、それが接合する部材内に、40d以上アンカーのこと。
4. 2・3段目主筋 カットオフ長さ(LD)は MAX(リスト内数値、 $L_0/4+15d$)とする。
6. SD295A D16以下、SD345 D19~D25、SD390 D29~D32

凡 例
スターラップ 4-D13@200 は
左図 Ⅲ-D13@200 を示す。

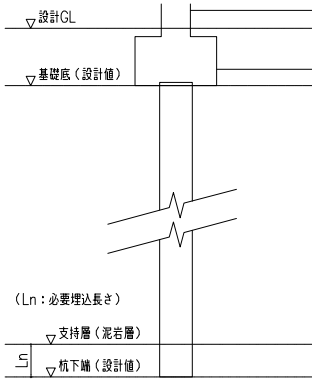
階	符 号	FG29			FG31			FG32 (FG32A)		FG33 (FG33A)		FG34		FG35		FG36
	位 置	X8通り端	中央・他端		Yn1・Yn4通り端	中央	他端	端部	中央	端部(Y通り端)	中央	端部	中央	Yn2通り端	中央・他端	全断面
1階	断 面															
	B×D	800x2000			800x2000			800x2000		800x2000		800x2000		800x2700		800x2700
	上端筋	9-D32			11-D32			8-D32		7(8)-D32		8-D32		12-D32		12-D32
	下端筋	5-D32			7-D32			7-D32		4-D32		7-D32		6-D32		6-D32
	肋 筋	4-D16 @200			4-D16 @200			2(4)-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @200
	腰 筋	10-D13			10-D13			10-D13		10-D13		10-D13		14-D13		14-D13
	備 考							FG32:LD=2100 ()内はFG32Aを示す。		()内はFG33Aを示す。				LH=4200		

階	符 号	FCG1	FCG2
	位 置	全断面	全断面
1階	断 面		
	B×D	800x1000	800x2000
	上端筋	4-D32	7-D32
	下端筋	4-D32	7-D32
	肋 筋	3-D16 @150	4-D16 @200
	腰 筋	4-D13	10-D13
	備 考		

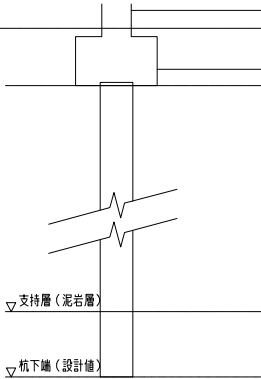
- 基礎梁リスト共通事項
- 梁主筋位置を示す寸法は、原則として標準寸法を示す。
 - 鉄筋のかぶり厚さの確保、芯鉄筋の位置及び施工性の検討を行い、必要に応じて若干の調整を行う。
 - 仕上げに応じて 10~20mmの増打を行うこと(表記寸法は躯体寸法を示す)。

X方向(先行梁)	Y方向(後行梁)

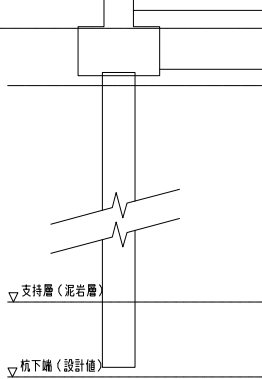
支持層深度の変動に対する対応方針
【設計時点での想定】



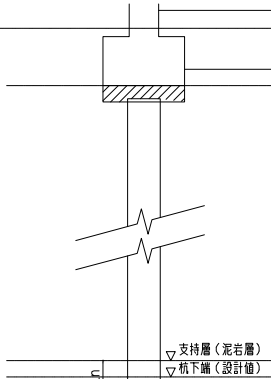
【想定よりも支持層が浅い場合(1)】
支持層を掘削できる場合は、所定の深度まで掘削を行い、設計値の位置にて杭を施工すること。



【想定よりも支持層が浅い場合(2)】
支持層の掘削が困難な場合、監理者・設計者の認める範囲で杭天端および基礎底レベルの変更を許可する。それ以上の高さまりが生じた場合は、協議による。



【想定よりも支持層が深い場合】
支持層への掘入れ(=1.0Dp以上)を確保できる深度まで、杭天端レベルを下げるものとする。
杭基礎・基礎梁への補強の要否について、監理者・設計者に確認すること。

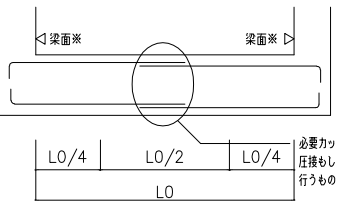


2・3段目配筋カットオフ長さ LDの範囲(基礎梁・大梁共通)

- 中央部配筋が端部配筋よりも多い場合、中央部配筋の範囲($L_0/2+20d$)を優先させるものとする。



※ 柱面・梁面のうち、内法スパンが小さくなる方を示す。

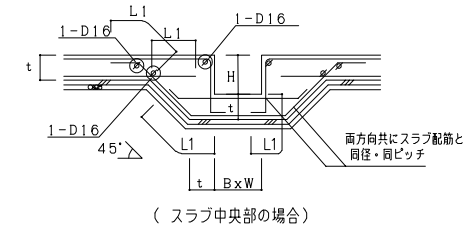


必要カットオフ長さがラップする場合、圧接もしくは機械式継手による接合を行うものとする。(全断面=端部断面)

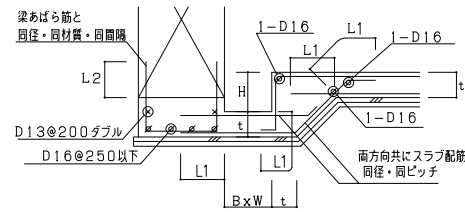
端部・中央区分図(基礎梁・大梁共通)



金場配筋要領図



(スラブ中央部の場合)

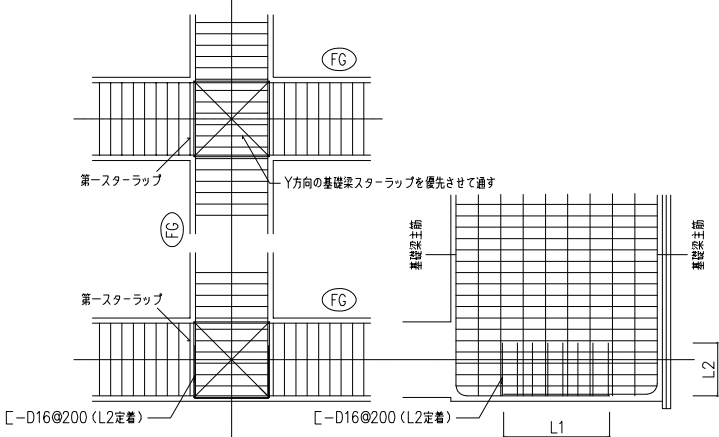


(スラブ端部の場合)

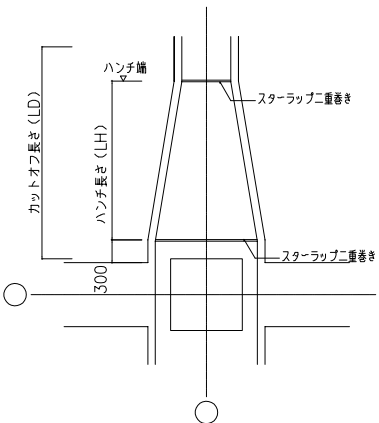
(注)側溝等も下記配筋に準ずる。

基礎梁配筋要領

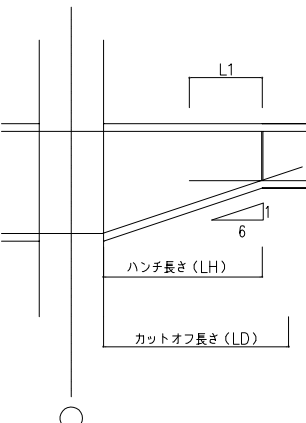
- 基礎梁幅が柱幅より大きい場合



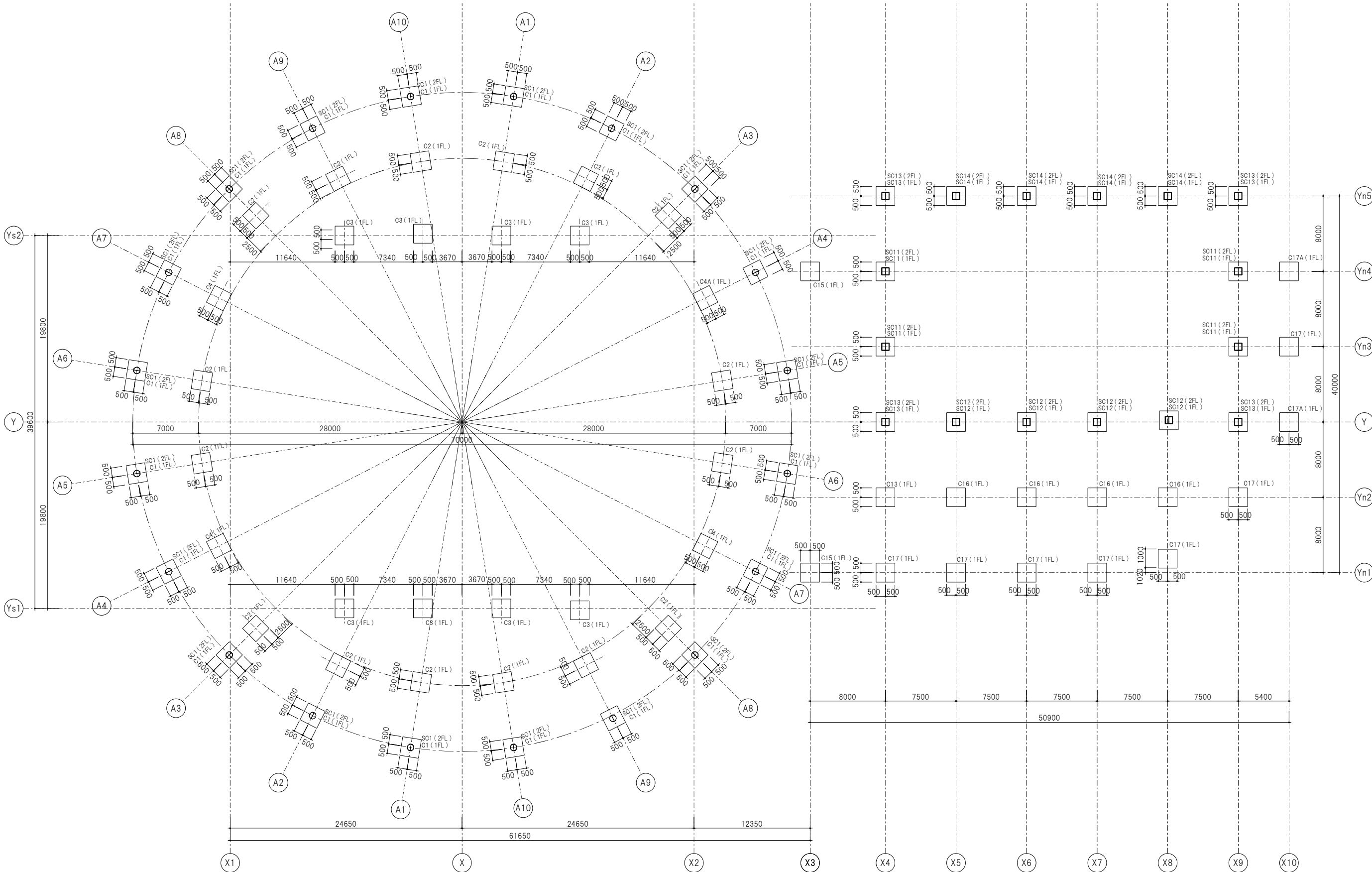
水平ハンチ要領図(基礎梁・大梁共通)



鉛直ハンチ要領図(基礎梁・大梁共通)



<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭	06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
<構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一	S 45	建築工事 基礎梁リスト(2) 1:50 (A1) 1:100 (A3)	【最終版】 2024年12月
株式会社 柴建築設計事務所			



柱芯線図

各階床梁伏図共通事項（東棟）

- ・（ ）内数値は、FLからの壁立上り高さを示す。
- ・＜ ＞内数値は、FLからの梁天端レベルを示す。
- ・印は梁-梁剛接合を示す。
- ・外装受材、内装・ガラス受材は意匠図による。
- ・屋外露出部分は溶融垂鉛メッキを施すものとする。
- ・立上り壁（建物内部・外部）範囲および収縮目地位置は意匠図による。
- ・印はコンクリート打増しを示す。
- ・スラブ符号の方向はスラブ主筋方向を示す。

- ・印は横補剛材（B-TYPE）を示す。
- ・※印は側面プレート貼りとする。
- ・＜J＞印は現場継手位置を示す。
- ・階段部は階段詳細図による。
- ・外装材はスラブ硬化後に取り付けのこと。
- ・建物外部軒天には C-100x50x20x2.3 @450以下 を設置するものとする。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事			
S	建築工事	最終版	2024年12月
46	柱芯線図		
株式会社 柴建築設計事務所			

符 号		C1		
	A断面	B断面	C断面	
断 面				
鉄 骨 X	○ - 355.6×9.5 (STKN490B)	○ - 355.6×9.5 (STKN490B)	—	
鉄 骨 Y	—	—	H-350×175×7×11 (SN490B)	
ベースプレート	—	BPL-32×410×410 (SN490C)	BPL-32×400×250 (SN490C)	
アンカーボルト	—	—	4-M24 (L=40d、フック付 二重ナット締め)	
スタッドジベル	19φ (H=100) 1列10段×8面=80本	—	—	
備 考	—	2リブP.L-12 (SN490B) h=150 施工性に配慮し、耐力を落とさない前提で充填孔や板厚を適宜調整可能とする		—
符 号	C11・C12・C13・C14			
	A断面	B断面	C断面	
断 面				
鉄 骨 X	□ - 400x400x19 (BCR295)	□ - 400x400x19 (BCR295)	—	
鉄 骨 Y	—	—	H-400×200×8×13 (SN490B)	
ベースプレート	—	BPL-32×450×450 (SN490C)	BPL-32×450×250 (SN490C)	
アンカーボルト	—	—	4-M24 (L=40d、フック付 二重ナット締め)	
スタッドジベル	19φ (H=100) 1列10段×4面=40本	—	—	
備 考	—	2リブP.L-12 (SN490B) h=150		—

鉄骨鉄筋コンクリート柱	1:50	共通事項（特記なき限り） ・鉄骨材質は STKN490B とする。 ・鉄筋材質は D10～D16＝SD295A、D19～D25＝SD345、D29～D32＝SD390 とする。 ・通しタイフラム材質は C種、内タイフラム材質は B種 とし、強度は柱梁の鋼材のうち最も高強度の材質と同じとする。
鉄筋コンクリート柱リスト	1:50	

階	符号	C1	C2	C3・C16・C17(C17A)	C4(C4A)	C11・C12・C13・C14	C15
1階 柱頭	断面						
	Dx x Dy	1000 x 1000	1000x1000	1000x1000	1000x1000	1000 x 1000	1000x1000
	主筋	20-D29	16-D29	20(16)-D29	14-D29	20-D29	18-D29
	帯筋	□-D13 @100	D13-■-@100	D13-■-@100	D13-■-@100 (D13-■-@100)	□-D13 @100	D13-■-@100
	仕口部帯筋	□-D13 @150	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@100	□-D13 @150	D13-□-@100
	鉄骨 X	○-355.6x9.5	-	-	-	□-400x400x22 (BCR295)	-
	鉄骨 Y		-	-	-		-
	備考			()内はC17Aを示す。	()内はC4Aを示す。		
1階 柱脚	断面						
	Dx x Dy	1000 x 1000	1000x1000	1000x1000	1000x1000	1000 x 1000	1000x1000
	主筋	20-D29	24-D29	20-D29	14(16)-D29	20-D29	18-D29
	帯筋	□-D13 @100	D13-■-@100	D13-■-@100	D13-■-@100 (D13-■-@100)	□-D13 @100	D13-■-@100
	仕口部帯筋	□-D13 @100	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@100	□-D13 @100	D13-□-@100
	鉄骨 X	-	-	-	-	-	-
	鉄骨 Y	H-350x175x7x11 (SN490B)	-	-	-	H-400x200x8x13 (SN490B)	-
	備考				()内はC4Aを示す。		

柱 共通事項	
共通事項（特記なき限り）	- 柱主筋位置・芯鉄筋を示す寸法は、標準寸法を示す。 - 柱頭部かぶせ筋は、$2\text{D}-\text{D}16 \times 2$ (L2定着) とする。 - せいが1mを超える柱、または鉄骨鉄筋コンクリート柱の帯筋は、溶接形 とする。 - 避雷導線は原則として柱外に設けるものとする。 避雷導線を柱内に通す場合、主筋を利用せず、別途導線用の鉄筋を柱断面の中心付近に配筋する。

凡例

帯筋：田-D13 @100
X方向：4-D13@100
Y方向：3-D13@100

Y

Dx

Y

Dx

バンドプレート
FB-6x50 (SS400) @800

へ印は 主筋間隔 2.7d (d:鉄筋径) を示す。
(S-10図 参照)

各コーナー筋：フック付

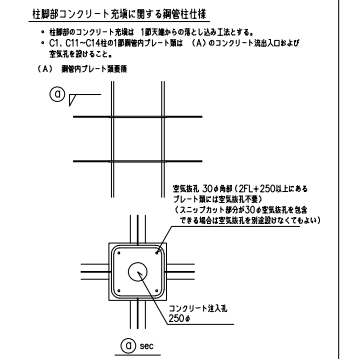
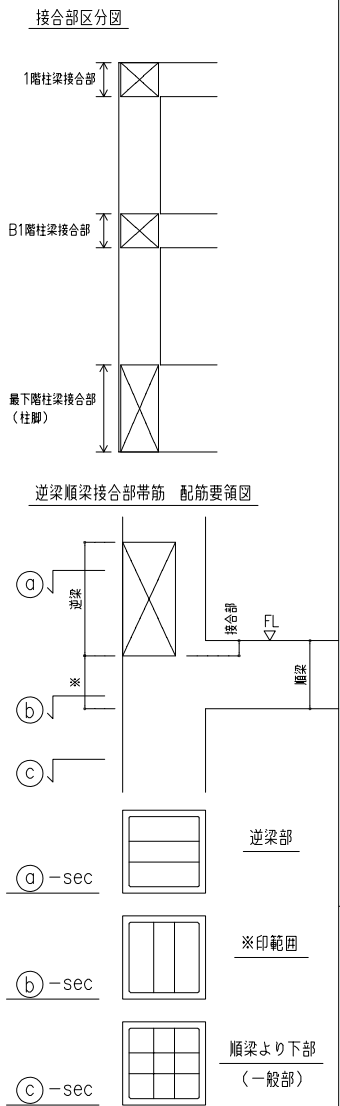
柱頭部かよせ筋
2門-D16x2 (L2定着)

柱頭部かよせ筋
2門-D16x2 (L2定着)

共通事項（特記なき限り）	
鉄骨大梁リスト	鉄骨材質は STKN490B とする。
ブレースリスト	- 通しタイヤフラム材質は C 種 とし、強度は柱梁の鋼材のうち最も高強度の材質と同じとする。 - 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。

階	符号	SC1		SC11,SC12,SC13,SC14		V1		V26		V21	
		全断面	○-355.6×9.5	全断面	□-400×400×19	全断面	○-355.6×11.1	全断面	○-267.4×9.3	全断面	○-216.3×8.2
備考		メインアリーナ		サブアリーナ,BCR295		メインアリーナ		サブアリーナ		サブアリーナ	

<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
		S	建築工事	最終版 2024年12月
<構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号		47	柱リスト、ブレースリスト 1:30, 1:50 (A1) 1:60, 1:100 (A3)	
酒寄 光一		株式会社 柴建築設計事務所		



鉄筋コンクリート大梁リスト	1:50	共通事項（特記なき限り） ・鉄筋材質は、D10～D16＝SD295A、D19～D25＝SD345、D29～D32＝SD390 とする。 ・幅止筋は D10@1000以内 とする。 ・備考欄LDの数値は RC柱型面からの主筋の定着長（余長含む）＜カットオフ長さ＞を示す。	D19以上の腹筋は、それが定着する部材内に 40d 以上アンカーのこと。また、継手については、梁主筋と同様とする。
鉄骨鉄筋コンクリート大梁リスト	1:50		

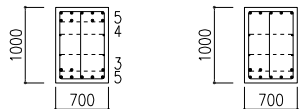
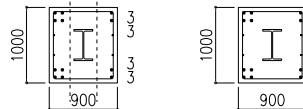
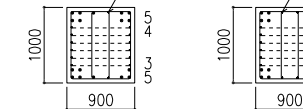
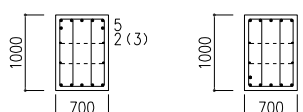
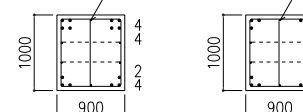
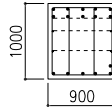
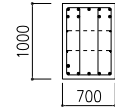
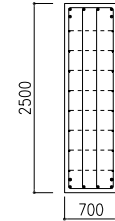
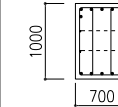
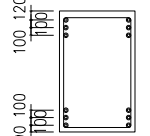
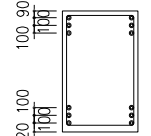
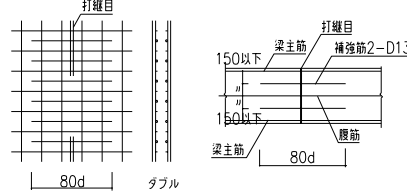
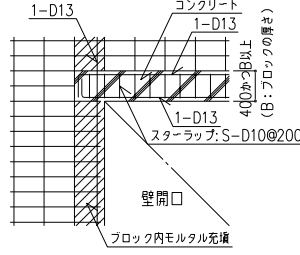
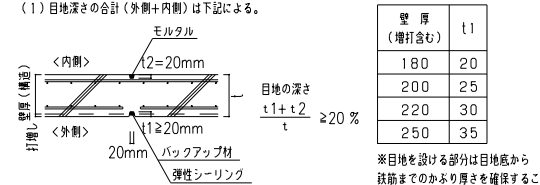
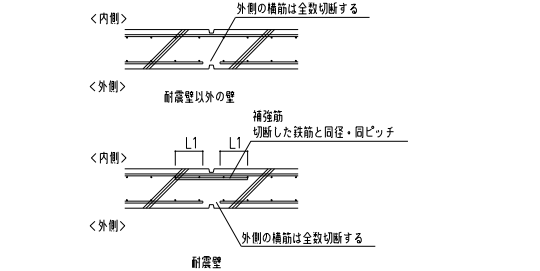
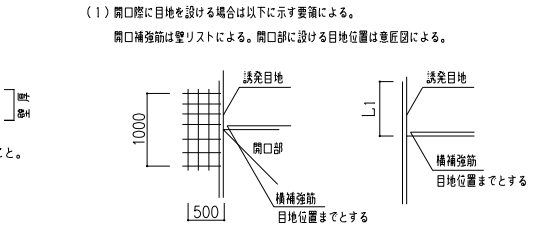
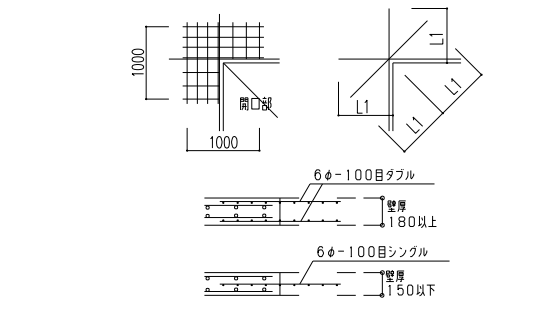
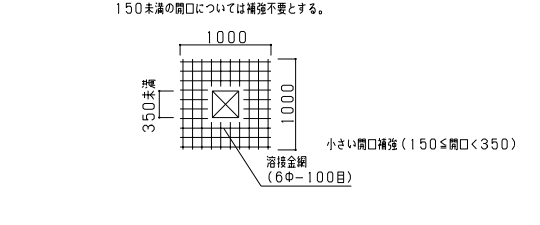
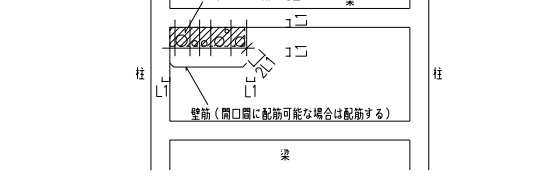
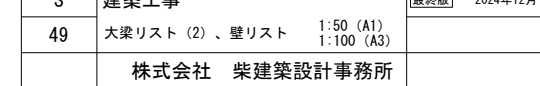
凡 例
スターラップ 4-D13@200 は
左図 Ⅳ-D13@200 を示す。

階	符 号	G1		G2		G2A	G3	G4 (G4A)		G5		G6		G7	
	位 置	C1端・中央	C2端	端 部 (G2A端)	中 央	全断面	全断面	端 部 (G4A端)	中 央 (中央・他端)	A3・A8通り端	中 央・他 端	C2通り端	中 央/Ys1・Ys2通り端	端 部	中 央
2FL	断 面														
	B x D	900 x 1000		900 x 1000		900 x 1000	900 x 1000	700 x 1000		700 x 1000		700 x 900~1000		700 x 900 (1000)	
	上 端 筋	4-D29		6-D29		6-D29	6-D29	10 (12)-D29		10-D29		6-D29		9-D29	
	下 端 筋	4-D29		6-D29		6-D29	4-D29	7 (8)-D29		7-D29		4-D29		8-D29	
	鉄 骨	-		H-500x200x10x16 (BH-500~600x200x12x16)		HY-600x250x12x28	-	-		-		-		-	
	あばら筋	3-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200	4-D13 @150	3 (4)-D13 @200		3-D13 @200		3-D13 @200		3-D13 @200	
	腹 筋	4-D10		4-D10		4-D10	4-D10	4-D10		4-D10		4-D10		4-D10	
	LD							G4のみ LD=2400							
	備 考	ひび割れ止め筋D19とする。		(ハンチ LH = 600)			ひび割れ止め筋D19とする。	() 内はG4Aを示す。						(ハンチ LH = 600)	

階	符 号	G8			G9 (G9A)			G21	G22		G23		G23A	
	位 置	C1端	中 央	C2端	C1端	中 央	C2端	全断面	端 部 (X4通り)	中 央	端 部 (X4通り)	中 央	C1端・中央	他 端
2FL	断 面													
	B x D	900x1000			900 x 1000			900 x 1000	900 x 1000 (1150)		900 x 1000		900 x 1000	
	上 端 筋	8-D29	8-D29	10-D29	6 (4)-D29	4-D29	7-D29	8-D29	8-D29	4-D29	8 (6)-D29	4-D29	4-D29	6-D29
	下 端 筋	6-D29	6-D29	6-D29	5-D29	6-D29	7 (5)-D29	7-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29
	鉄 骨	-			-			-	-		HY-600x250x16x32		HY-600x250x16x32	
	あばら筋	3-D13 @200			3-D13 @200			3-D13 @200	3-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200	
	腹 筋	4-D10			4-D10			4-D10	4-D10		4-D10		4-D10	
	LD													
	備 考	ひび割れ止め筋D19とする。			ひび割れ止め筋D19とする。 () 内はG9Aを示す。				(ハンチ LH = 900)		() 内はX4通り筋を示す。			

階	符 号	G24 (G24A)		G25 (G25A)		G26		G27		G28			G29,G26A,G27A,G35,G36	
	位 置	端 部	中 央	X9通り端	中 央・X10通り端	端 部	中 央	端 部	中 央	X4・X9通り端	中 央	Yn4通り端	端 部	中 央
2FL	断 面													
	B x D	900 x 800		900 x 1000		700 x 1000		700 x 1000		900x1000			700 x 1000	
	上 端 筋	6-D29	3-D29	6-D29	5 (3)-D29	7-D29	5-D29	7-D29	5-D29	9-D29	6-D29	9-D29	9-D29	6-D29
	下 端 筋	6-D29	6-D29	4-D29	4-D29	5-D29	7-D29	5-D29	7-D29	9-D29	8-D29	8-D29	8-D29	8-D29
	鉄 骨	HY-400x200x12x16 (BH-400x250x12x25)		-		-		-		-			-	
	あばら筋	2-D13 @200		4-D13 @200		3-D13 @200		3-D13 @200		4-D13 @150			4-D13 @150	
	腹 筋	4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		12-D19			12-D19	
	LD													
	備 考	X3-X4、Yn5端およびX-8-X9、Yn5端の腹筋は12-D19		ひび割れ止め筋D19とする。 () 内はG25Aを示す。						ひび割れ止め筋D19とする。				

<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭 <構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
		S	建築工事	最終版 2024年12月
		48	大梁リスト (1)	1:50 (A1) 1:100 (A3)
		株式会社 柴建築設計事務所		

鉄筋コンクリート大梁リスト 1:50		共通事項（特記なき限り）		壁リスト 1:50		共通事項（特記なき限り）						
鉄骨鉄筋コンクリート大梁リスト 1:50		鉄筋材質は、 D10～D16＝SD295A、D19～D25＝SD345、D29～D32＝SD390 とする。		鉄筋材質は、 D10～D16＝SD295A、D19～D25＝SD345 とする。		鉄筋材質は、 D10～D16＝SD295A、D19～D25＝SD345 とする。						
		幅止筋は D10@1000以内 とする。				巾止筋は 縦横共 D10@1000 以下とする。						
		備考欄LDの数値は RC柱型面からの主筋の定着長（余長含む）＜カットオフ長さ＞を示す。				鉄筋の継手は 重ね継手 とする。						
				凡 例 スターラップ 4～D13@200 は 左図 Ⅲ～D13@200 を示す。								
階	符 号	G31		G32		G33						
		位 置	Yn1・Yn4通り端	中 央・他 端	端 部	中 央	Y通り端					
		断 面										
		B x D	700 x 1000		900 x 1000		900 x 1000					
		上 端 筋	9－D29	5－D29	6－D29	6－D29	9－D29					
		下 端 筋	8－D29	8－D29	6－D29	6－D29	8－D29					
		鉄 骨	－		HY－400x200x12x19		－					
		あばら筋	3－D13 @200		2－D13 @200		4－D13 @150					
		腰 筋	4－D10		4－D10		12－D19					
		LD										
		備 考	Yn3－Yn4間の腰筋は12－D19				ひび割れ止め筋D19とする。					
階	符 号	G34		G35								
		位 置	端 部（Yn1通り端）	中 央	端 部	中 央						
		断 面										
		B x D	700 x 1000		900 x 1000							
		上 端 筋	7（8）－D29	5－D29	8－D29	6－D29						
		下 端 筋	5－D29	6－D29	6－D29	6－D29						
		鉄 骨	－		－							
		あばら筋	4－D13 @200		3－D13 @200							
		腰 筋	4－D10		4－D10							
		LD										
		備 考	（ ）内はYn1通り端を示す。		ひび割れ止め筋D19とする。							
階	符 号	CG1	CG2	CG3	CG21							
		位 置	全断面	全断面	全断面	全断面						
		断 面										
		B x D	900 x 1000	700 x 1000	700 x 2500	700 x 1000						
		上 端 筋	10－D29	9－D29	6－D29	7－D29						
		下 端 筋	6－D29	6－D29	6－D29	5－D29						
		鉄 骨	－	－	－	－						
		あばら筋	4－D13 @200	4－D13 @200	4－D13 @200	4－D13 @150						
		腰 筋	4－D10	4－D10	16－D10	4－D10						
		備 考										
大梁リスト共通事項		梁主筋位置を示す寸法は、原則として標準寸法を示す。										
		鉄筋のかぶり厚さの確保、芯鉄筋の位置及び施工性の検討を行い、必要に応じて着平の調整を行う。										
		仕上げに応じて 10～20mmの増打を行うこと（表記寸法は躯体寸法を示す）。										
		鉄骨鉄筋コンクリート造は二段目配筋を原則として150とする。										
		X方向（先行梁）		Y方向（後行梁）								
												
		壁またはスラブの打継ぎ部		梁の打継ぎ部								
		dは壁筋またはスラブ筋と同径とし、鉄筋間隔が1/2となるように補強する。		補強筋は2－D13とし、ピッチ150以下に配筋する。								
		〔注〕壁またはスラブの打継ぎ部の補強筋間隔が@100より過密、または@300より過少となる場合は、構造担当者・監理者と協議する										
打継ぎ部および後打ちコンクリート部の補強												
コンクリートブロック壁開口部補強筋要領図												
外壁ひび割れ誘発目地仕様												
												
開口部												
												
												
												
												
<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事										
<構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一		S	建築工事	1:50 (A1) 1:100 (A3)		最終版	2024年12月					
49		大梁リスト (2)、壁リスト		株式会社 柴建築設計事務所								

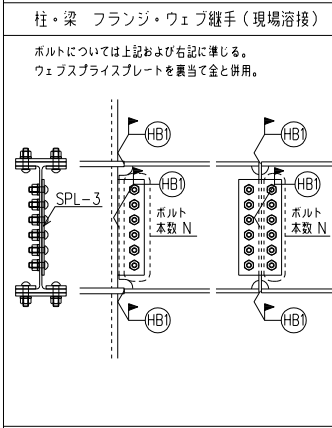
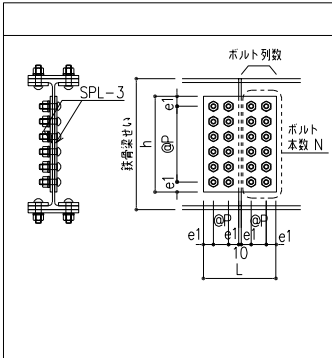
鉄骨大梁リスト	共通事項（特記なき限り）											
	○ 鉄骨材質は SN490B とする。			○ 露外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。			○ ピン接合部材に対して、接続される部材のフランジ幅が不足する場合は、PL突合せ溶接より			○ ※印付梁には、側面補強PLを設ける。仕様・要領は図示による。		
	○ H形鋼の使用区分は H: JIS規格H形鋼、HY: 外法一定H形鋼、BH: 組立H形鋼とする。			○ 接合部は「鉄骨構造標準接合部 SCSS-H97」に準じてボルトおよびスプライスプレートを用			フランジ幅を拡張のうえ、GPLを溶接する。			○ ピン接合部材の場合は継手リスト（ウェブ継手）による。バックリフPLは、ウェブSPLと		
	○ HからHY、もしくはHYからBHへの変更は、部材の寸法・板厚が変わらない範囲で可とする。			設けること。			なお、PLの材質・板厚は、取り付く大梁のフランジと同材質、同厚とする。			同厚・同材質とする。		

階	符号	RG1（メインアリーナ）		RG2（メインアリーナ）		SG1（メインアリーナ）		SG20,SG21（サブアリーナ）		SG30（サブアリーナ）		SG31（サブアリーナ）		SCG45（サブアリーナ）		SCG25（サブアリーナ）	
		屋根				全断面	H-400x400x13x21	全断面	HY-450x250x12x16	全断面	HY-450x250x12x16	端部	HY-800x300x14x25	元端部	HY-450x250x12x16	全断面	H-244x175x7x11（SN400B）
R階		全断面	○-700x40（STKN490B）	全断面	○-700x36（STKN490B）			全断面	HY-450x250x12x16	全断面	HY-450x250x12x16	中央	HY-800x300x14x22	先端部	HY-450x250x9x16		
2階								端部	HY-450x250x12x19	全断面	HY-450x250x12x16						
								中央	HY-450x250x12x16								

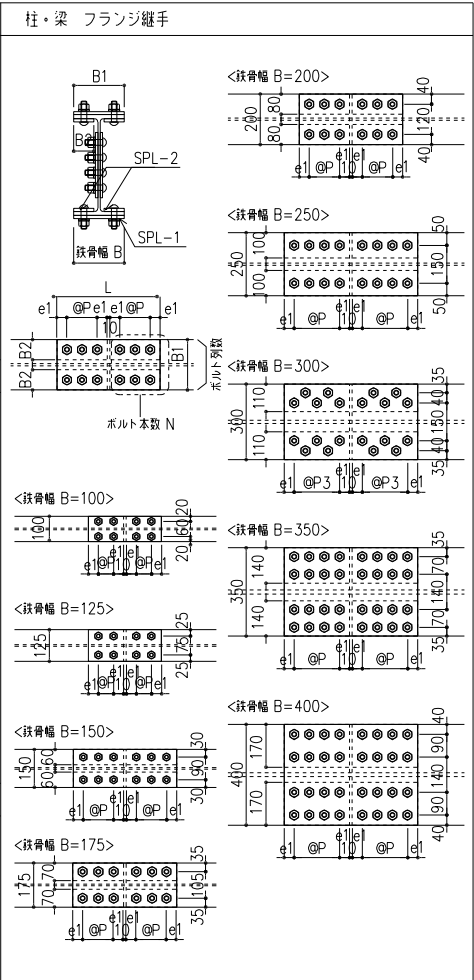
鉄骨継手リスト (フランジ・ウェブ)	共通事項（特記なき限り）			
	○ 継手は原則として「鉄骨構造標準接合部 SCSS-H97」による。		○ ボルトは、高力ボルト：S10T とする。	
	○ スプライスプレートは 母材と同材質 とする。		ただし、溶融垂鉛メッキの範囲に継手がある場合は F8T とする。	
	○ フィラープレートは SS400 とする。		○ 外装材取付ファスナー等の調整を行い、監督職員（設計者）の了承を得て	
	○ G13,DG1,DG11,DG12は現場溶接のため仮止めボルトとする。		継手形式を最終決定するものとする。	

材 質	部材メンバー （中央 断面）	フランジ継手								ウェブ継手							備 考
		ボルト			SPL-1		SPL-2		L	ボルト			SPL-3				
		径	列	本数N	板厚	B1	板厚	B2		径	列	本数N	板厚	h	L		
SN490	HY-400x200x12x16	M22	2	6	12	200	12	80	410	M22	1	4	9	260	170		
	HY-400x200x12x19	M22	2	8	12	200	16	80	530	M22	1	4	9	260	170		
	H-500x200x10x16	M22	2	6	12	200	12	80	410	M22	1	6	9	380	170		
	HY-450x250x9x16	M22	2	8	12	250	12	100	530	M22	2	10	9	320	290		
	HY-450x250x12x16	M22	2	10	16	250	16	100	650	M22	2	10	9	320	290		
	BH-400x250x12x25	M22	2	8	16	250	16	100	530	M22	1	4	9	260	170		
	HY-600x250x12x28	M22	2	12	19	250	19	100	770	M22	2	10	9	440	290		
	HY-600x250x16x32	M22	2	14	19	250	19	100	770	M22	2	12	9	500	290		
	HY-800x300x14x22	M22	2	12	16	300	19	110	620	M22	2	16	16	620	290		
	H-400x400x13x21	M22	4	16	12	400	16	170	530	M22	2	8	12	260	290		

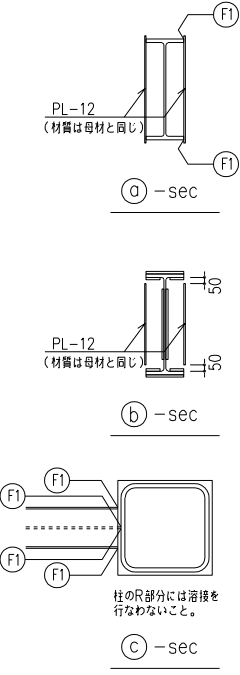
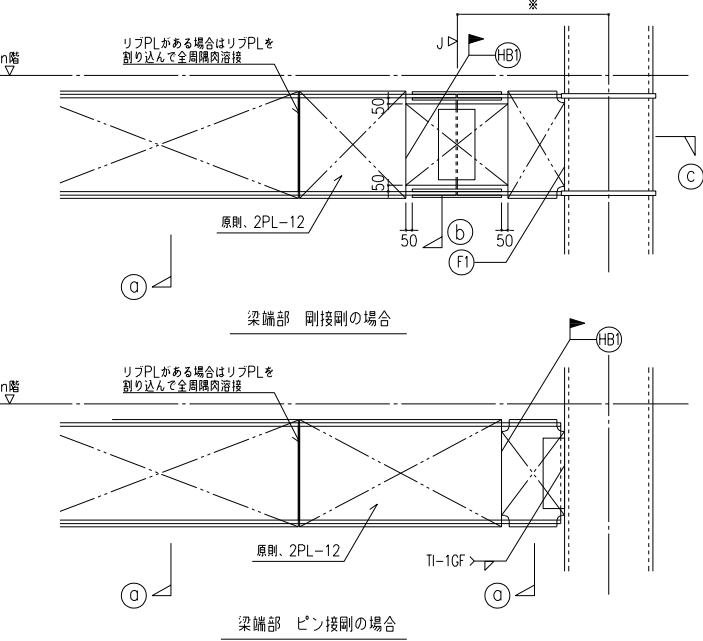
材 質	部材メンバー （中央 断面）	フランジ継手								ウェブ継手						備 考
		ボルト			SPL-1		SPL-2		L	ボルト			SPL-3			
		径	列	本数N	板厚	B1	板厚	B2		径	列	本数N	板厚	h	L	
SN400	H-300x150x6.5x9	M20	2	4	9	150	9	60	290	M20	1	3	9	200	170	
	H-450x200x9x14	M20	2	6	12	200	12	80	410	M20	1	5	9	320	170	
	H-150x150x7x10	M20	2	4	9	150	9	60	290	M20	1	2	9	80	290	
	H-200x200x8x12	M20	2	4	9	200	9	80	290	M20	1	2	9	140	170	



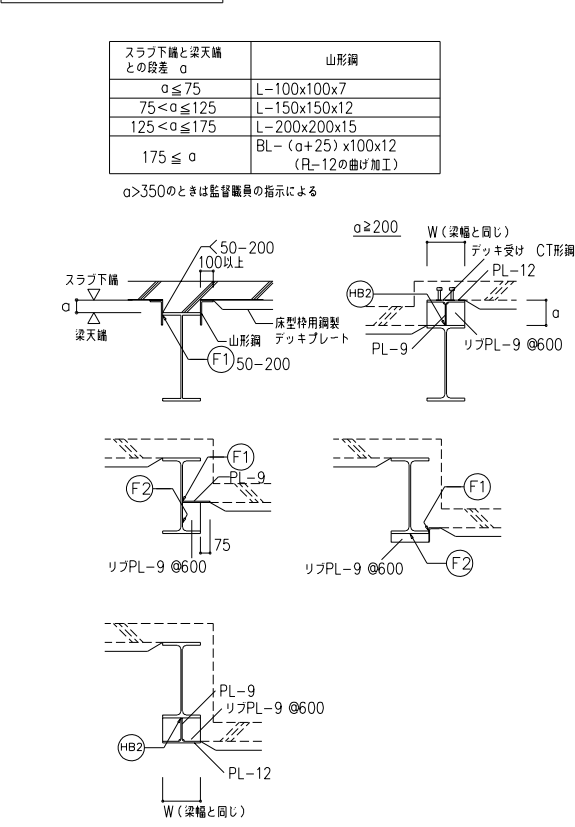
柱・梁 フランジ・ウェブ 共通			
	e1	P	P3
M16	40	60	45
M20	40	60	45
M22	40	60	45



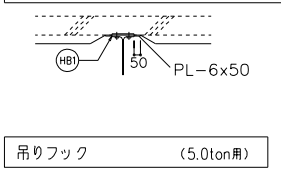
※印付梁 補強プレート要領図



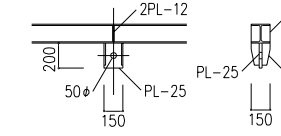
梁端差かさ上げ材要領



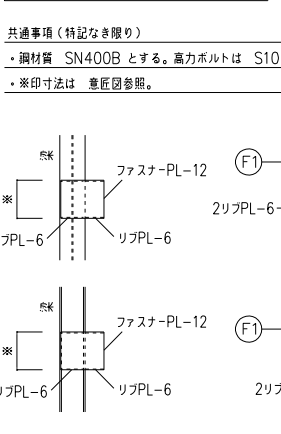
大梁継手部デッキ受け



吊りフック（5.0ton用）



EVプラケット詳細図 1:30



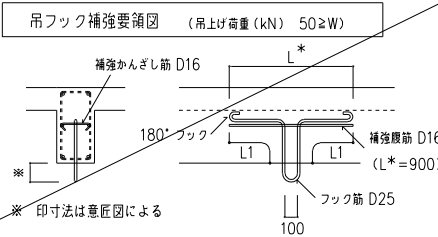
小梁リスト	1:50	共通事項（特記なき限り） ・鉄筋材質は、D10～D16＝SD295、D19～D25＝SD345 とする。	幅止筋は D10@1000以内 とする。
-------	------	---	----------------------

符 号	b1	b2	b3	b4		b5			b6 (b6A)
位 置	全断面	全断面	全断面	端 部	中 央	b2～b5・b9A・b12端	中 央	他 端	全断面
断 面									
B x D	300 x 500	350 x 600	350 x 800	350 x 800		350 x 800			350 x 900
上 筋 筋	3-D19	4-D22	4-D22	5-D22	4-D22	5-D22	4-D22	4-D22	4 (5) -D22
下 筋 筋	3-D19	4-D22	5-D22	4-D22	5-D22	4-D22	5-D22	5-D22	5-D22
あばら筋	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200		2-D10 @200			2-D10 @200
腹 筋	—	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10			4-D10
備 考									() 内はb6Aを示す

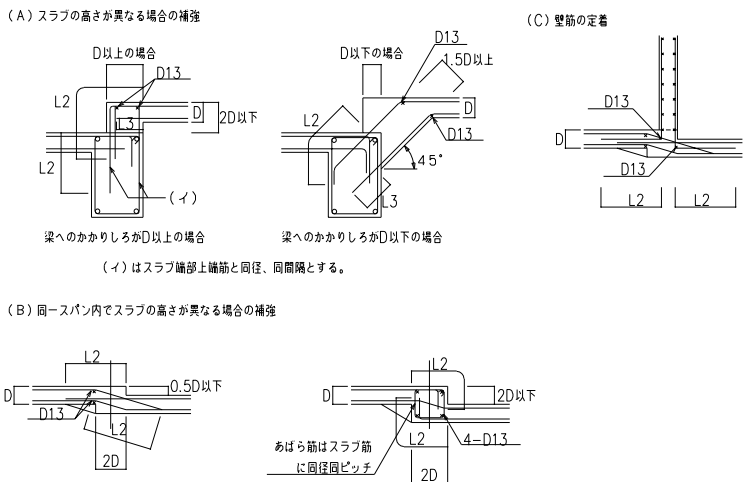
符 号	b7		b8			b9 (b9A)	b10		b10A
位 置	端 部	中 央	b2・b4・b7・b8・b10・b15端	中 央	他 端	全断面	端 部	中 央	全断面
断 面									
B x D	350 x 900		350 x 900			400 x 900	400 x 900		700 x 800
上 筋 筋	5-D22	4-D22	5-D22	4-D22	4-D22	4 (5) -D25	5-D25	4-D25	5-D25
下 筋 筋	4-D22	5-D22	4-D22	5-D22	5-D22	5-D25	4-D25	5-D25	5-D25
あばら筋	2-D10 @200		2-D10 @200			2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @150
腹 筋	4-D10		4-D10			4-D10	4-D10		4-D10
備 考						() 内はb9Aを示す			

符 号	b11			b12 (b15)		b12A	b14		fb1	fb2
位 置	b10・b11・cb2端	中 央	他 端	端 部	中 央	全断面	端 部	中 央	全断面	全断面
断 面										
B x D	400 x 900			600 x 900		600 x 900	600 x 900		300 x 2000	350 x 2000
上 筋 筋	5-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	8-D25	8-D25	3-D19	4-D22
下 筋 筋	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	7-D25	4-D25	8-D25	10-D25	3-D19	4-D22
あばら筋	2-D13 @200			2-D13 @200		2-D13 @200	4-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200
腹 筋	4-D10			4-D10		4-D10	4-D10		10-D13	10-D13
備 考										

符 号	fb3	cb1	cb2	cb21
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面				
B x D	700 x 2000	600 x 900	400 x 900	600 x 900
上 筋 筋	5-D25	6-D25	5-D25	6-D25
下 筋 筋	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25
あばら筋	2-D13 @150	2-D13 @200	2-D13 @150	4-D13 @150
腹 筋	10-D13	4-D10	4-D10	4-D10
備 考				



鉄筋コンクリートスラブ段差部配筋要領



床版リスト

- 特記なき限り
- ・直押入部分は スラブ天端打増 ⑩ を基本とする。
 - ・土に接する梁下地盤は 捨てコンクリート ⑦ 50、砕石 ⑦ 60 とする。
 - ・鉄筋継手は 重ね継手 とする。
 - ・床型枠用調製デッキプレートは、梁端部リブ形状に応じてカットすること。
 - ・床型枠用調製デッキプレートと鉄骨梁はアークスポット溶接または隣肉溶接とし、鎖付スタッドにて一体化する。

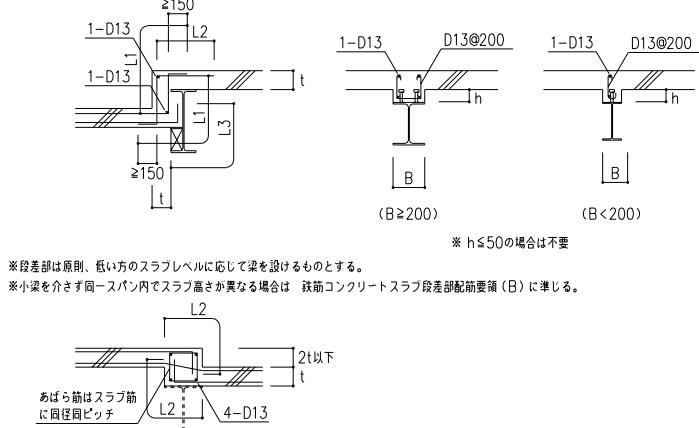
符 号	版 厚	層	短 辺 方 向（主筋方向）	長 辺 方 向（配力筋方向）	備 考
S15	150	上	D10・D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋 ※1
		下	D10 @200	D10 @200	
S16	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S17	150	上	D13 @200	D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D13 @200	
S18	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋 ※2
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S19	150	上	D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D10・D13 @200	
S21	180	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S22	180	上	D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S23	180	上	D13 @200	D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D13 @200	
S24	180	上	D13 @150	D13 @150	モチアミ配筋
		下	D13 @150	D13 @150	
S25	180	上	D13 @150	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @150	D10・D13 @200	
CS21	180	上	D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D10・D13 @200	
CS31	220	上	D13 @150	D13 @150	モチアミ配筋
		下	D13 @150	D13 @150	
CS4	先端 元端	150 200	上 下	D13 @150 D10・D13 @200	モチアミ配筋

底板リスト

- 特記なき限り
- ・土に接する梁下地盤は 捨てコンクリート ⑦ 50、砕石 ⑦ 60 とする。
 - ・鉄筋継手は 重ね継手 とする。

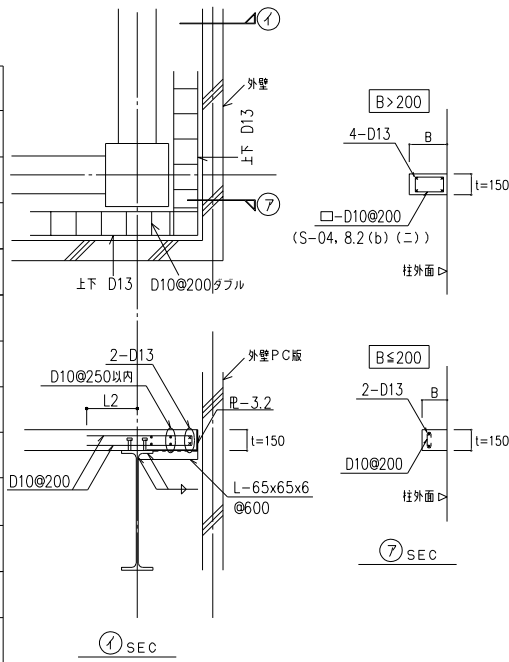
符 号	版 厚	層	短 辺 方 向（主筋方向）	長 辺 方 向（配力筋方向）	備 考
FS11	300	上	D13・D16 @200	D13・D16 @200	モチアミ配筋
		下	D13・D16 @200	D13・D16 @200	
FS21	300	上	D13・D16 @200	D13・D16 @200	モチアミ配筋
		下	D13・D16 @200	D13・D16 @200	
FS31	300	上	D16 @200	D16 @200	モチアミ配筋
		下	D16 @200	D16 @200	
		上			
		下			

鉄骨部分スラブ段差配筋要領



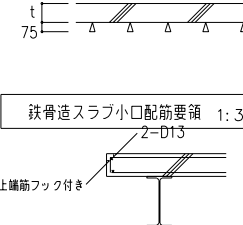
※段差部は原則、低い方のスラブレベルに応じて梁を設けるものとする。
※小梁を介さず同一スパン内でスラブ高さが異なる場合は 鉄筋コンクリートスラブ段差部配筋要領 (B) に準じる。

鉄骨柱まわり方持スラブ配筋要領



床型枠用調製デッキプレート

コンクリート厚 t mmは 床版リストによる。
床型枠用調製デッキプレートの使用可能厚は、2層以上とする。
床型枠用調製デッキプレート厚は t=1.2mmを標準とする。
受注者は施工に先立ち、施工の安全性を確認すること。
めっきの付着量はZ12相当とする。



床端部コンクリート止め要領

※床の端部が梁フランジ端部より外側にくる場合は
下記要領でコンクリート止め部材及び補強部材を設ける事。
コンクリート止め部材は 亜鉛メッキZ12 とする。
ポールサイド部外周の床型枠は本図による。

コンクリート止め部材 t=4.5

プレキャストRC段床板工事特記仕様書

1. 一般事項

適用の範囲	本仕様書は、プレキャストRC段床板（以下、PCaRC段床板）の製作に関する部分について適用する。本仕様書、または設計図書に指示されていない事項は、下記によること。また、これらに指示されていない事項は、監理者の指示による。 ・建築基準法、同施行令 ・国総研・建築研究所監修 「プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例」（2009年版） ・日本建築学会 「鉄筋コンクリート（以下、RC）構造設計規準・同解説」（2018年版） ・日本建築学会 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」（2022年版） ・日本建築学会 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS10 プレキャスト鉄筋コンクリート工事」（2013年版）
施工計画	1) 工事着手前にPCa部材の製作、運搬、ストック等の順序、方法及び工程等について製作・施工計画書を作成し、監理者の承認を得ること。 2) 仮設道路は、部材搬入、搬出用重機送行路として、十分な耐力が得られるように仮設材を敷き込むなど補強計画を行わなければならない。

2. 材料

セメント	JIS R 5210 による普通ポルトランドセメントを原則とするが、プレキャスト部材については、早強ポルトランドセメントを使用してもよい。		
混和材	コンクリート中に混和材を用いる場合は、その品質、使用量等について監理者の承認を得ること。		
鉄筋	異形鉄筋及び溶接金網は、下記の規格に適合するものを使用すること。		
	・異形鉄筋 (D10～D16)	JIS G 3112 (SD295)	
	・溶接金網 (4φ～6φ)	JIS G 3551	
骨材	骨材は原則として下記による。		
	使用部分	細骨材	粗骨材
	PCaRC段床板	砂又は砕砂 5.0mm以下	砂利又は碎石 20mm以下

3. 型枠工事

PCaRC段床板の型枠は、鋼製型枠とする。なお、振動打ちを行なうので、これに耐えるよう充分に留意すること。

4. 鉄筋工事

- 鉄筋は正確な配置をして、コンクリート打設時に崩れないよう強固に組み立てなければならない。
- PCaRC段床板の鉄筋は、全て重ね継手とする。
- PCaRC段床板の鉄筋かぶり厚さは、下記による。

PCaRC段床板	設計かぶり厚さ	25 (mm)
	製作かぶり厚さ	30 (mm)

5. コンクリート工事

品 質

コンクリートの品質は下記とし、その調合は、試験練りにより定めることとする。

使用部分	設計基準強度	スランプ
PCaRC段床板	50 (N/mm ²)	12±2.5 (cm)
踏 石	30 (N/mm ²) 以上	—

打 設

コンクリートの打設にあたっては、鉄筋、型枠が移動、損傷しないように注意すること。

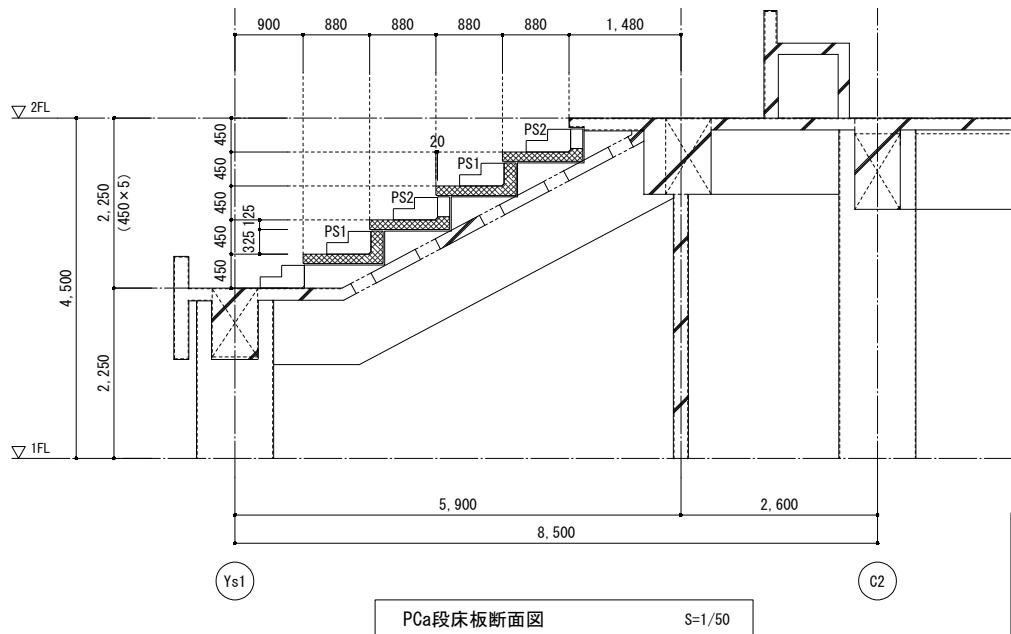
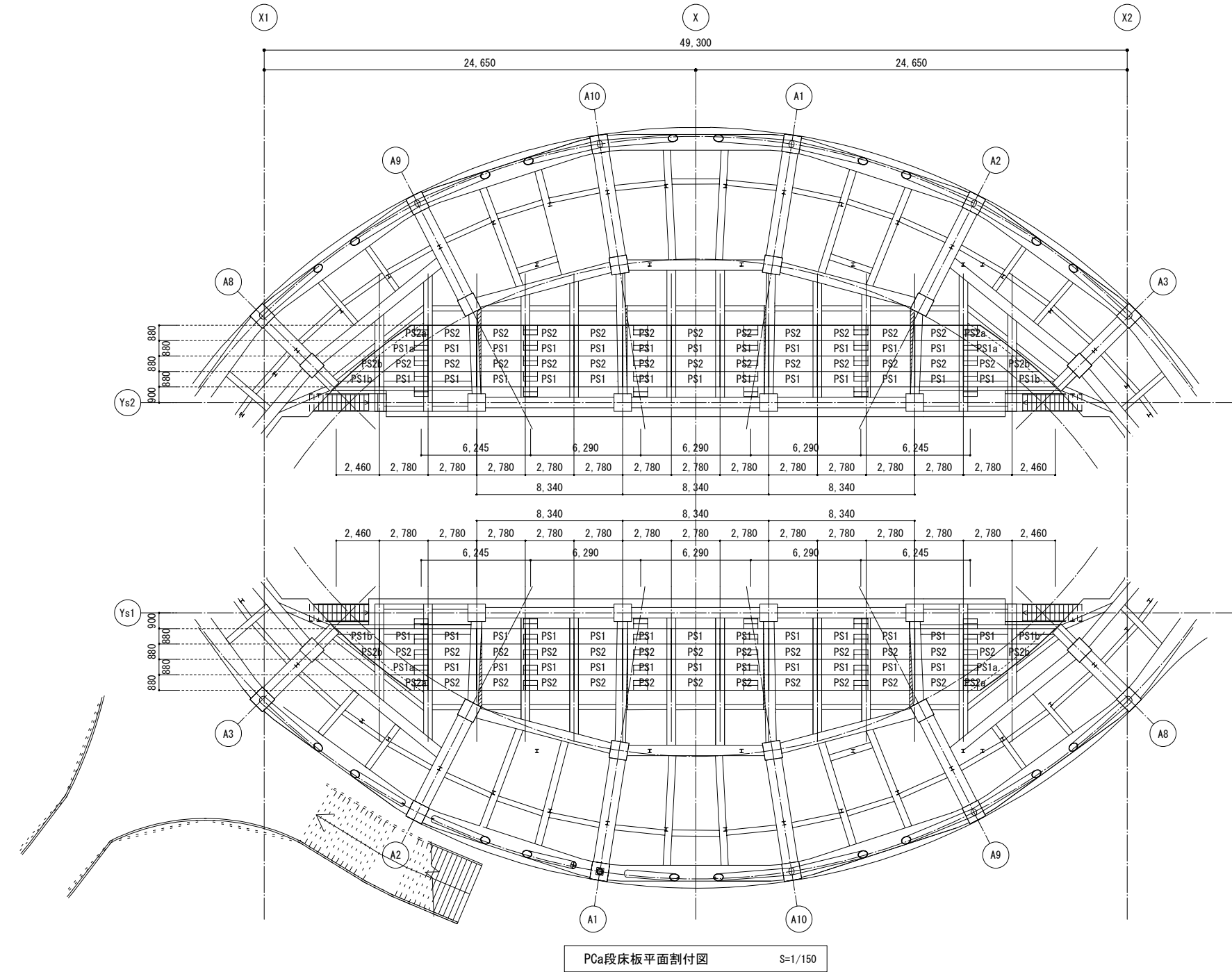
6. 検査

- 材令28日の圧縮強度が、所定の強度に達しない部材については、不合格とする。
- PCaRC段床板の検査は、型枠寸法及び外観について行い、検査の結果、製品の不良箇所が修正可能と認められたときは、必要な補修を行ない再検査を受けることができる。なお、監理者は修正不可能なときに取替を命ずることができる。
- PCaRC段床板の寸法の許容差は、下記の通りとする。

項 目	PCaRC段床板
長 さ	±5 (mm)
断 面	±3 (mm)

7. 架設及び据付け

- 取付け作業及び接合は、それぞれ専任技術者を定め、その指示に従って行う。
- PCaRC段床板の据付けは、所定位置に正確に据え付ける。また、PCaRC段床板の固定は、温度変化などによる変形を吸収できるように、固定端と可動端を設ける。
- 躯体側の精度は±5mm以内とし、PCaRC段床板の受梁天端は、金ゴテ押えなどに平滑にすること。



＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒 寄 光一		S 53	建築工事 PCa段床板特記仕様書、平面割付図、断面図 株式会社 柴建築設計事務所
		S=1: 50, 150 (A1) S=1: 100, 300 (A3)	最終版 2024年12月

PCa段床板配筋リスト

 $S=1/10, 20$

符号

位置

断面図

全断面

PS1

位置

端部

中央

PS2

位置

全断面

PS1a

PS1b

PS2a

PS2b

符号	L1	L2
PS1a	3,292	1,920
PS1b	2,453	1,319
PS2a	2,174	678
PS2b	1,526	283

※部材寸法については、現場躯体図で確認のうえ確定すること。

平面図

配筋図

形状図

配筋図

形状図

配筋図

形状図

正面図

配筋図

形状図

配筋図

形状図

配筋図

形状図

PCa段床板形状詳細図

 $S=1/10$ [illegible]

PC踏み石配筋リスト

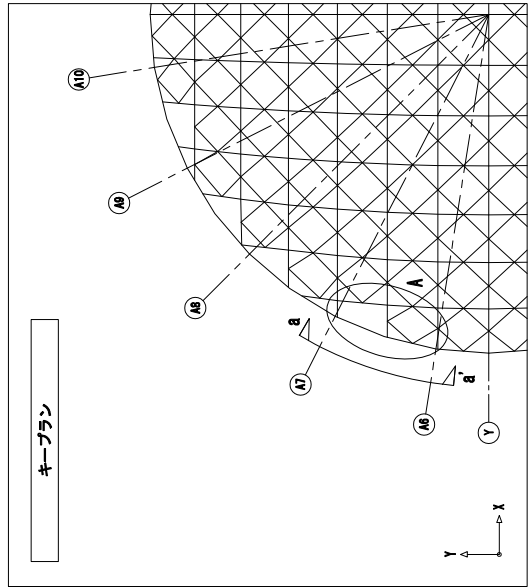
$S=1/10, 20$

断面図	平面図

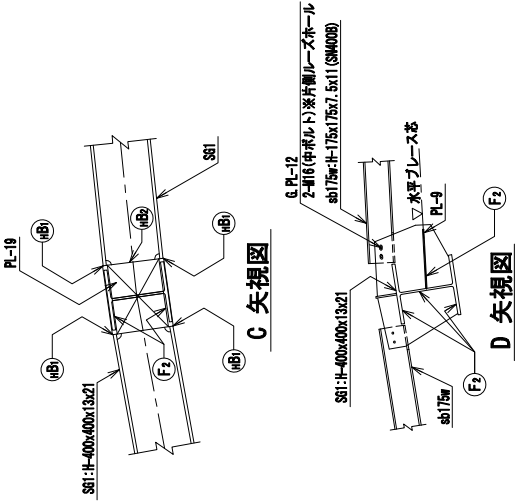
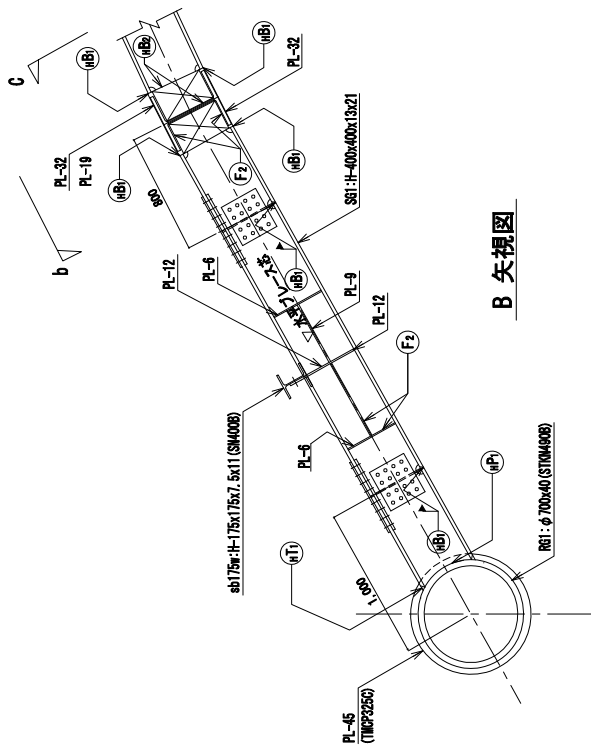
<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭 <構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一	06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
	S	建築工事	最終版 2024年12月
	54	PCa床板リスト	S=1:10, 20 (A1) S=1:20, 40 (A3)
	株式会社 柴建築設計事務所		

PCa段床板とRC段梁の納まり要領 S=1/10, 1/5		PCa段床板先端の取り付け要領 (PCa+PCa) S=1/5		PCa段床板と片持ちスラブの取り付け要領 S=1/5	
PCa段床板目地部詳細要領 S=1/10, 1/5		PCa段床板現場打ち部取り付け要領 (PCa+現場打ち) S=1/5			

<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭 <構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事 S 建築工事 55 PCa詳細図 S=1:10, 5(A1) S=1:20, 10(A3) 株式会社 柴建築設計事務所		最終版 2024年12月
--	--	--	--	------------------------------------



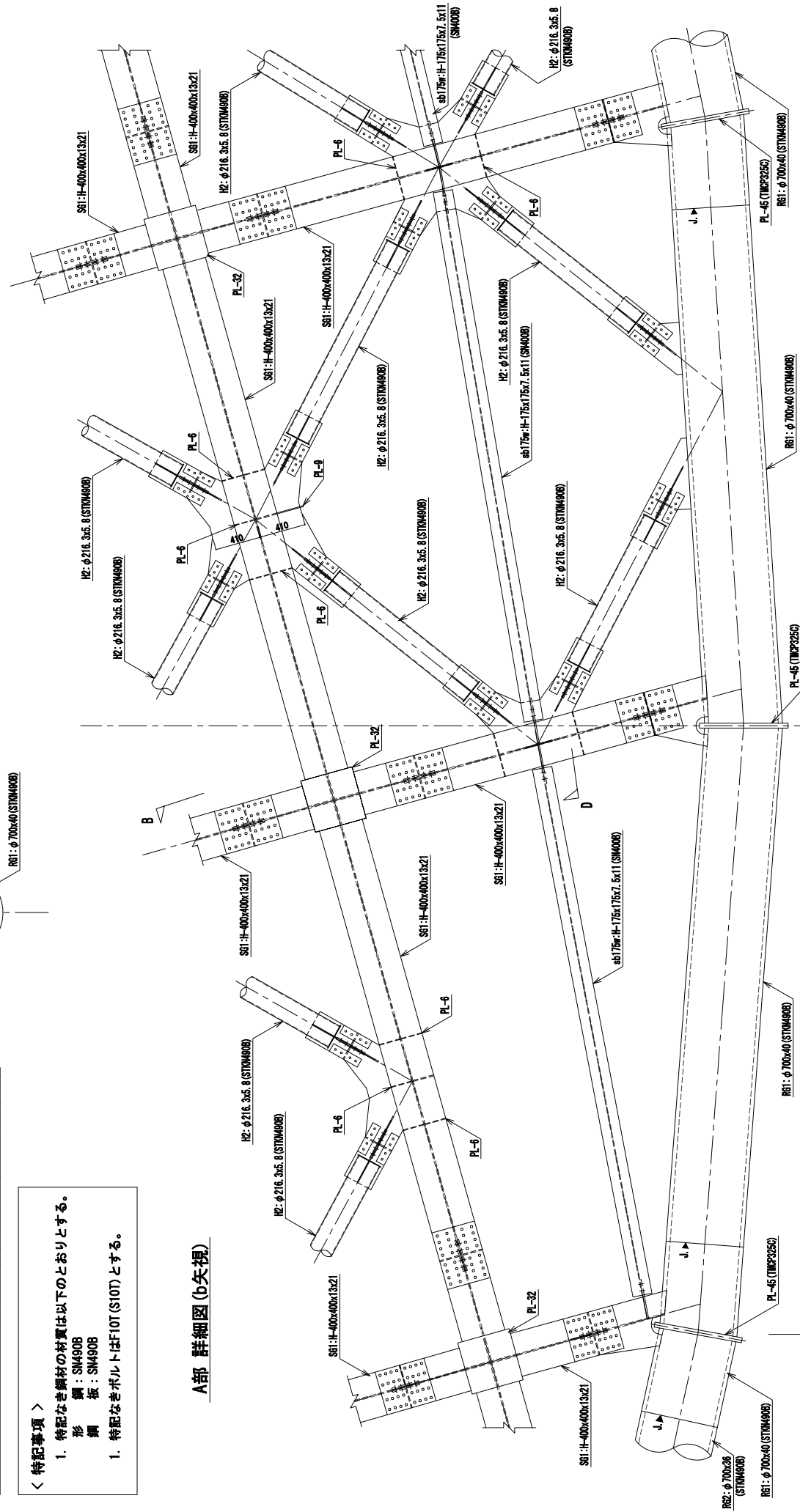
＜特記事項＞
1. 特記なき鋼材の材質は以下のとおりとする。
形 鋼：SN490B
鋼 板：SN490B
1. 特記なきボルトはF10T(S10T)とする。



B 矢視図

D 矢視図

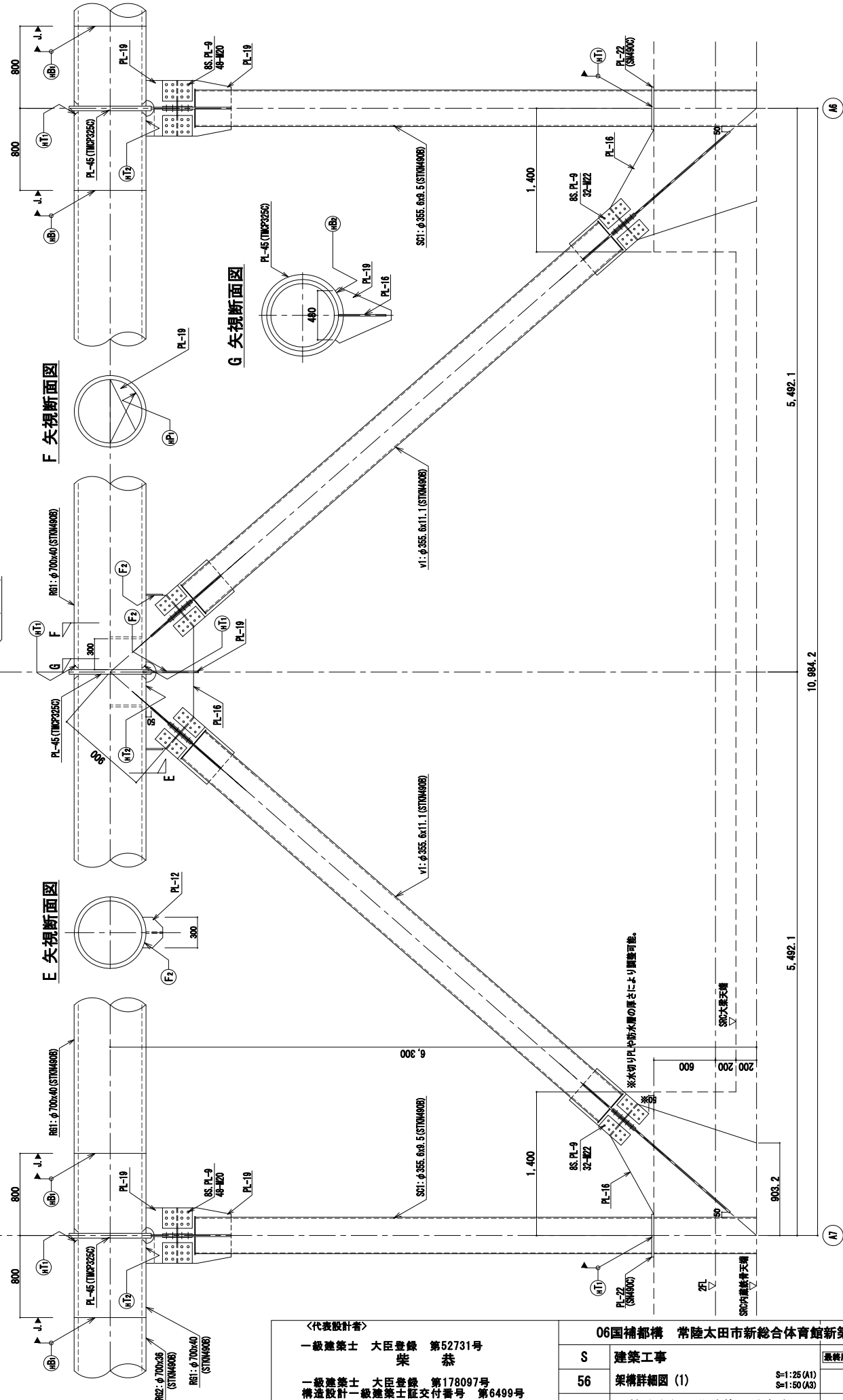
A部 詳細図 (b矢視)



E 矢視断面図

F 矢視断面図

G 矢視断面図



＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士監交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事
S 建築工事
56 架構詳細図 (1)
株式会社 柴建築設計事務所
S-1:25 (A1)
S-1:50 (A3)
最終版 2024年12月

a-a' 区間 軸組図

鉄骨詳細図 S=1/25

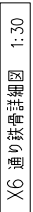
5,492.1

10,984.2

5,492.1

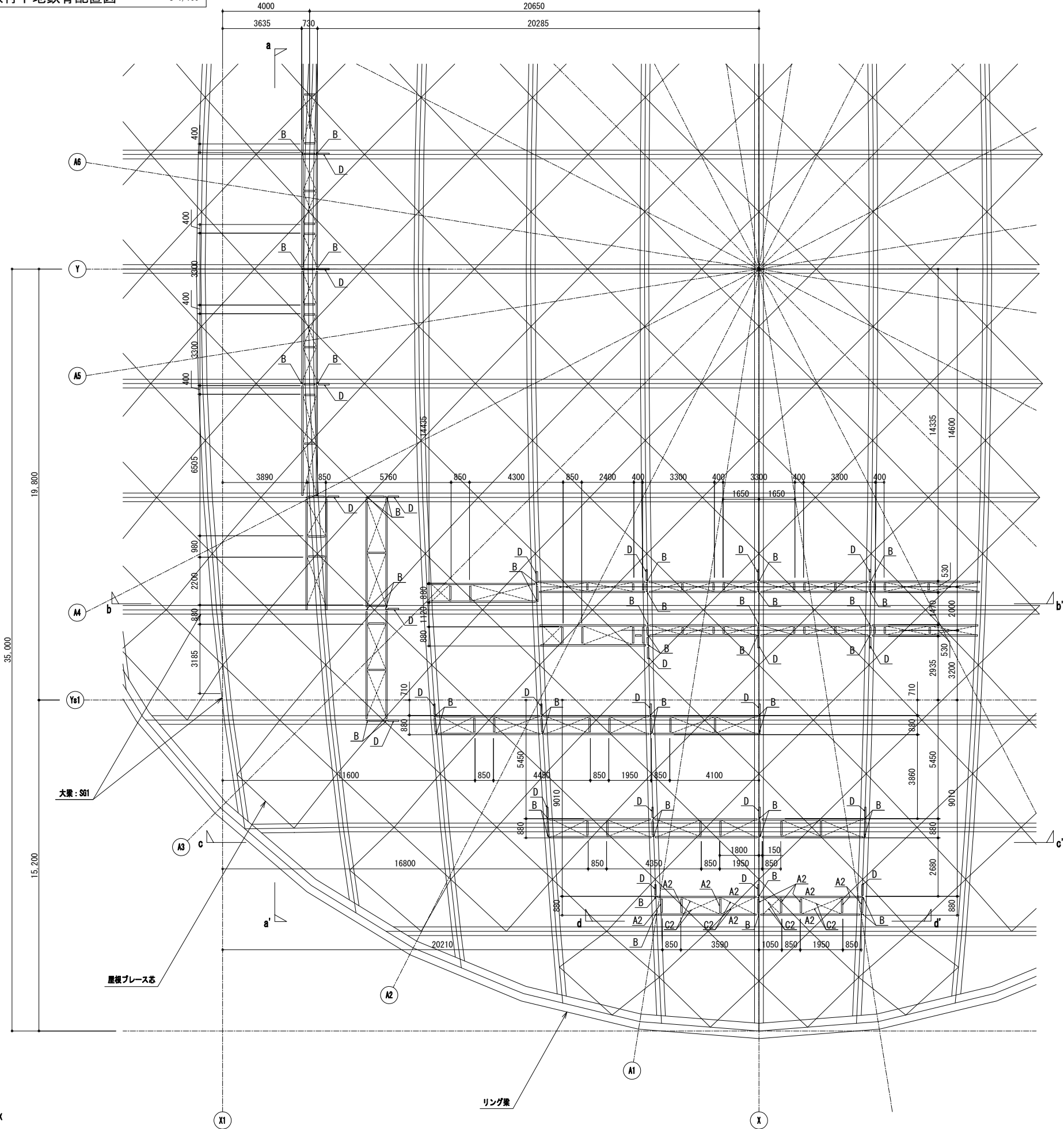
A7

A6



機器取付下地鉄骨配置図

S=1/100



部材リスト

	部材サイズ	材質	備考
A1	C-125x60x6x8	SS400	
A2	C-150x75x6.5x10	SS400	
B	L-65x65x6	SS400	
C1	M12 (ターンバックル付き)	SS400	
C2	M14 (ターンバックル付き)	SNR400B	
D	L-65x65x6	SS400	

＜ 特記事項 ＞

- 特記なき部材は以下の通りとする。
小 梁 : A1 (————— で表す。)
ブレース : C1 (- - - - - で表す。)
- 機器取付下地鉄骨の配置詳細寸法は意匠図を参照。

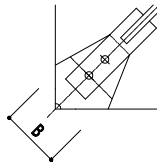
部 材	C1:M12			C2:M14		
形 状						
羽子板	FB-6x50			FB-6x50		
G. PL	6			6		
H. T. B	1-M16			1-M16		
B	50			50		
必要溶接長さ (最小値)	53			72		
Le	Le/2+2S	Le/4+2S				

ブレース接合部要領

(丸鋼)

- 丸鋼の材質はSNR400B (M12の場合はSS400) とする。
- 羽子板ボルトの板の材質はSN400Bとする。
- ガセットプレートの材質はSN400Bとする。
- 接合用のボルトはHTB F10Tとする。
- 丸鋼は、支圧接合であるので、接合部の摩擦処理を行わなくてもよい。
- 丸鋼ブレースの既製品を用いる場合の羽子板形状は、JIS A 5540の規定を満足したメーカー寸法による。
- 鉛直・水平ブレースについては認定を受けた商品を使用する場合は、本図によらないで認定の条件による。

・ガセットプレートの必要幅



B: ガセットプレートの必要幅

・すみ肉溶接サイズ (S)

G. PL厚さ	6	9	12
S	6	8	10

・ボルト孔径 (支圧接合)

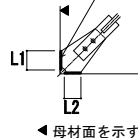
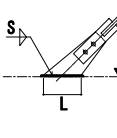
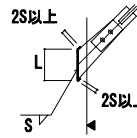
取付けボルトサイズ	M16	M20	M22
G. PLボルト孔径	18	22	24

- 必要溶接長 (L=溶接長, Le=有効溶接長)
溶接長さは、必要溶接長さ (最小値) 以上を確保すること。

TYPE①
(重ね継手)

TYPE②
(T 継手)

TYPE③
(T 継手)



$L \geq L_e$ $L \geq \frac{L_e}{2} + 2S$ $L1, L2 \geq \frac{L_e}{4} + 2S$

※TYPE①は、母材 (柱梁) への偏心曲げを考慮して採用すること。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号

柴 恭

＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号

酒 寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S

建築工事

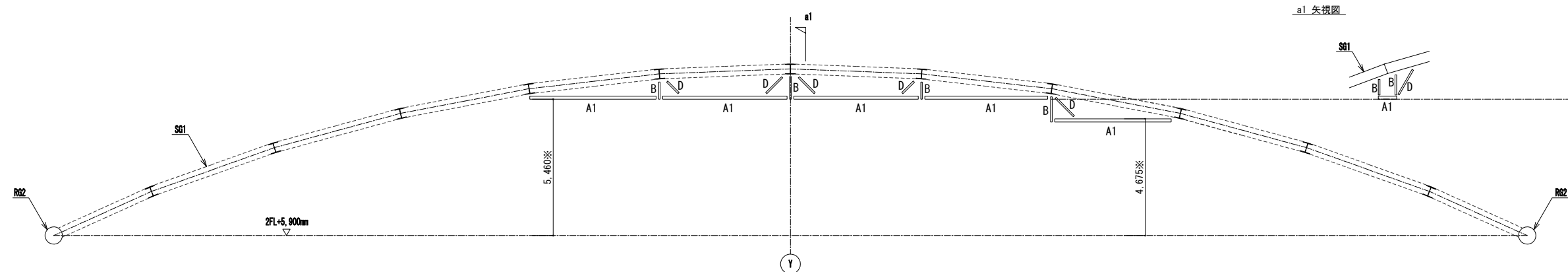
最終版 2024年12月

61

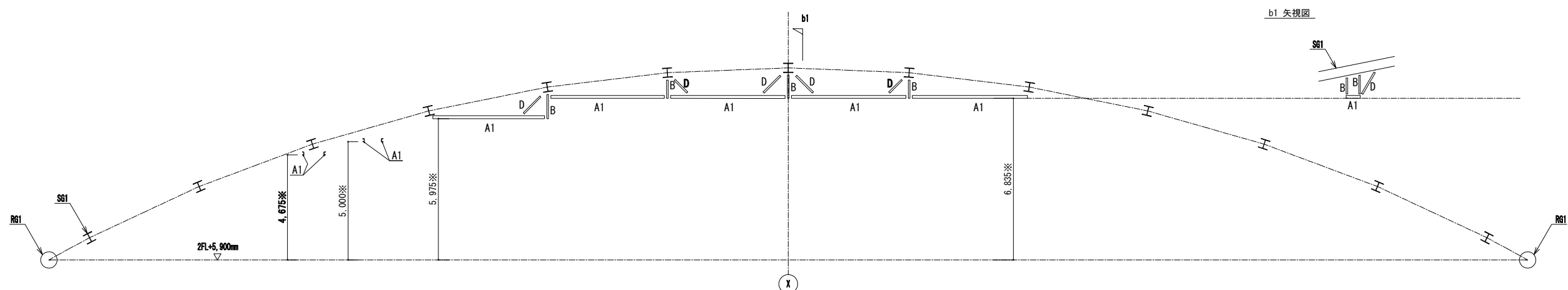
各部詳細図 (4)

S=1:100 (A1)
S=1:200 (A3)

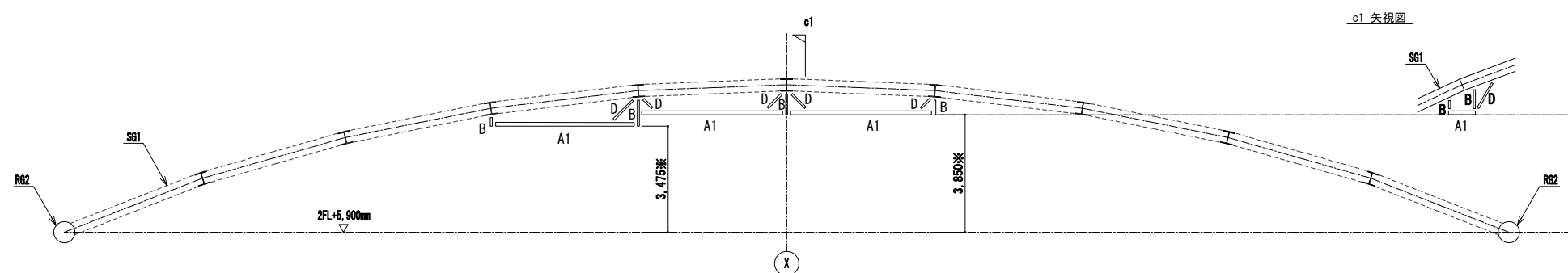
株式会社 柴建築設計事務所



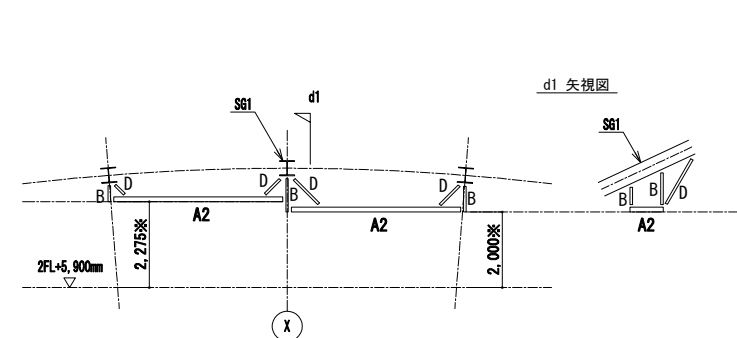
a-a' 断面 軸組図 S=1/100



b-b' 断面 軸組図 S=1/100



C-C' 断面 軸組図 S=1/100



d-d' 断面 軸組図 S=1/100

＜ 特記事項 ＞

1. ※付き寸法は意匠図を参照。

〈代表設計者〉
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭

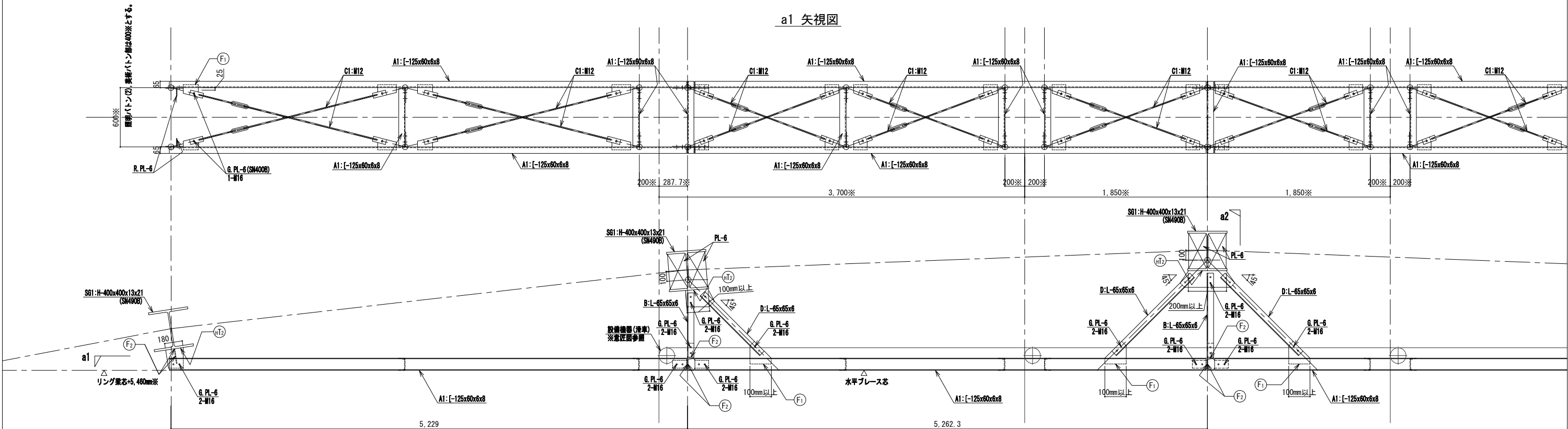
〈構造設計者〉
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S	建築工事	
62	各部詳細図 (5)	S=1:100 (A1) S=1:200 (A3)

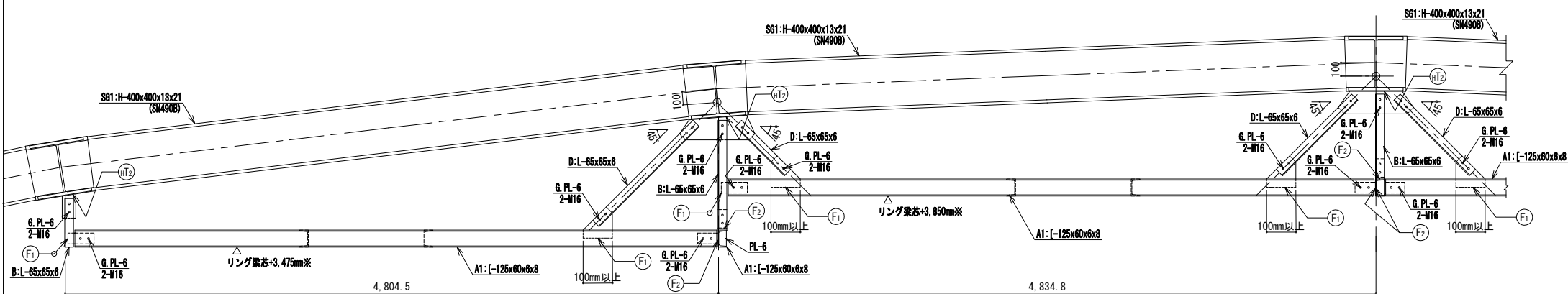
株式会社 柴建築設計事務所

最終版 2024年12月

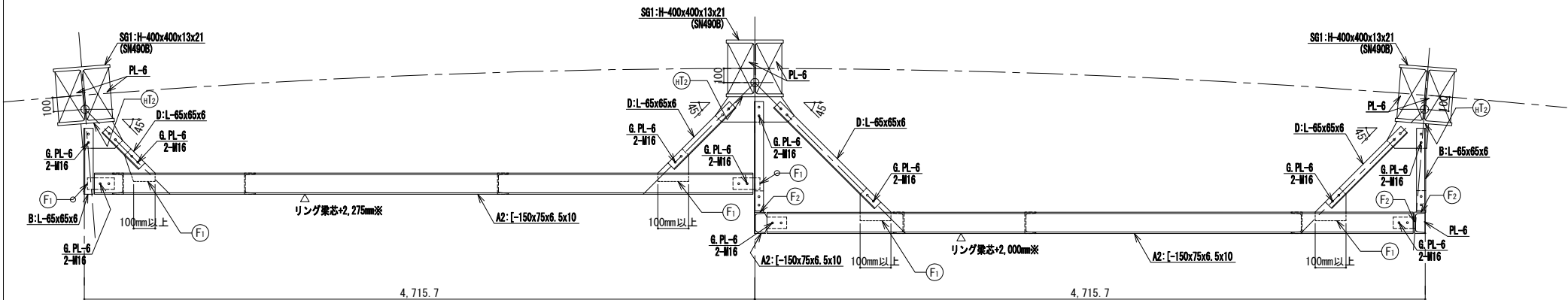
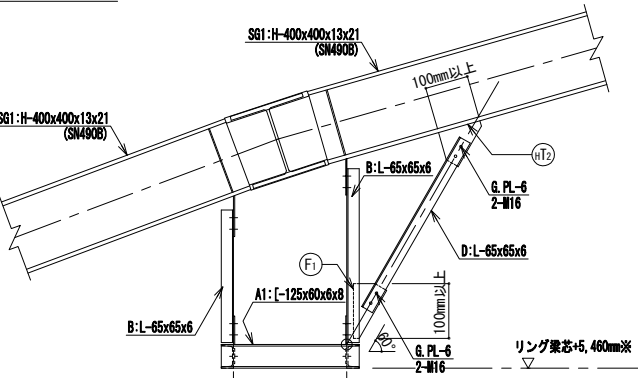


a-a' 断面 詳細図

S=1/20



a2 矢視図



＜ 特記事項 ＞

- 特記なき形鋼・プレートの材質は SS400 とする。
- 特記なきボルトの材質は F10T (S10T) とする。
- ※付寸法は意匠図を参照。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号

柴 恭

＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号

酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S

建築工事

最終版

2024年12月

63

各部詳細図 (6)

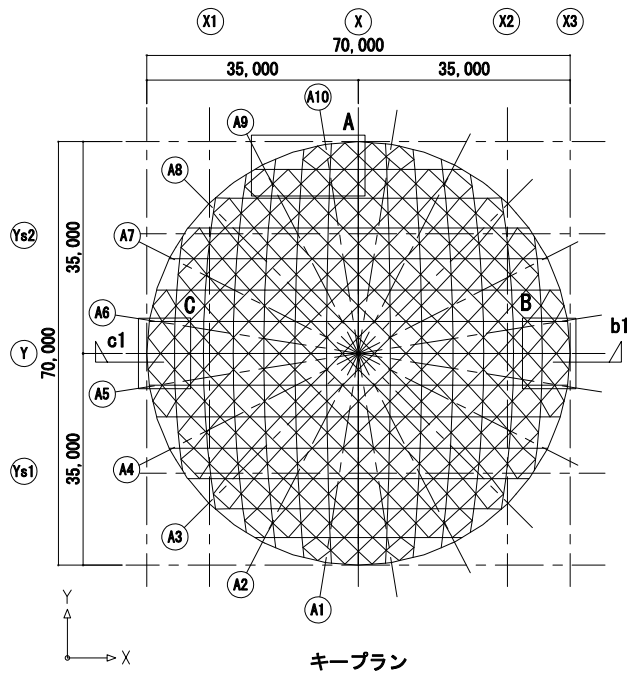
S=1:20 (A1)

S=1:40 (A3)

株式会社 柴建築設計事務所

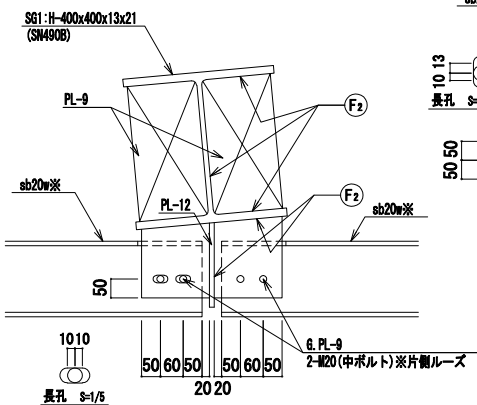
< 特記事項 >

- 特記なき形鋼・プレートの材質は SN400B とする。
- 特記なきボルトの材質は F10T (S10T) とする。
- ※付き寸法・部材は意匠図を参照。

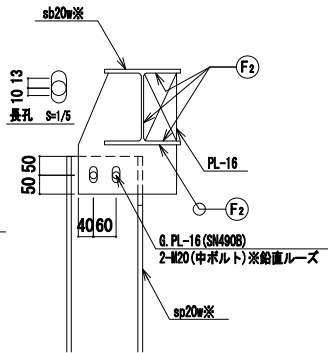


キープラン

a1 矢視図

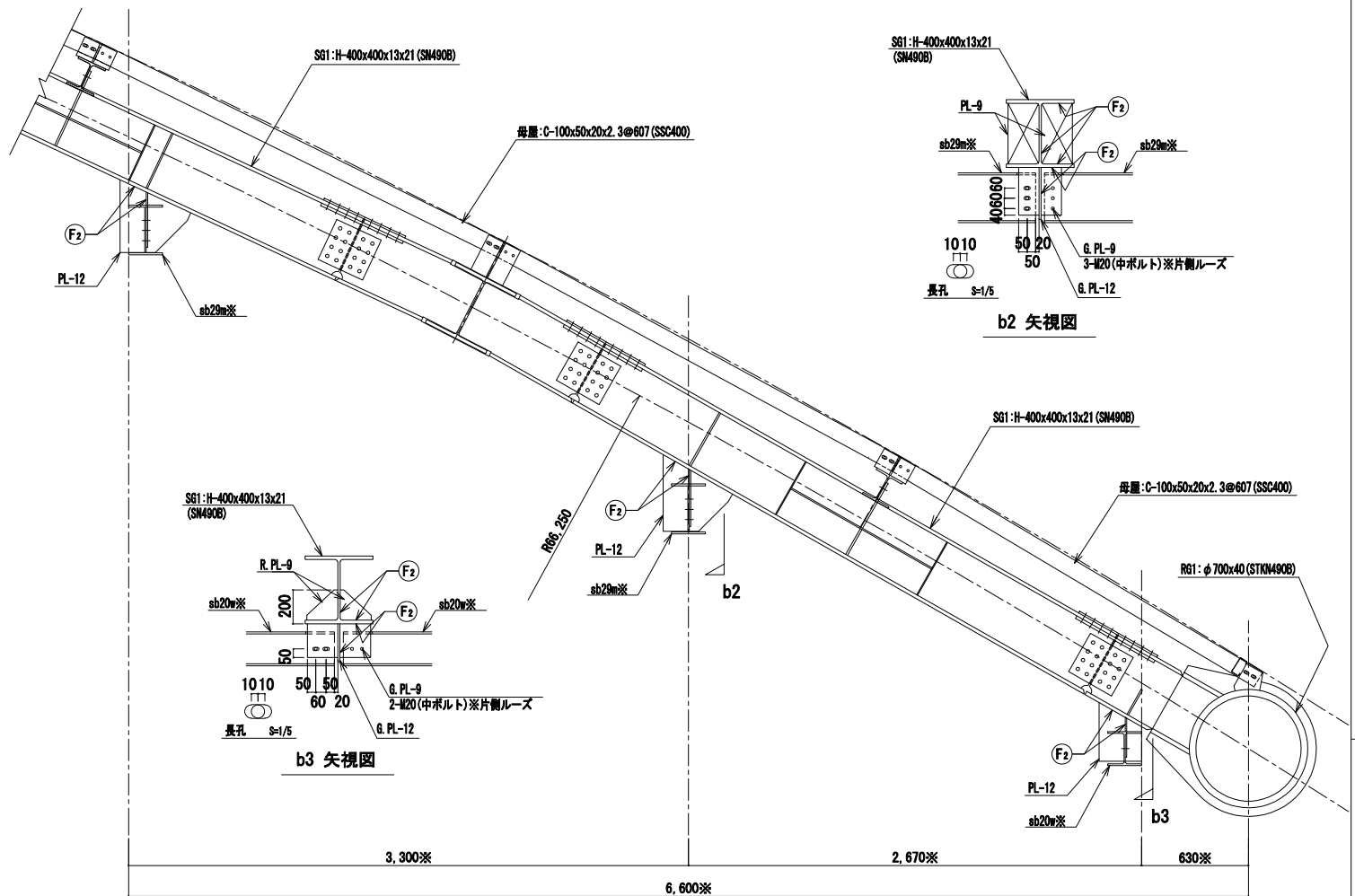


a2 矢視図



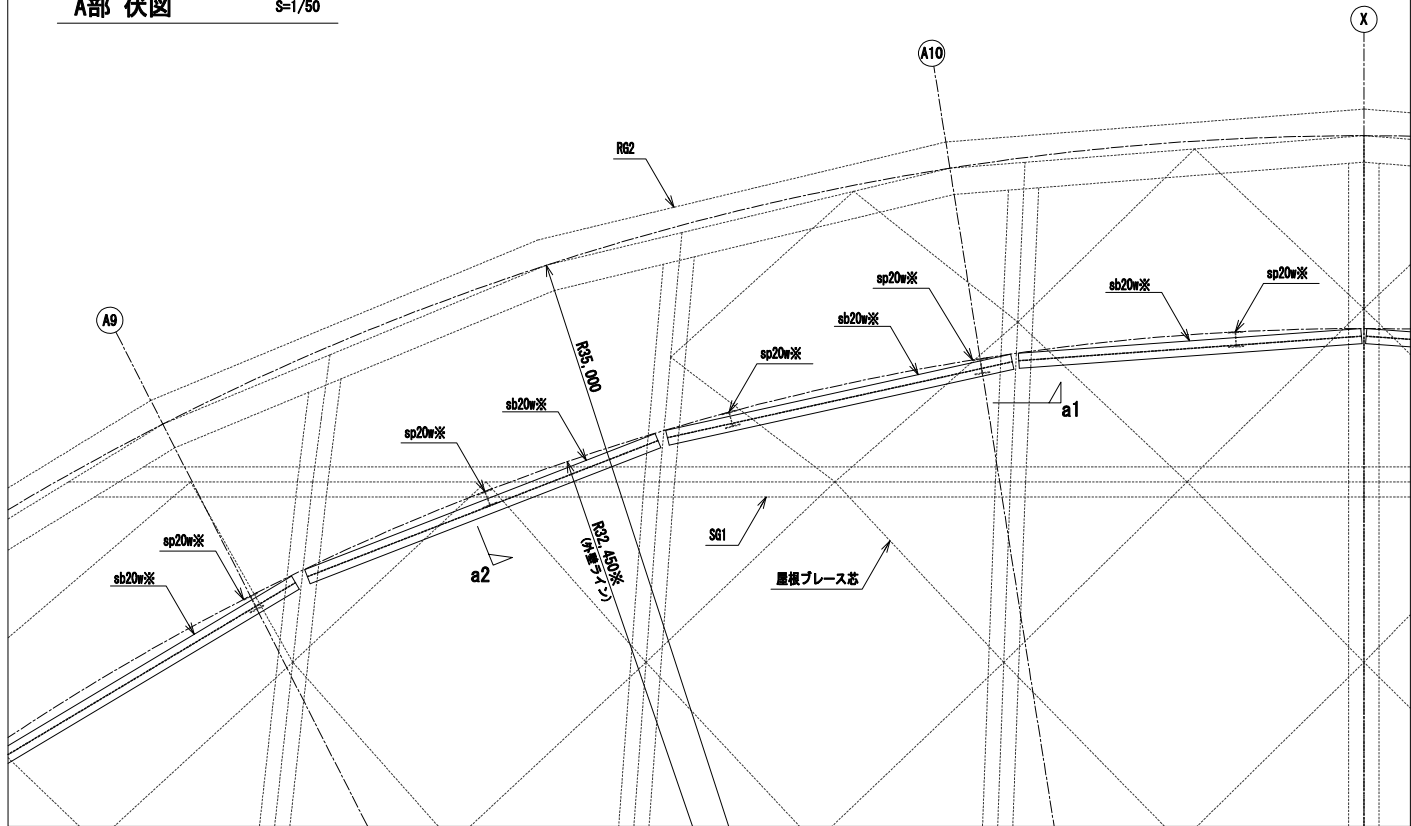
B部 b1断面図

S=1/20



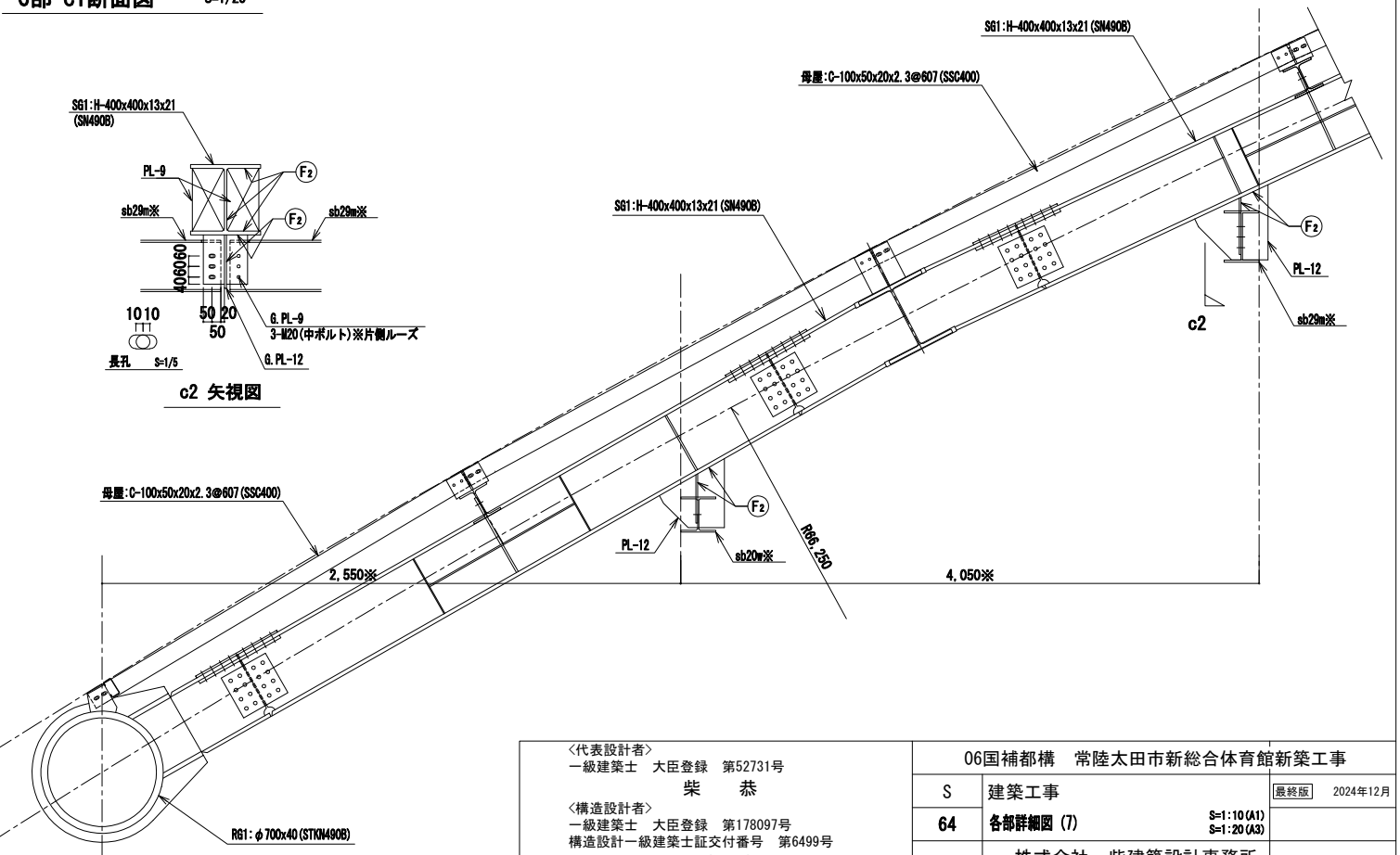
A部 伏図

S=1/50



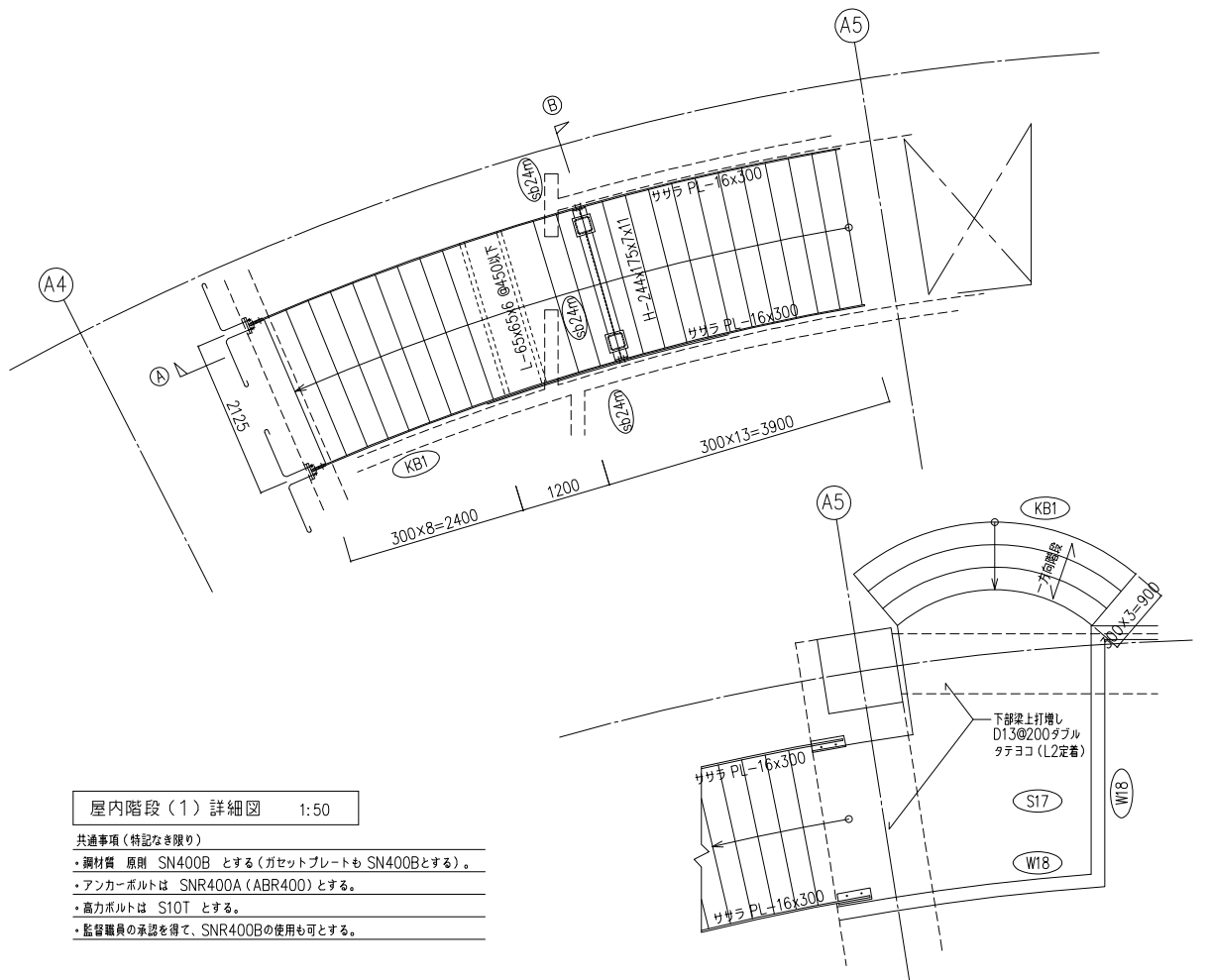
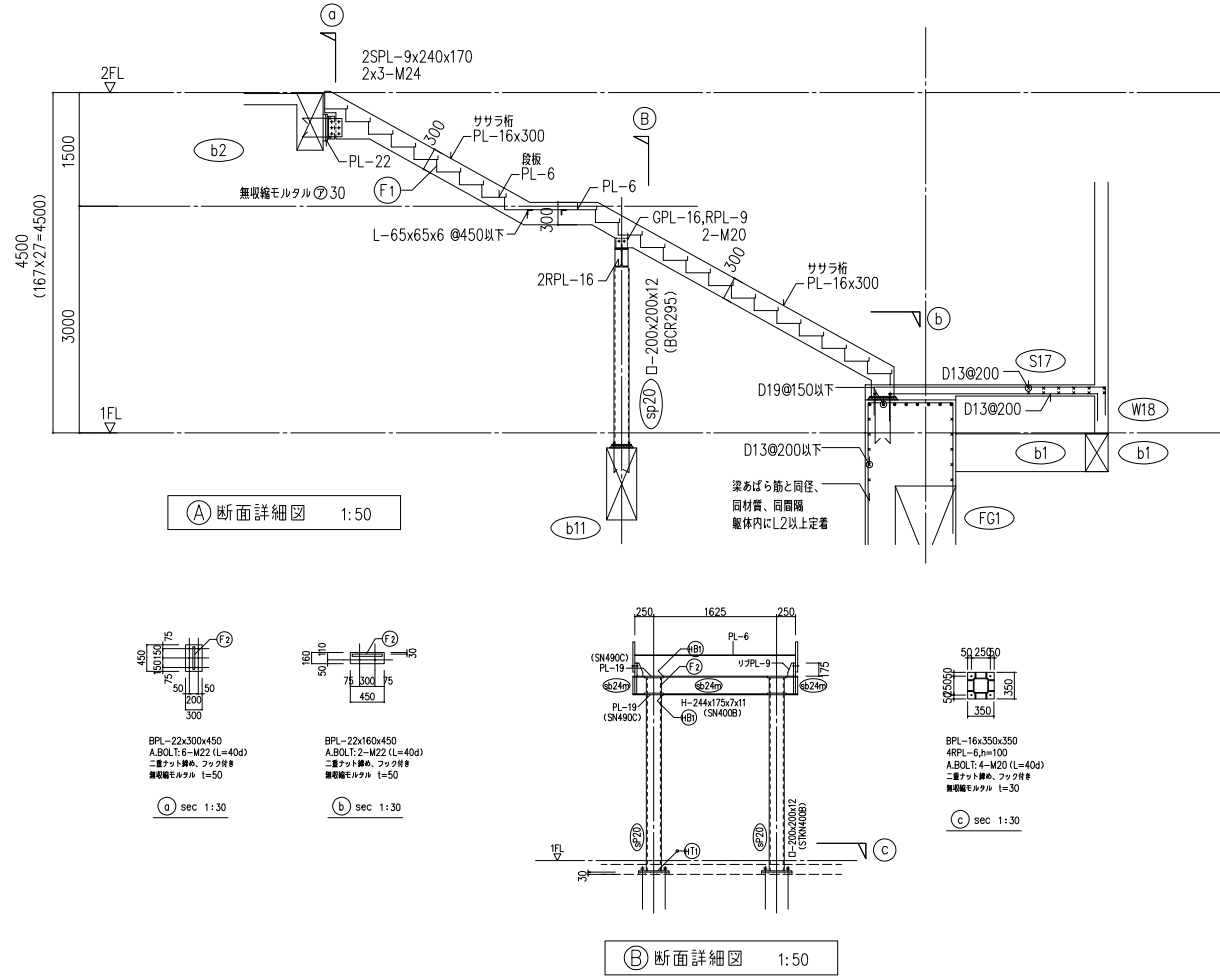
C部 c1断面図

S=1/20



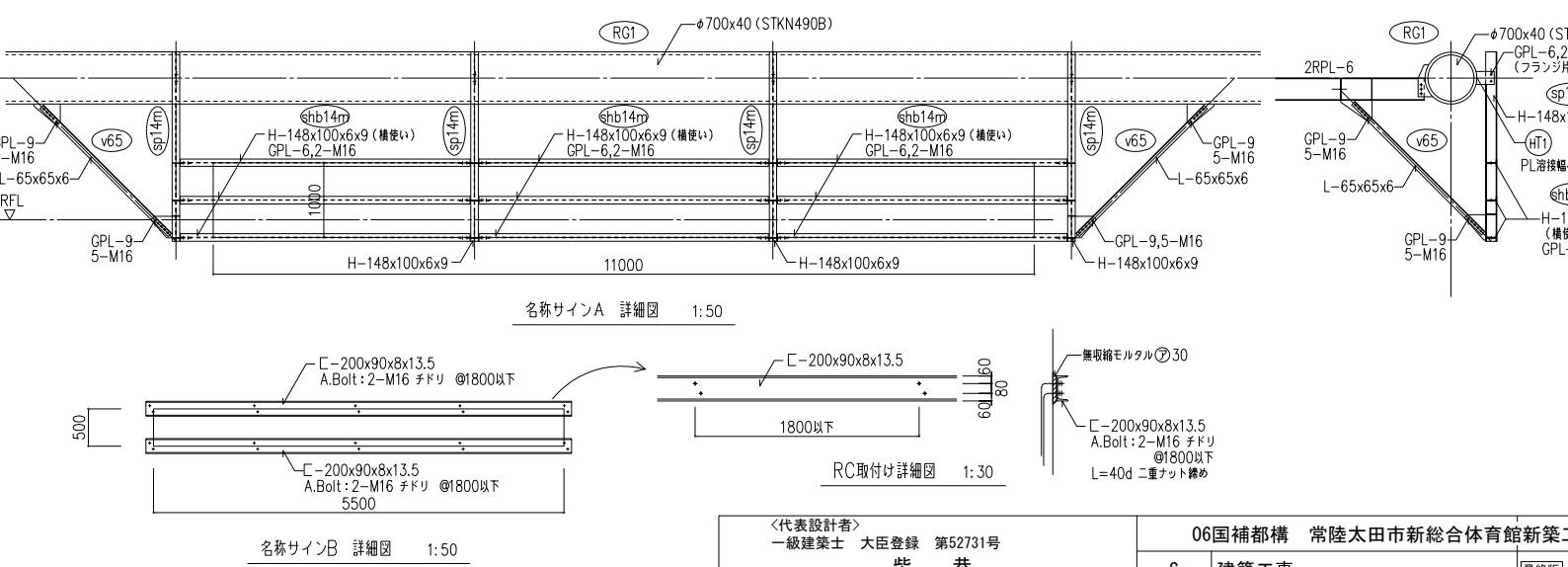
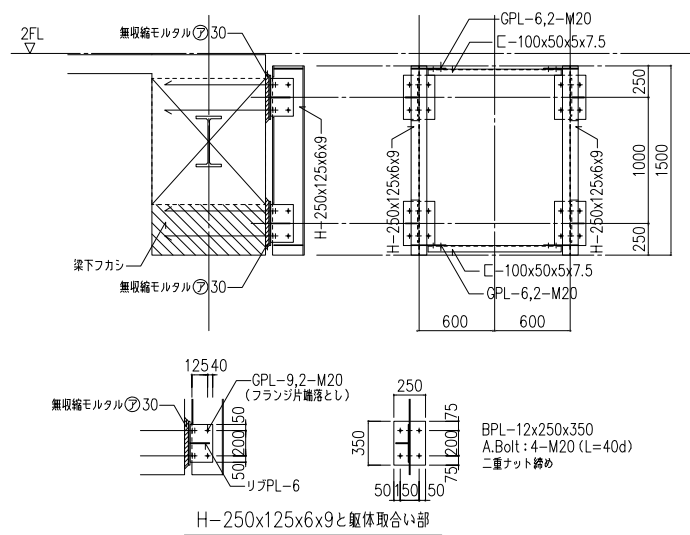
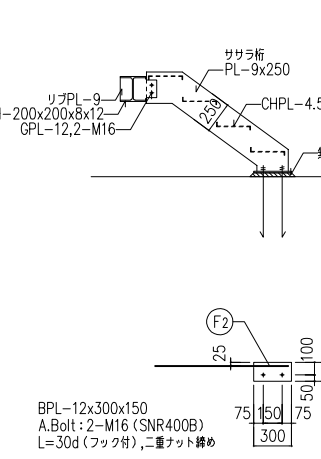
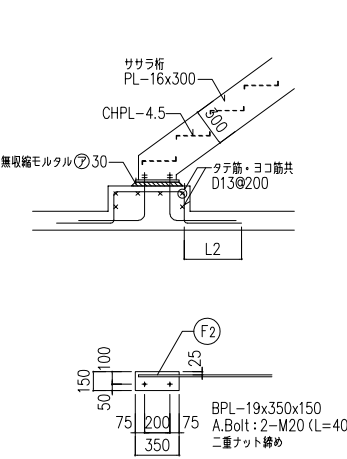
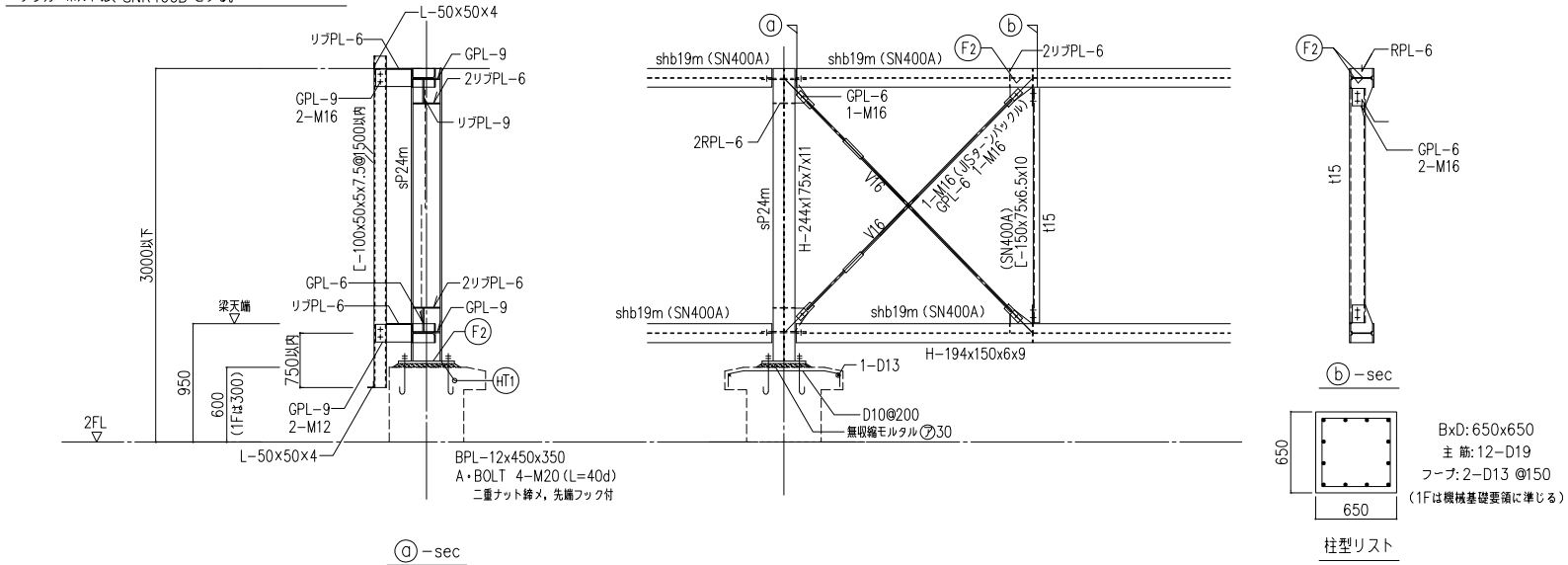
<代表設計者>
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
<構造設計者>
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事
S 建築工事
64 各部詳細図 (7)
株式会社 柴建築設計事務所



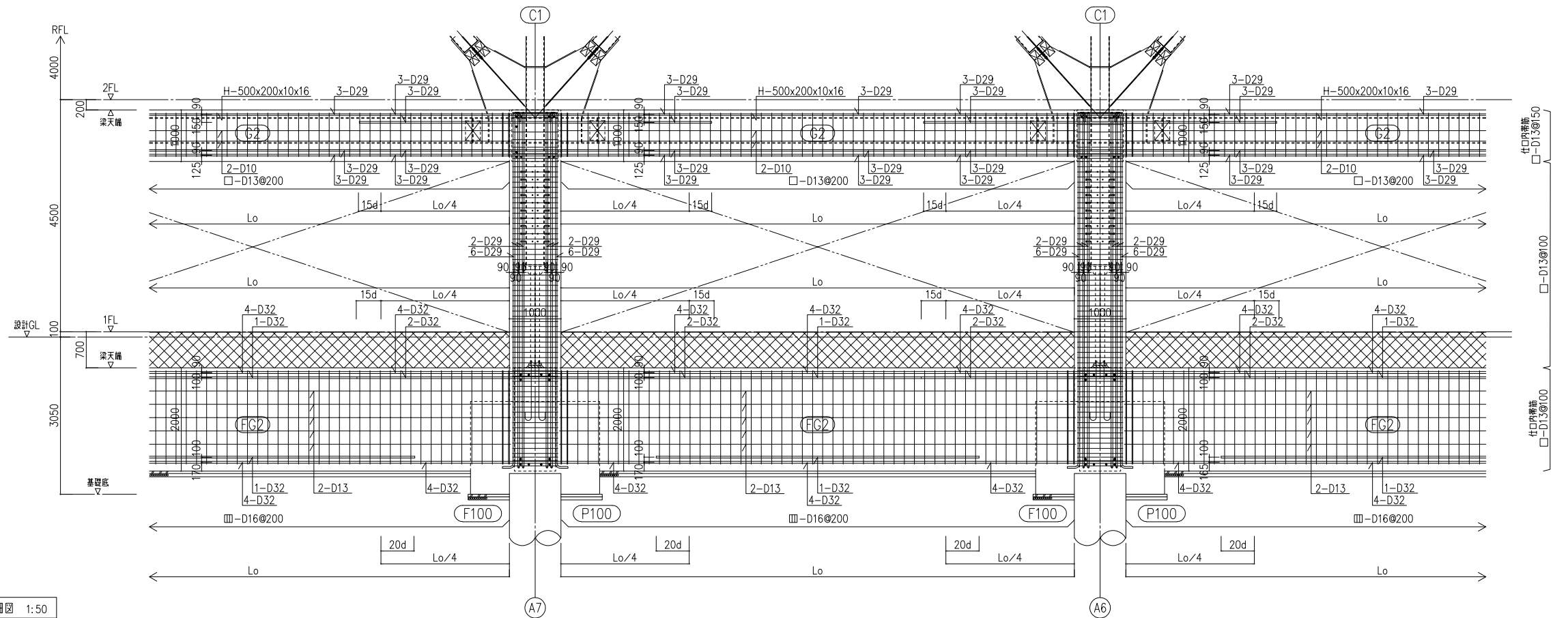
目隠しルーバー受け 詳細図

- 共通事項（特記なき限り）
- ・鉄骨材質は、SN400B とする。
 - ・鉄骨部材は溶融亜鉛メッキとし、高力ボルトはF8Tとする。
 - ・アンカーボルトは、SNR400B とする。

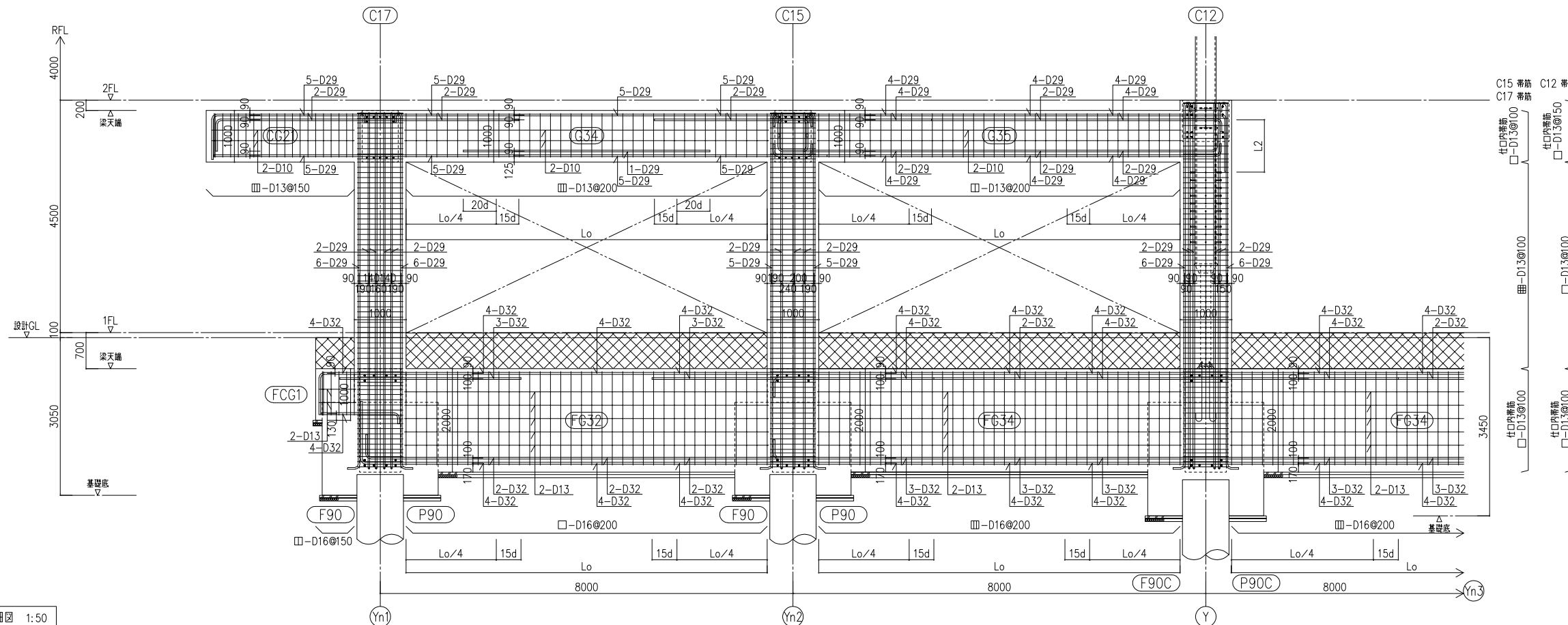


＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
S 65	建築工事	最終版	2024年12月
	各部詳細図（8）	1:30, 1:50 (A1) 1:60, 1:100 (A3)	
＜構造設計＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒 寄 光一		株式会社 柴建築設計事務所	

屋上階段1:50		鉄筋コンクリート立上り壁配筋図		サブアリーナ 外周部側溝配筋図	
		鉄筋コンクリート立上り壁配筋図 ・H, B, W寸法は 意匠図 による。 ・屋内RC立上り配筋 (H<1000) ・ファスナー等のある場合 ・屋外に面するRC立上り配筋 (パラベットを除く) (H>=1000の場合は屋内でも下記とする) ・ELV部 (H<=1000)			
設備基礎配筋図		スラブ開口補強要領		バットレス配筋要領図	
H, B, D, W寸法は 意匠図 による。 印は 構造スラブを示す。		TYPE-A TYPE-B TYPE-C ・スラブ開口は原則、開口中心間距離を3D以上確保すること。 ・開口中心間距離が3D未満の場合は小梁補強を原則とし、設計者・監理者と協議の上、補強方法を検討すること。 ・D, B寸法が700を超える場合は小梁補強を原則とし、設計者・監理者と協議の上、補強方法を検討すること。			
パラベット配筋図		屋上配管取出口配筋図 (1)	屋上配管取出口配筋図 (2)		
(1) 立上り部のコンクリートは屋根スラブと同時打ちを原則とする。		H, L寸法は 意匠図 による。 (L, H<2500とする) (長辺方向@3000毎にW18を設けるものとする)	H, L寸法は 意匠図 による。 (L, H<2500とする) (長辺方向@3000毎にW18を設けるものとする)		
基礎梁打増要領図	柱打増要領図	梁打増要領図	土間コンクリート配筋図		
・600mm以下の打増の場合 主筋：D16@200以下とする。 腰筋：D13@300以下とする。 ただし、耐震壁が取付く梁の打増補強はすべて上図とする。 ・打増部貫通部は、切断した鉄筋と同量・同材質の鉄筋で補強すること。 ・土圧を受ける梁の打増部腰筋は当該梁と同径、同材質、同間隔とする。	・600mm以下の打増の場合 軸方向筋：D16@300以下とする。 ただし、耐震壁が取付く柱の打増補強はすべて上図とする。 ・打増部貫通部は、切断した鉄筋と同量・同材質の鉄筋で補強すること。	・600mm以下の打増の場合 軸方向筋：D16@200以下とする。 腰筋：D10@300以下とする。 ただし、耐震壁が取付く梁の打増補強はすべて上図とする。 ・打増部貫通部は、切断した鉄筋と同量・同材質の鉄筋で補強すること。			



(C1)通り 架構配筋詳細図 1:50



(X6)通り 架構配筋詳細図 1:50

共通事項 (特記なき限り)

- 鉄筋材質は D10~D16=SD295A, D19~D25=SD345, D29~S32=SD390 とする。
- 柱帯筋は 閉鎖型フープ とする。(柱梁接合部は除く。)
- 基礎下、梁下地盤は 捨てコンクリート ⑦50, 砕石 ⑦60 とする。

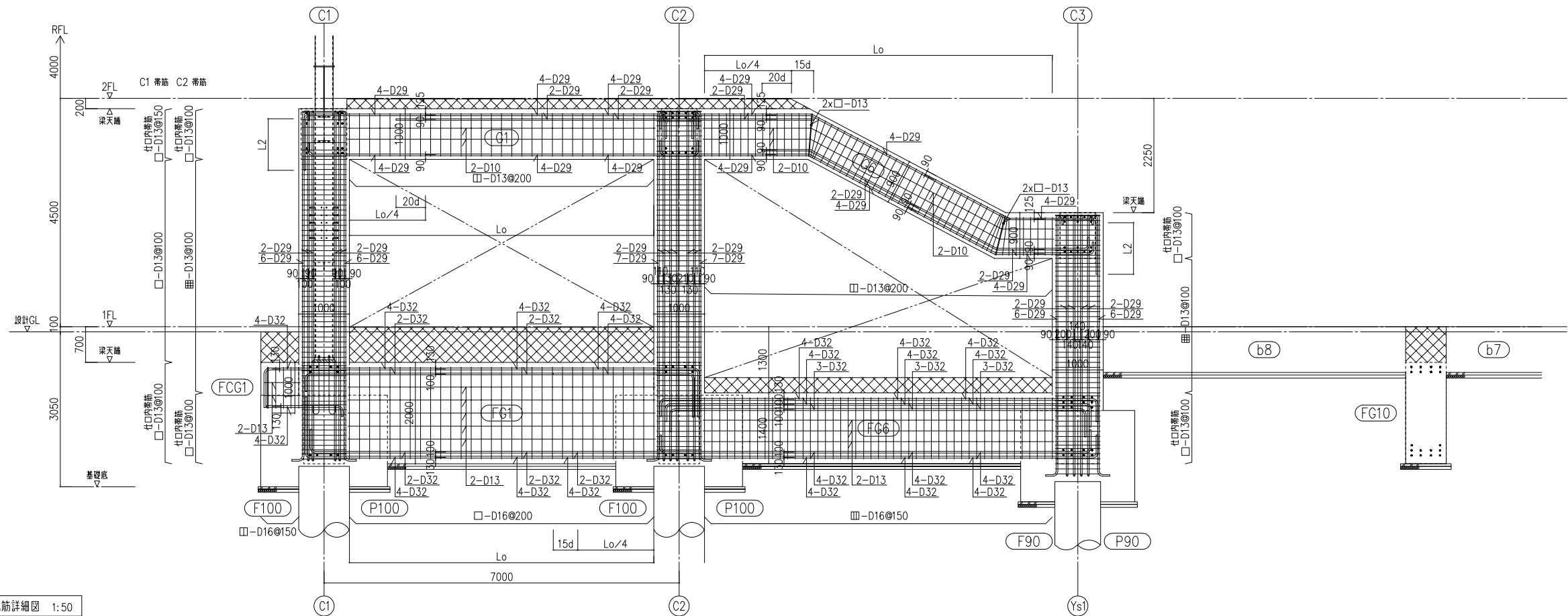
- 幅止筋は D10@1000以内 とする。
- 腰筋は、基礎梁リスト・大梁リスト による。
- D19以上の腰筋は、それが定着する部材内に 40d以上アンカーのこと。継手は梁主筋と同様とする。

- カットオフ長さは、(MAX LD、Lo/4+15d)とし、LDによる場合は 梁リストの寸法 による。
- は、打増を示す。

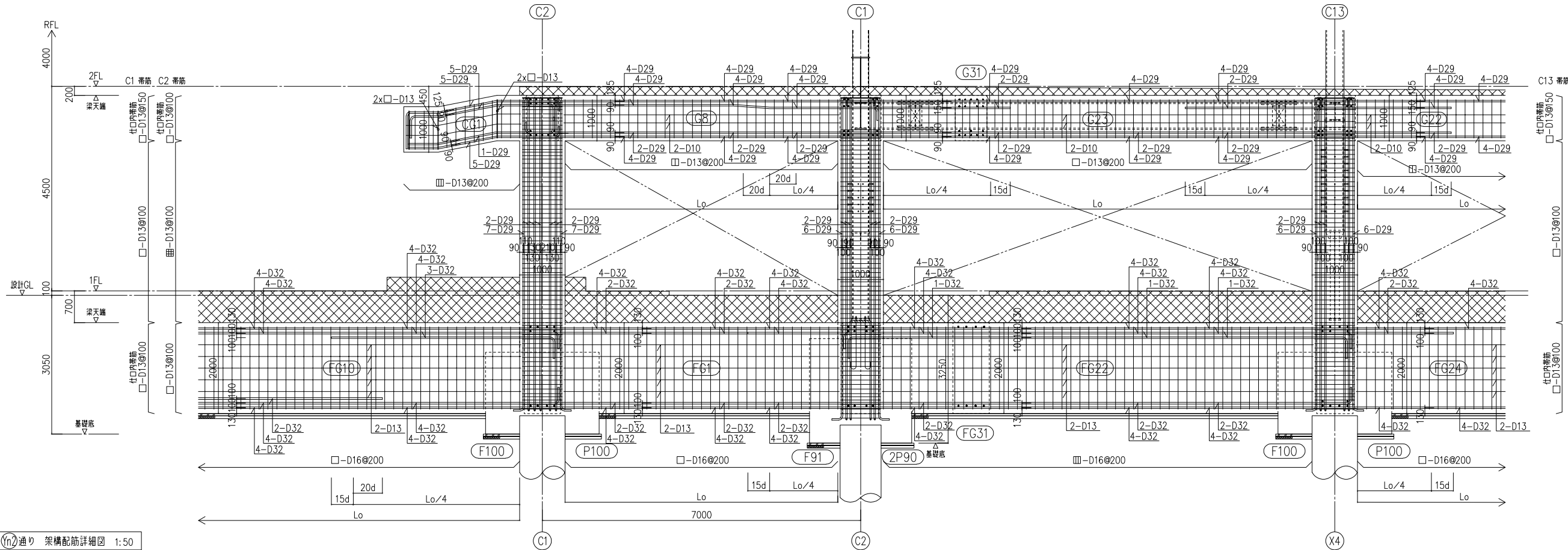
＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S	建築工事	最終版	2024年12月
67	架構配筋詳細図 (1)	1:50 (A1) 1:100 (A3)	
株式会社 柴建築設計事務所			



(A10)通り 架構配筋詳細図 1:50



(A6)-(n2)通り 架構配筋詳細図 1:50

共通事項 (特記なき限り)

- 鉄筋材質は D10~D16=SD295A, D19~D25=SD345, D29~S32=SD390 とする。
- 柱筋筋は 閉鎖型フープ とする。(柱梁接合部は除く。)
- 基礎下、梁下地盤は 捨てコンクリート ⑦50, 砕石 ⑦60 とする。

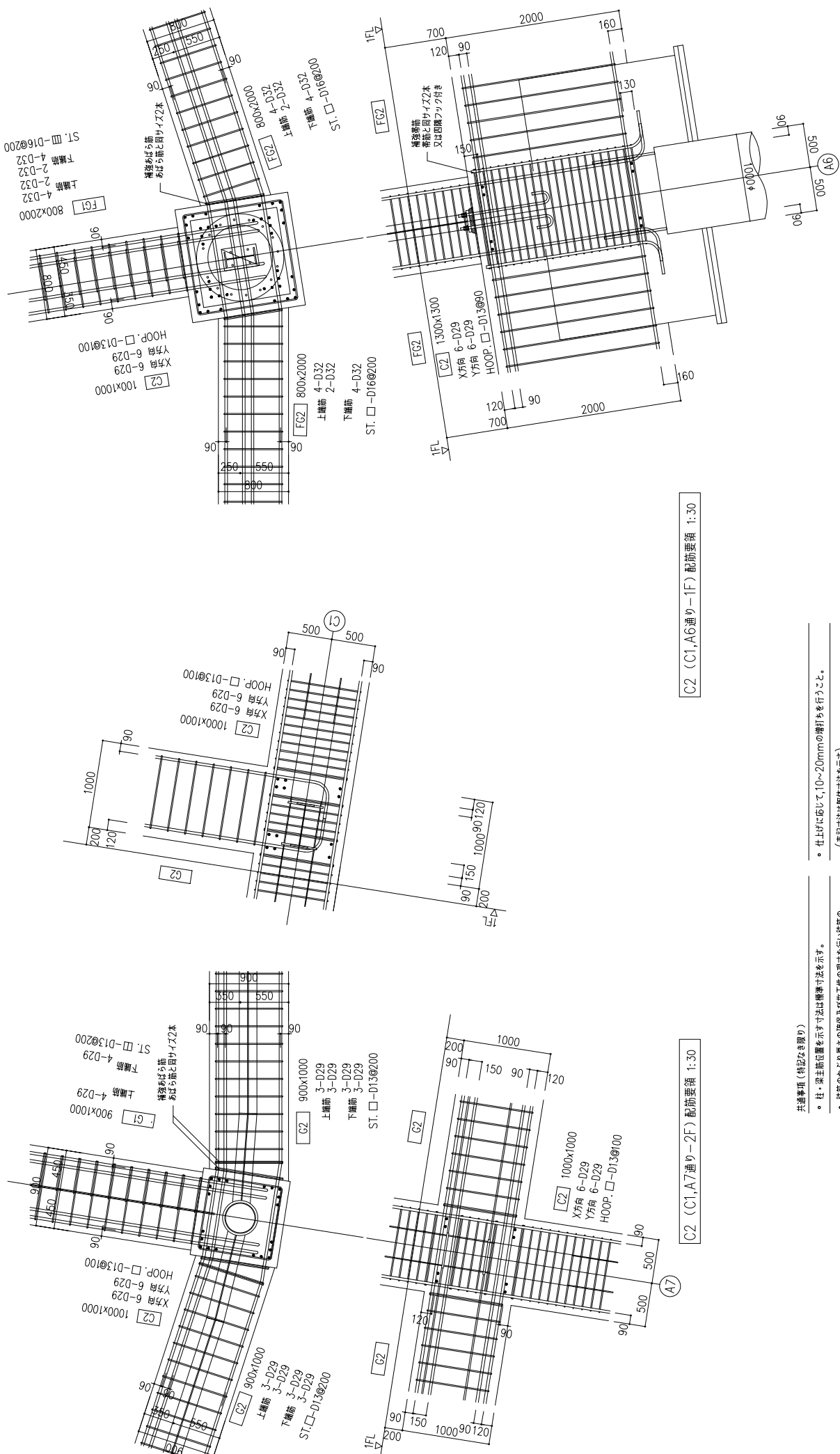
- 幅止筋は D10@1000以内 とする。
- 腰筋は、基礎梁リスト・大梁リスト による。
- D19以上の腰筋は、それが定着する部材内に 40d以上アンカーのこと。継手は梁主筋と同様とする。

- カットオフ長さは、(MAX LD、Lo/4+15d)とし、LDによる場合は 梁リストの寸法 による。
- は、打増を示す。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

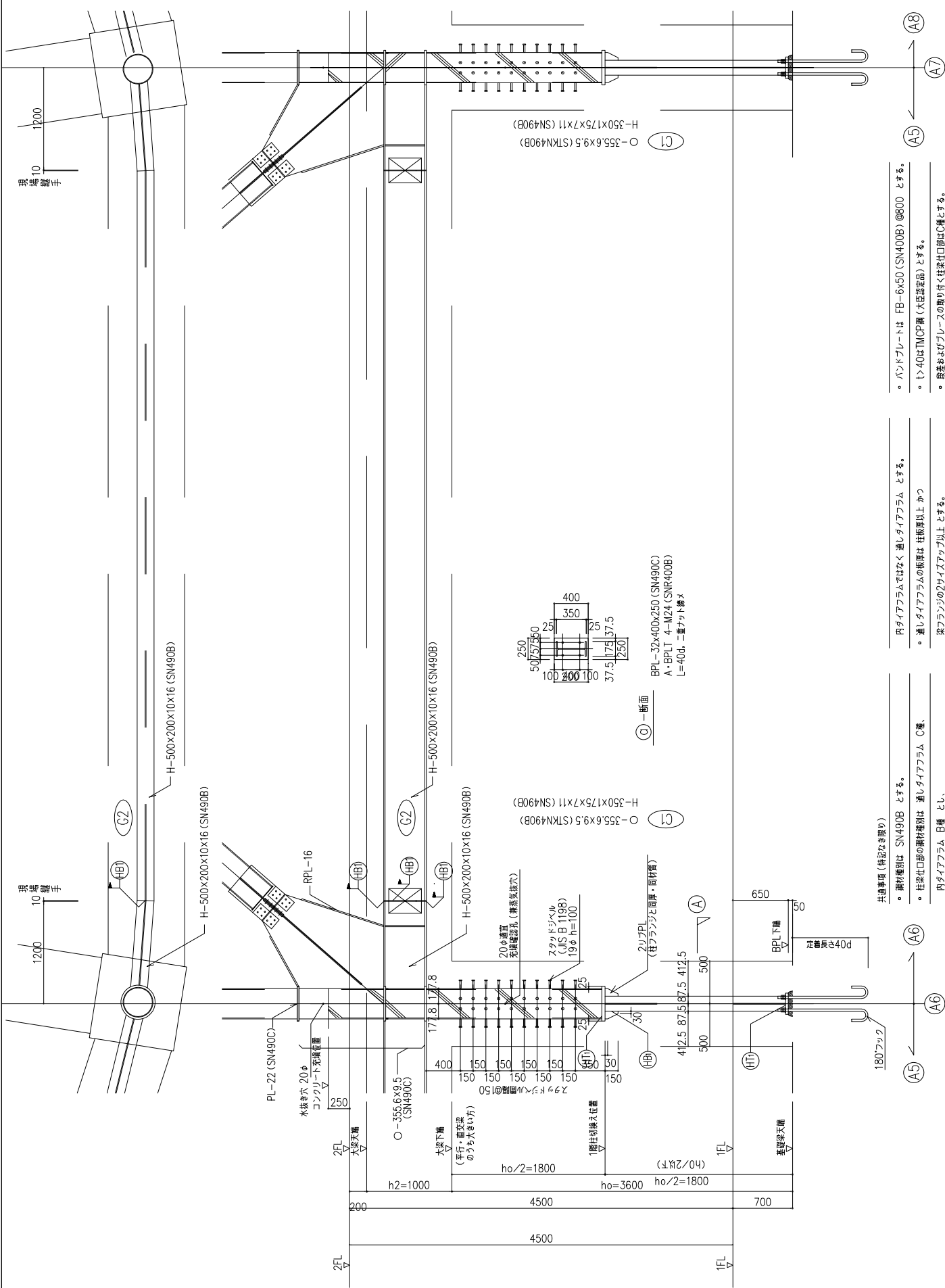
S	建築工事	最終版	2024年12月
68	架構配筋詳細図 (2)	1:50 (A1) 1:100 (A3)	
株式会社 柴建築設計事務所			



- 共通事項（特記なき限り）
- 柱・梁主筋位置を示す寸法は標準寸法を示す。
 - 鉄筋のかぶり厚さの確保及び施工上の見方を示す鉄筋の納まりによっては監督職（設計者）の承認を得て、軽微変更の限りの対象の範囲内あるいは補強方針に基づいて鉄筋位置などの調整を行うものとする。

C2 (C1,A6通り-1F) 配筋要領 1:30

C2 (C1,A7通り-2F) 配筋要領 1:30

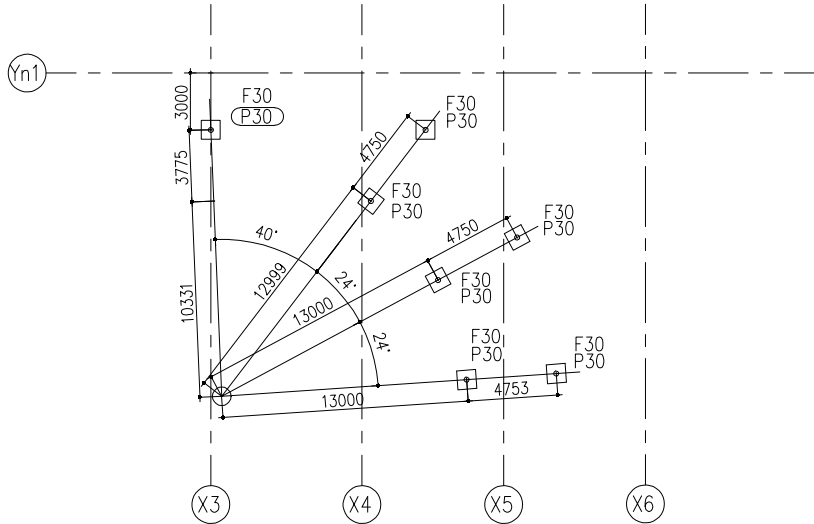


＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒 寄 光 一

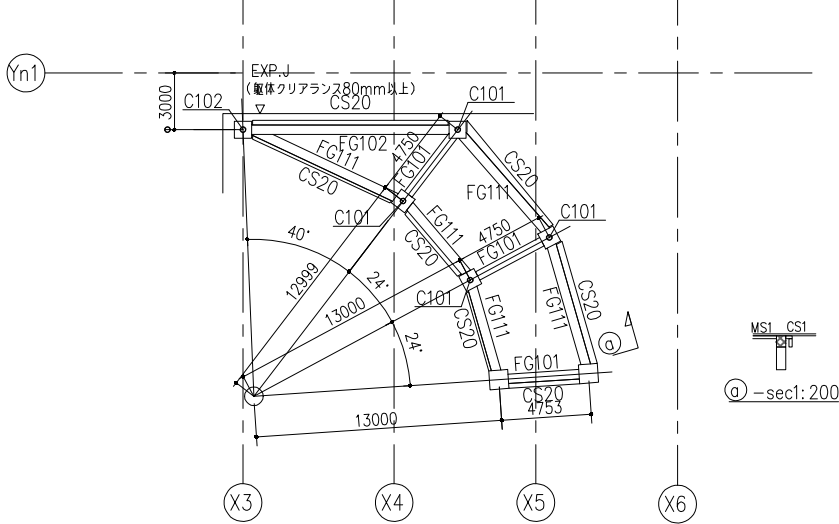
06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事			
S	建築工事	最終版 2024年12月	
69	接合部配筋詳細図 (1)	1:30 (A1) 1:60 (A3)	
株式会社 柴建築設計事務所			

- 共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別は SN490B とする。
 - 内タイアラムではなく、通しタイアラム とする。
 - 柱梁仕口部の鋼材種別は 通しタイアラム C種、内タイアラム B種 とし、強度は柱梁鋼材のうち最も高強度の材料と同じとする。
 - 段差梁が柱コーナー部分に附けく場合 柱梁仕口部は
- 内タイアラムではなく、通しタイアラム とする。
- 通しタイアラムの断面は 柱断面以上 かつ梁フランジの2サイズアップ以上 とする。
 - 高カボルトは S10T とする。
 - CPLは 母材と同材質とする。
- 内タイアラムではなく、通しタイアラム とする。
- 通しタイアラムの断面は 柱断面以上 かつ梁フランジの2サイズアップ以上 とする。
 - 高カボルトは S10T とする。
 - CPLは 母材と同材質とする。
- 内タイアラムではなく、通しタイアラム とする。
- 通しタイアラムの断面は 柱断面以上 かつ梁フランジの2サイズアップ以上 とする。
 - 高カボルトは S10T とする。
 - CPLは 母材と同材質とする。

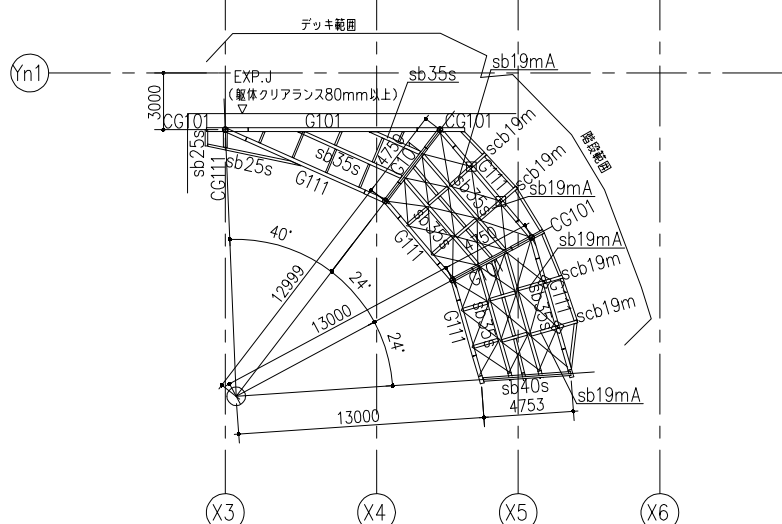
C1 通り鉄骨詳細図 1:30



杭、基礎伏図 1:200



1FL 床梁伏図 1:200



R階 梁伏図 1:200

共通事項(特記なき限り)

- 建物の配置については 意匠図による。
- 設計GL=T.P.+18.00m とする(平均GL=設計GL-※※※)。
- 支持層は N値60以上の肥後層とする。
- 杭天端は 設計GL-1900 とする。
- 杭先端は 設計GL-31900 とする。
- () 内数値は 設計GLからの杭先端位置 を示す。
- < > 内数値は 設計GLからの杭下端位置 を示す。
- 杭芯=通芯 とする。
- ○印は 試験杭を示す。(計1箇所)
- 試験杭により支持層を確認すること。その結果が本設計と異なる場合には、設計変更することがある。
- 補斜地盤の地層構成を把握する目的で工事に先行してボーリング調査を実施すること。(No.A1~A5,各30m×5箇所)。また、地層推定断面図および支持層コンター図を作成すること。支持層の分布状況によっては設計変更を行うものとする。先行ボーリングにて杭長変更が必要となった場合、下杭で杭長調整を行うことを原則とする。(全棟共通)
- コンクリート強度は Fc24 とする。

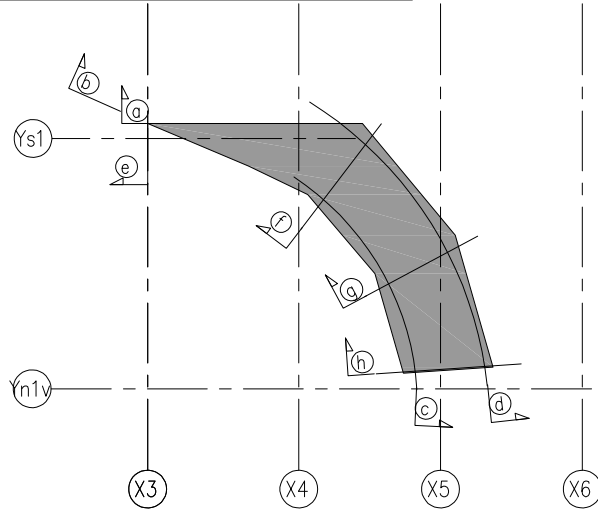
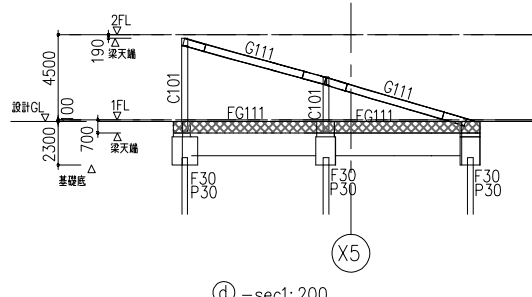
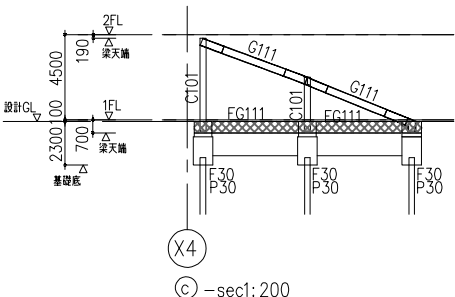
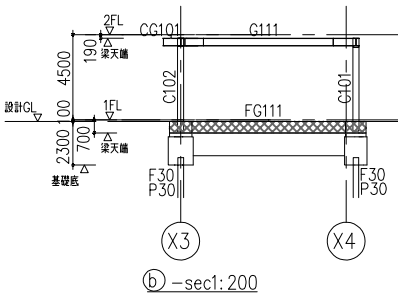
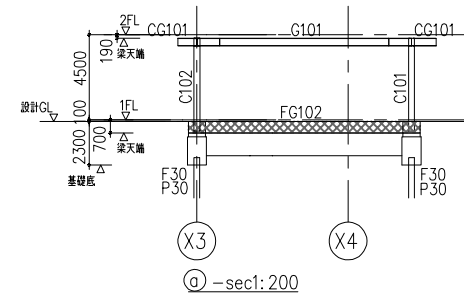
- 杭芯ずれ、杭の高(低)止まりなどにより、基礎、基礎梁などの各種部材の補強について監督職員と協議調整を行うものとする。
- 杭施工に伴う杭芯ずれが生じた場合、設計変更することがある。ただし、偏心距離100mmを限度として杭の芯ずれは施工誤差とみなし、設計変更は伴わないものとする。
- 引抜き撤去する既存杭の先端に深に新設杭の先端が到達するものとする。
- 既存杭の杭先端位置が想定と異なる場合、設計変更その他について別途協議を行うものとする。
- 既存躯体基礎、杭などの地中障害物の有無および位置を確認して施工を行うこと。また、転石に留意して施工を行うこと。建設の障害となる埋設物が確認された場合、施工者の責任において、障害物の撤去を行うこと。
- 既存杭を引き抜いた場合、流動化処理土などにて埋め戻しを行うこと。
- 流動化処理土は、周辺の地盤と同程度以上の強度とすること。
- 設計変更その他については別途協議を行うものとする。

共通事項(特記なき限り)

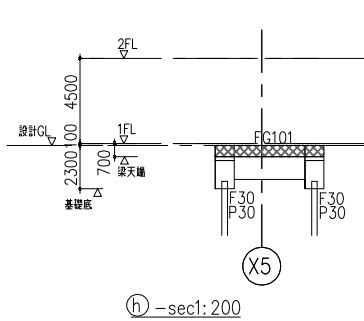
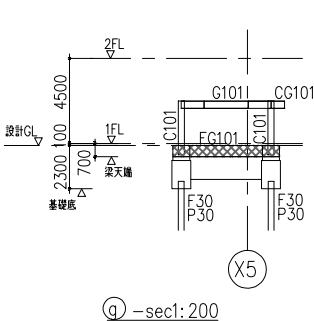
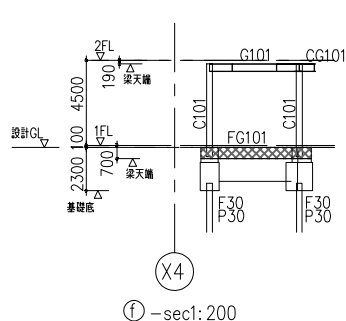
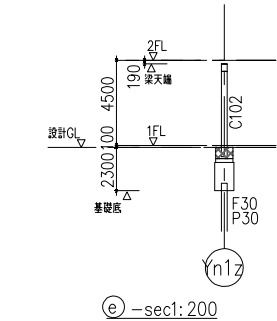
- スラブは 土間コンクリートMS1 とする。
- 建物の配置については、意匠図による。
- 片持ちスラブは CS20とし、基礎梁天端まで立ち下げとする。
- 設計GL=H+18.00m とする。
- 1FL=設計GL+100 とする。
- 基礎梁天端は FL-700 とする。
- スラブ天端は FL-100 とする。
- ☒印は 打増し を示す。
- () 内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁天(下)端にレベル差がある場合は、打増しを行なうものとする。
- 梁・梁接合部にレベル差がある場合は、打増し補強要領図に準ずる。
- コンクリート強度は Fc24 とする。

共通事項(特記なき限り)

- スラブは S15 とする。
- 片持ちスラブは CS20 とする。
- デッキ範囲の小梁は sb20s とし、階段範囲の小梁は sb19m とする。
- スラブ・小梁天端はFL-20とする。
- 大梁天端はFL-170とする。
- ☒印は 打増し を示す。
- () 内数値はFLからの梁天端レベルを示す。
- 階段部は詳細図による。
- スラブ天(下)端と梁天(下)端にレベル差がある場合は、CT鋼等によるかさ上げを行うものとする。
- 屋外露出部分は亜鉛メッキを施すこと。ボルトはF8Tとすること。
- ☒印は水平ブレース V24 (1-M24,ターンバックル) を示す。
- コンクリート強度は Fc24 とする。



軸組図 キープラン



共通事項(特記なき限り)

- スラブ天端は FL-40、梁天端は FL-190 とする。
- <J>印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。柱より1200の位置とする。
- ☒印はコンクリート打増しを示す。
- 本柱BPL下端は 梁天端+50 とする。
- 間柱等二次部材 BPL下端は、梁・スラブ天端+30 とする。
- 主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
- 柱・梁柱口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
- また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。
- 柱部断については、施工条件等によって監理者の承諾の上、最終決定するものとする。
- 適しダイヤフラムはSN490C (1>40)はTMCP鋼、大径認定品)とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- 階段部の大梁形状は詳細図による。
- コンクリート強度は Fc24 とする。

<代表設計者>

一級建築士 大臣登録 第52731号

柴 恭

<構造設計者>

一級建築士 大臣登録 第178097号

構造設計一級建築士証交付番号 第6499号

酒 寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S

建築工事

71

屋外階段1詳細図(1)

最終版

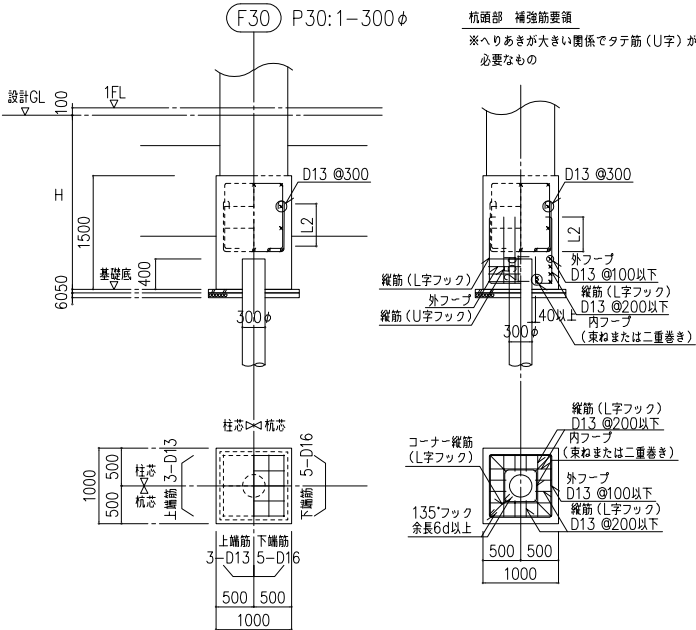
2024年12月

株式会社 柴建築設計事務所

杭リスト
共通事項（特記なき限り）
・ 使用材料は、杭コンクリート：Fc105
・ 継手：無溶接継手（継手低減率0%のものを用いること。また、引抜き力が生じる杭符号はT付きで示しており、引張方向の継手低減率も含めて0%のものを用いること。）
・ 施工法は プレボーリング拡大根固め工法 とする。
・ 施工に先立ち施工計画書を提出し 監督職員の確認を得ること。
・ 支持層の確認方法
支持層の確認：原則、オーガー駆動装置の電流値変化を積分電流計等により計測する。
根固め部形状の確認：支持層根固め部付近におけるビット拡直径を確認する。
拡直径の確認は管理装置により油量や油圧により全数実施する。
管理記録データや写真を報告書にまとめ、監督職員に提出すること。
根固め部の仕様：認定条件のもと、指定強度を確保できるものとする。
水セメント比の上限は60％とする。
流量計等により、根固め液の注入量の確認を全数実施する。
管理記録データや写真を報告書にまとめ、監督職員に提出すること。
・ 認定構法上、杭先端の水平方向拡大率は1.0とし、支持層へ着着可能であることを原則とする。

符 号	P30
上	杭径（mm）300
杭	杭種PRC杭Ⅰ種（Fc105）
杭	杭長（m）5.0
中	杭径（mm）300
杭	杭種PHC杭（A種、Fc105）
杭	杭長（m）9.0＋9.0
下	杭径（mm）300～450
杭	杭種節付きPHC杭（A種、Fc105）
杭	杭長（m）7.0
杭	杭総長（m）30.0
杭	杭面補強筋NCPアンカー6－D16（SD345）
α	300（拡大比α＝1.0）
長期支持力（kN）	1000
杭本数	伏図による
埋込み長（mm）	400

基礎リスト 1:50
共通事項（特記なき限り）
・ 基礎深さ Hは杭・基礎伏図 による。
・ 土に接する基礎下地層は捨てコンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。
・ 鉄筋材質は D10～D16:SD295A とする。
・ 杭頭の中詰めコンクリートはフーチングへの杭頭埋込み長さ以上とし、基礎フーチングのコンクリート仕様同等以上とする。



基礎梁リスト 1:50
共通事項（特記なき限り）
・ 鉄筋材質は、D10～D16:SD295A、D19～D25:SD345 とする。
・ 巾止筋は D10@1000 とする。
・ 土に接する基礎梁下地層は捨てコンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。
・ 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。
・ 2・3段目主筋 カットオフ長さ（LD）は MAX（リスト内数値、Lo/4＋15d）とする。

階	符 号	FG101	FG102	FG111
1 階	位 置	全断面	全断面	全断面
	断 面			
	B x D	800x1200	800x1200	800x1200
	上端筋	4-D25	6-D25	5-D25
	下端筋	4-D25	6-D25	5-D25
	あばら筋	2-D16 @200	2-D16 @200	2-D16 @200
	腰 筋	4-D13	4-D13	4-D13
	備 考			

凡 例
スターラップ 4-D13@200 は左図 Ⅲ-D13@200 を示す。

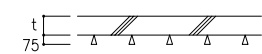


床版リスト
特記なき限り
・ 直押え部分は スラブ天端打増 ㊦10 を基本とする。
・ 土に接する梁下地層は捨てコンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。
・ 鉄筋継手は 重ね継手 とする。
・ 床型枠用鋼製デッキプレートは、梁端部リブ形状に応じてカットすること。
・ 床型枠用鋼製デッキプレートと鉄骨梁はアークスポット溶接または隅肉溶接とし、頭付スタッドにて一体化する。

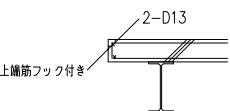
符 号	版 厚	層	短 辺 方 向（主筋方向）	長 辺 方 向（配力筋方向）	備 考
S15	150	上	D10・D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋 ※1
		下	D10 @200	D10 @200	
CS20	150	上	D10・D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋 ※1
		下	D10 @200	D10 @200	

床型枠用鋼製デッキプレート

コンクリート厚 t mmは 床版リストによる。
床型枠用鋼製デッキプレートの使用可能図は、2階以上とする。
床型枠用鋼製デッキプレート厚はt=1.2mmを標準とする。
受注者は施工に先立ち、施工の安全性を確認すること。
めっきの付着量はZ12相当とする。



鉄骨造スラブ小口配筋要領 1:30



・ 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。
・ 柱脚は 親子フィラー同等品 または 座金を増厚して、座金全周溶接 とすること。

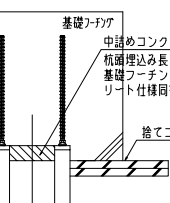
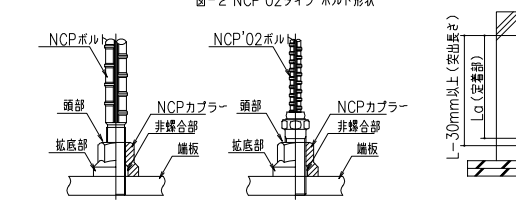
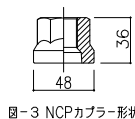
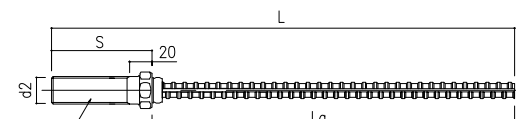
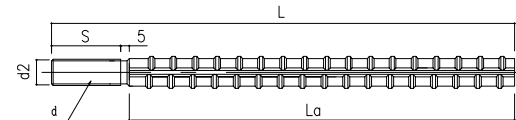
符 号	C101	C102	G111	柱脚 要領図
鉄骨柱	○-318.5x10.3 (STKN490B)	○-318.5x10.3 (STKN490B)	H-400x200x8x13 (SN400B)	
柱 脚				
ベースプレート	BPL-28x600x600 (SN490C) 4リブPL-12 (SN490B) h=100	BPL-32x600x600 (SN490C) 4リブPL-12 (SN490B) h=100	BPL-22x400x700 (SN400C) 2リブPL-9 (SN400B) h=100	
アンカーボルト	4-M27 (ABR490) L=40d (フック付) 二重ナット締め	8-M27 (ABR490) L=40d (フック付) 二重ナット締め	6-M27 (ABR490) L=40d (フック付) 二重ナット締め	
RC柱型				
Dx x Dy	900 x 900	900 x 900	1000 x 1000	
主 筋	12-D25	12-D25	12-D25	
帯 筋	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	
備 考				

NCPアンカー工法

1.NCPアンカー工法概要

NCPアンカー工法は、既製コンクリート杭（PHC杭・PRC杭）の杭頭端部に設けられた雄ねじに、NCPボルトの雄ねじ部を挿合し、かつ、内面に非接合部（ねじ無し部）を設けたNCPカブラーを雄ねじ部に装着してトルクレンチにより締め付けることにより、杭と基礎フーチングを接合する機械式杭頭接合法となる。

2.NCPアンカー部材形状及び構成



●NCPアンカー突出長さ
NCPアンカー突出長さは、杭天端からL=30mm以上となります。（Lは製品全長）
基礎上端とのみより厚さに注意願います。

図-6 NCPアンカー工法の一概図

3.杭頭接合仕様

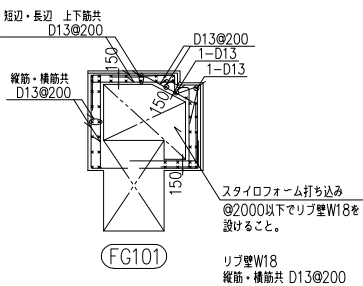
杭 仕 様		NCPアンカー仕様				
杭径	杭 種	杭本数	鉄筋径	本/1杭	製品長さL	備 考
300	PRC杭Ⅰ種	6	16	6	750	
【注意事項】						
1) NCPアンカーの鉄筋径は杭頭端ねじ径により異なります。						
2) 杭頭端ねじ径は、各メーカー・杭径・杭種により異なります。						
3) 杭メーカー確定後、杭頭端ねじ径を確認し上記表中の取付仕様にて接続可能を確認する。						
4) 杭頭端ねじ径が異なる場合は、設計時に使用した杭頭端応力にて再検討をする。						

4.NCPアンカーの種類及び寸法（SD345）

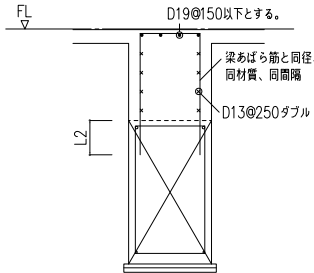
NCP タイプ	NCPボルト	NCPカブラー	鉄筋径 D	ねじ外径 d	ねじ有効径 d2	ねじ部 S	ねじ 無し部	定着部 La	製品全長 L	標準Hの値	養生αム
NCP 標準	D22 - M20	NCP 20	D22	20	18.380	60	5	565	630	288 (N・m)	φ20
	D22 - M22	NCP 22		22	20.376					391 (N・m)	φ22
	D22 - W7/8	NCP 7/8	D25	22.225	20.418	75		640	720	385 (N・m)	φ24
	D25 - M24	NCP 24		24	22.051					497 (N・m)	
	D25 - W1	NCP 1	D29	25.4	23.367			740	820	577 (N・m)	φ27
	D29 - M27	NCP 27		27	25.051					727 (N・m)	
	D29 - W1.1/8	NCP 1.1/8		28.575	26.252					818 (N・m)	

単位:mm

RC階段 配筋詳細図 1:50



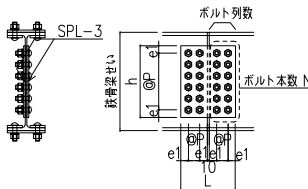
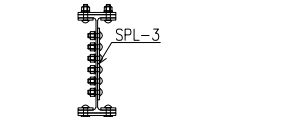
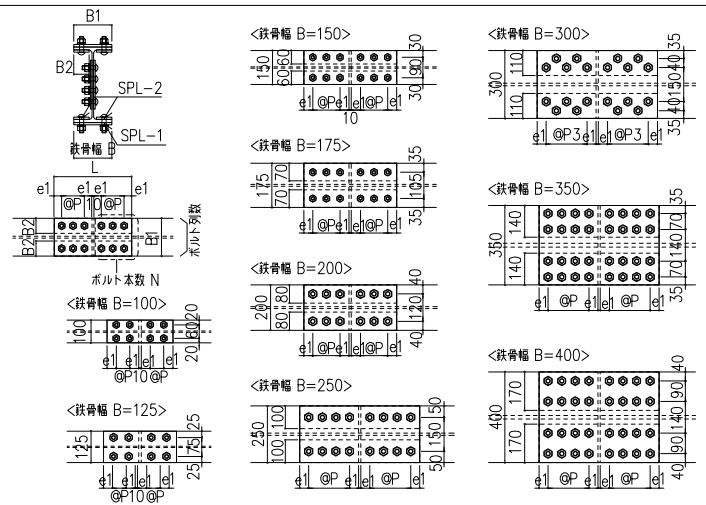
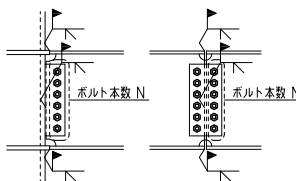
基礎梁打増要領図



大梁リスト	1:50	共通事項（特記なき限り） - 鉄骨材質は SN400B とする。 - H形鋼の使用区分は H:JIS規格H形鋼、HY:外法一定H形鋼、BH:組立H形鋼とする。 - HからHY、もしくはHYからBHへの変更は、部材の寸法・板厚が変わらない範囲で可とする。 - 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。 - 接合部は「鉄骨構造標準接合部 SCSS－H97」に準じてボルトおよびスプライスプレートを設置すること。	- ピン接合部材に対して、接続される部材のフランジ幅が不足する場合は、PL突合せ溶接よりフランジ幅を拡張のうえ、GPLを溶接する。 - なお、PLの材質・板厚は、取り付く大梁のフランジと同材質、同厚とする。 - ピン接合部材の接合は継手リスト（ウェブ継手）による。バックリブPLは、ウェブSPLと同厚・同材質とする。
-------	------	--	--

階	符 号	G101	G111	CG101	CG111	
	位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	
2 階	断 面					
	鉄 骨	H-400x200x8x13	H-400x200x8x13	H-400x200x8x13	H-400x200x8x13	
	備 考					

鉄骨継手リスト （フランジ・ウェブ）	共通事項（特記なき限り） - 継手は原則として「鉄骨構造標準接合部 SCSS－H97」による。 - スプライスプレートは 母材（中央断面）と同材質 とする。 - フィラープレートは SS400 とする。	- ボルトは、高力ボルト：S10T とする。 - ただし、溶融亜鉛メッキの範囲に継手がある場合は F8T とする。	外装材取付ファスナー等の調整を行い、監督職員（設計者）の了承を得て継手形式を最終決定するものとする。
-----------------------	---	---	--

材 質	部材メンバー (中央 断面)	フランジ継手								ウェブ継手						備 考															
		ボルト			SPL-1		SPL-2		L	ボルト			SPL-3																		
		径	列	本数N	板厚	B1	板厚	B2		径	列	本数N	板厚	h	L																
SN400B (SS400)	H-400x200x8x13	M20	2	6	9	200	9	80	410	M20	1	4	9	260	170																
柱・梁 ウェブ継手		柱・梁 フランジ・ウェブ継手（現場溶接）								柱・梁 フランジ継手																					
		ボルトについては上記および右記に準じる。 ウェブスライズプレートを裏当て金と併用。 																													
柱・梁 フランジ・ウェブ 共通																															
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>e1</th><th>P</th><th>P3</th></tr></thead><tbody><tr><td>M16</td><td>40</td><td>60</td><td>45</td></tr><tr><td>M20</td><td>40</td><td>60</td><td>45</td></tr><tr><td>M22</td><td>40</td><td>60</td><td>45</td></tr></tbody></table>			e1	P	P3	M16	40	60	45	M20	40	60	45	M22	40	60	45														
	e1	P	P3																												
M16	40	60	45																												
M20	40	60	45																												
M22	40	60	45																												

梁上スタッドボルト要領	共通事項（特記なき限り） - スタッド高さは デッキせい+30mm 以上とする。 - スタッドジベル仕様 ピッチ：7.5d 以上 かつ 600mm 以下、ゲージ：5d以上 はしあき：40mm 以上（鉄骨端）、100mm 以上（コンクリート端） かぶり厚さ：30mm 以上
-------------	--

	B < 200	200 ≤ B < 300	300 ≤ B
鉄筋コンクリート床版 （床型特用鋼製デッキプレート）			
	φ16 シングル @150	φ19 ダブル @150	φ19 トリプル @150

鉄骨部材リスト	特記なき限り 鉄骨小梁・間柱 各共通事項 - 鋼材質 原則 SN400A とする（ガセットプレートも SN400Aとする）。 - なお、SS400 の使用も可とする。 - H形鋼の使用区分は H:JIS規格H形鋼、HY:外法一定H形鋼、BH:組立H形鋼 とする。	- 座屈止めは A-TYPE を基準とする。 - 高力ボルトは、S10T（垂鉛メッキ箇所 F8T）を原則とする。 - 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。
---------	---	--

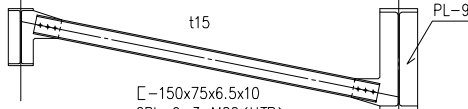
符 号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート	2-SPL	備 考
sb20s	H-200x100x5.5x8	2-M16	PL-6	—	
sb25s	H-250x125x6x9	3-M16	PL-6	—	
sb30s	H-300x150x6.5x9	3-M20	PL-9	—	
sb35s	H-350x175x7x11	4-M20	PL-9	—	
sb40s	H-400x200x8x13	4-M20	PL-9	—	
sb50s	H-500x200x10x16	5-M20	PL-12	2PL-6	
sb19m	H-194x150x6x9	2-M16	PL-6	—	
sb19A・scb19m	H-194x150x6x9	2-M16	PL-6	—	SN400B とする。
sb24m	H-244x175x7x11	3-M20	PL-9	—	
V24	M24（ターンバックル付）	2-M20	PL-12	—	

小梁継手要領図

- 共通事項（特記なき限り）
- リブプレートは GPLと同材質・同厚とする。
 - 座屈止め要領と仕様異なる場合は、座屈止め要領を優先する。
 - ガセットプレート形状については座屈止め要領を考慮して定める。

（1）一般継手要領

A-TYPE (1) Hg-Hb ≥ 250	
形 式	大梁の片側に小梁がつく場合 - Hg：大梁せい、Hb：小梁せい とする。 - 大梁の面側に取りつく場合は 片側のみでよい。 大梁の両側に小梁がつく場合 - Hg：大梁せい、Hb：小梁せい とする。 - 大梁の面側に取りつく場合は 片側のみでよい。
A-TYPE (1) Hg-Hb < 250	
形 式	大梁の片側に小梁がつく場合 大梁の片側に小梁がつく場合 大梁の両側に小梁がつく場合

B-TYPE		鉄骨部材 ボルトピッチ・ヘリあき												
形 式	大梁（下端）－ 小梁（上端）部		共通事項（特記なき限り）											
			◦ 小梁・間柱・横座屈補剛等共通とする。											
			<table><tr><td></td><td>M16</td><td>M20</td><td>M22</td></tr><tr><td>P</td><td>60</td><td>60</td><td>60</td></tr><tr><td>e</td><td>40</td><td>40</td><td>40</td></tr></table>		M16	M20	M22	P	60	60	60	e	40	40
	M16	M20	M22											
P	60	60	60											
e	40	40	40											

<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭 <構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒 寄 光一	06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事			
	S	建築工事		最終版 2024年12月
	73	屋外階段1詳細図（3）	1：30（A1） 1：60（A3）	
	株式会社 柴建築設計事務所			

屋外階段 1 鉄骨架構詳細図 1:50

共通事項（特記なき限り）

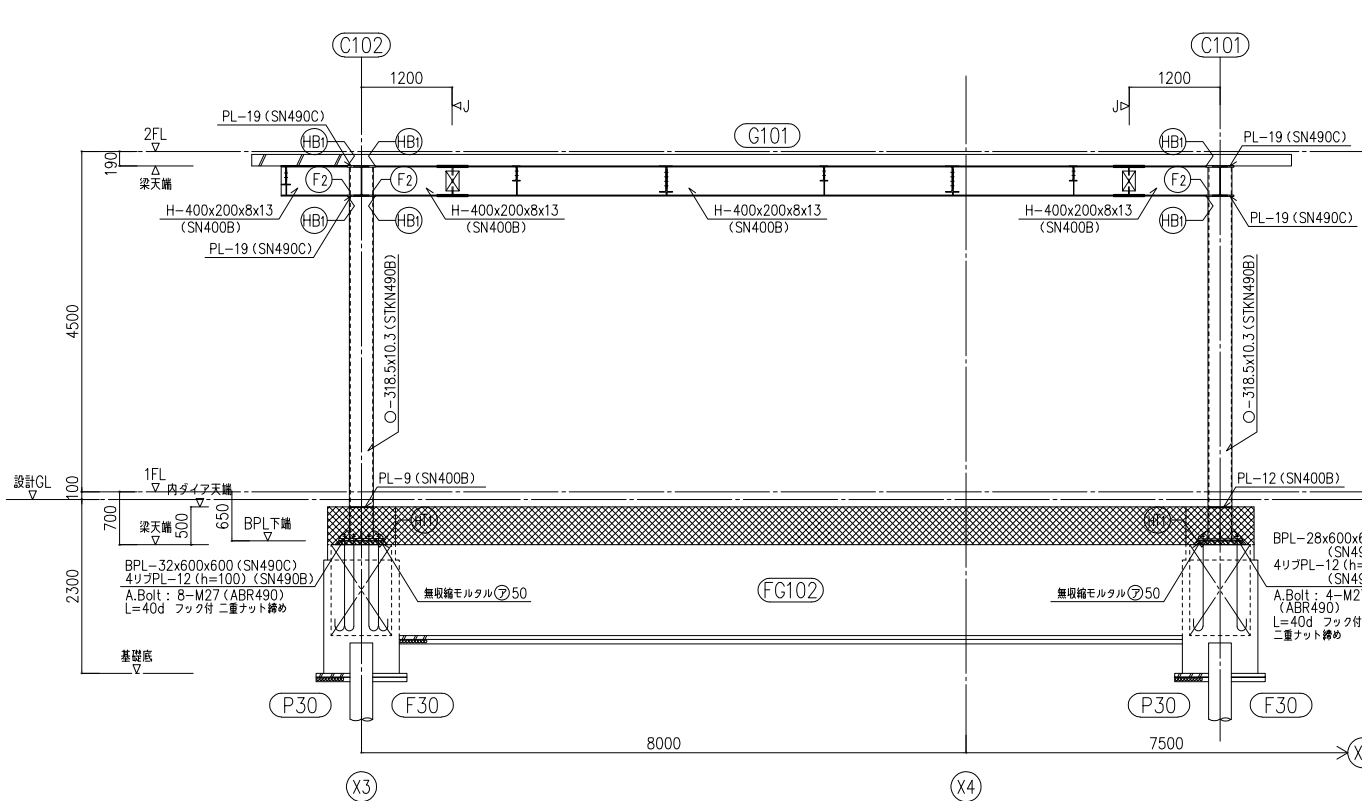
- 鉄骨材質は SN400A とする。
- ダイヤフラムの板厚は 梁フランジの2サイズアップ以上 とする。

- 柱・梁仕口部の鉄骨材質は 通しダイヤフラム SN490C、内ダイヤフラム SN490B とする。

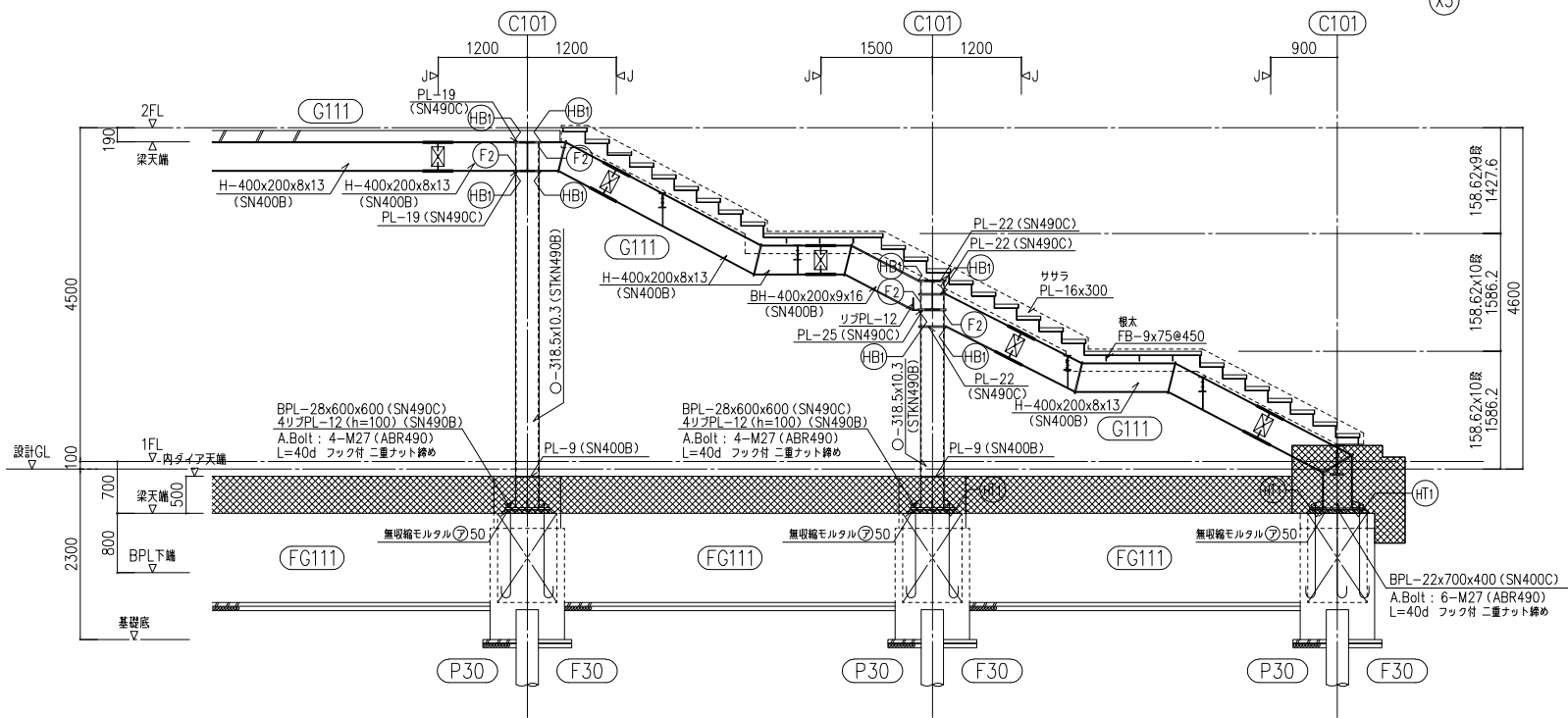
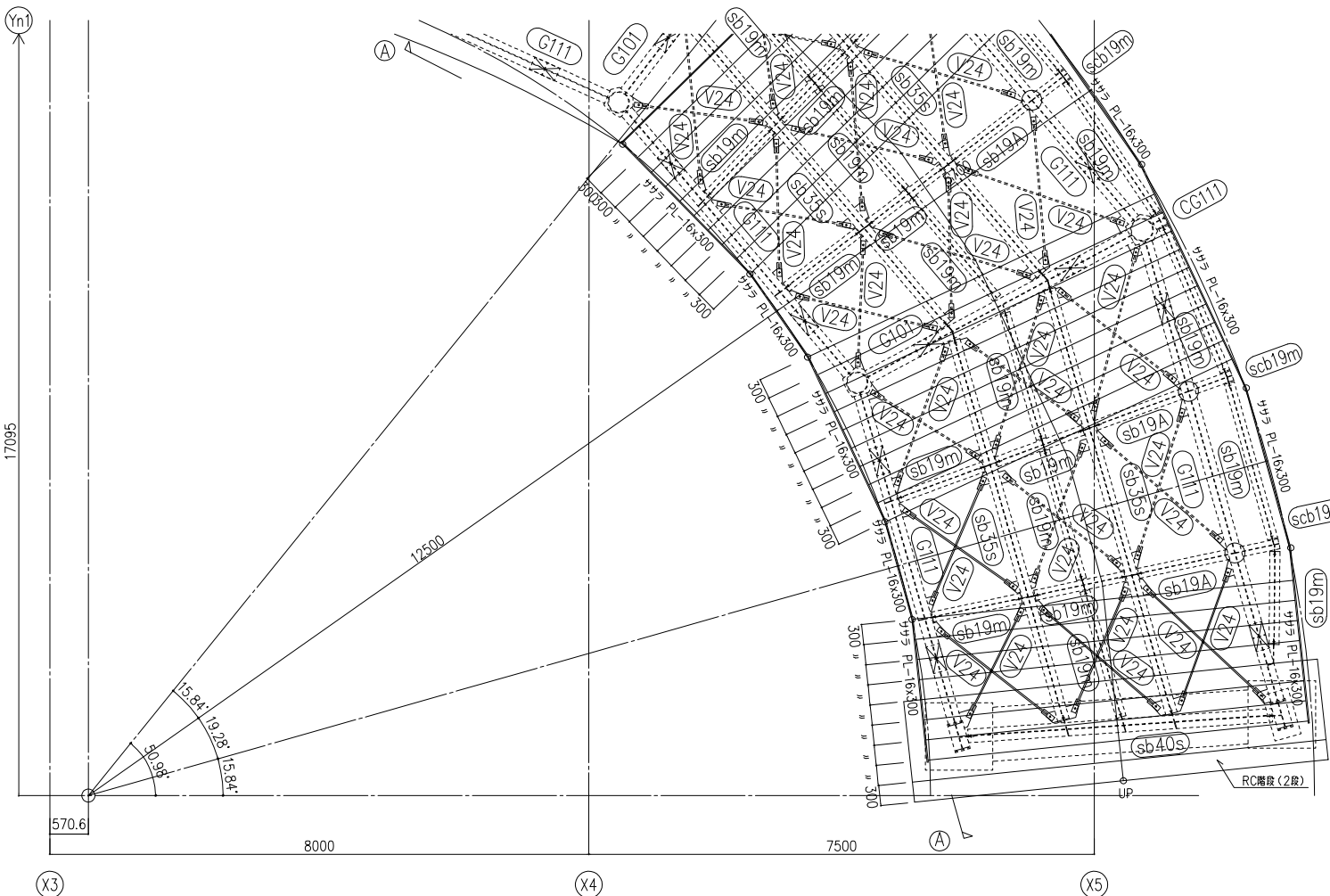
- 突合せ溶接部は 原則としてノンスカールップ工法 とする。
- 屋外階段は 溶融垂鉛メッキ 550kg/m² とする。

- ボルトは 高力ボルト：S10T、溶融垂鉛メッキの範囲内では、メッキボルト：F8T とする。

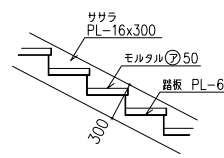
- △J は 継手位置 を示す。
- ≡は 剛接合 を示す。



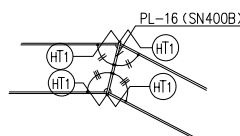
(Yn) 通り-3000 鉄骨架構詳細図 1:50



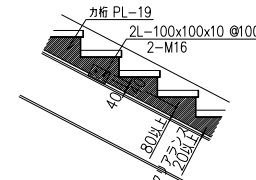
(A) 断面 鉄骨架構詳細図 1:50



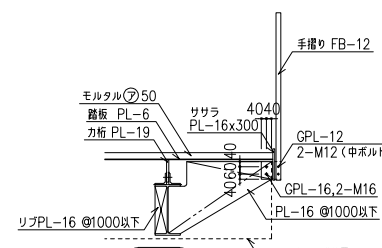
階段部 詳細図 1:30



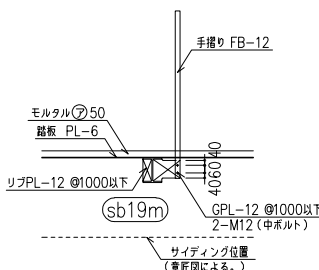
大梁折れ曲がり部詳細図 1:30



カチササと梁との取合い詳細図 1:30



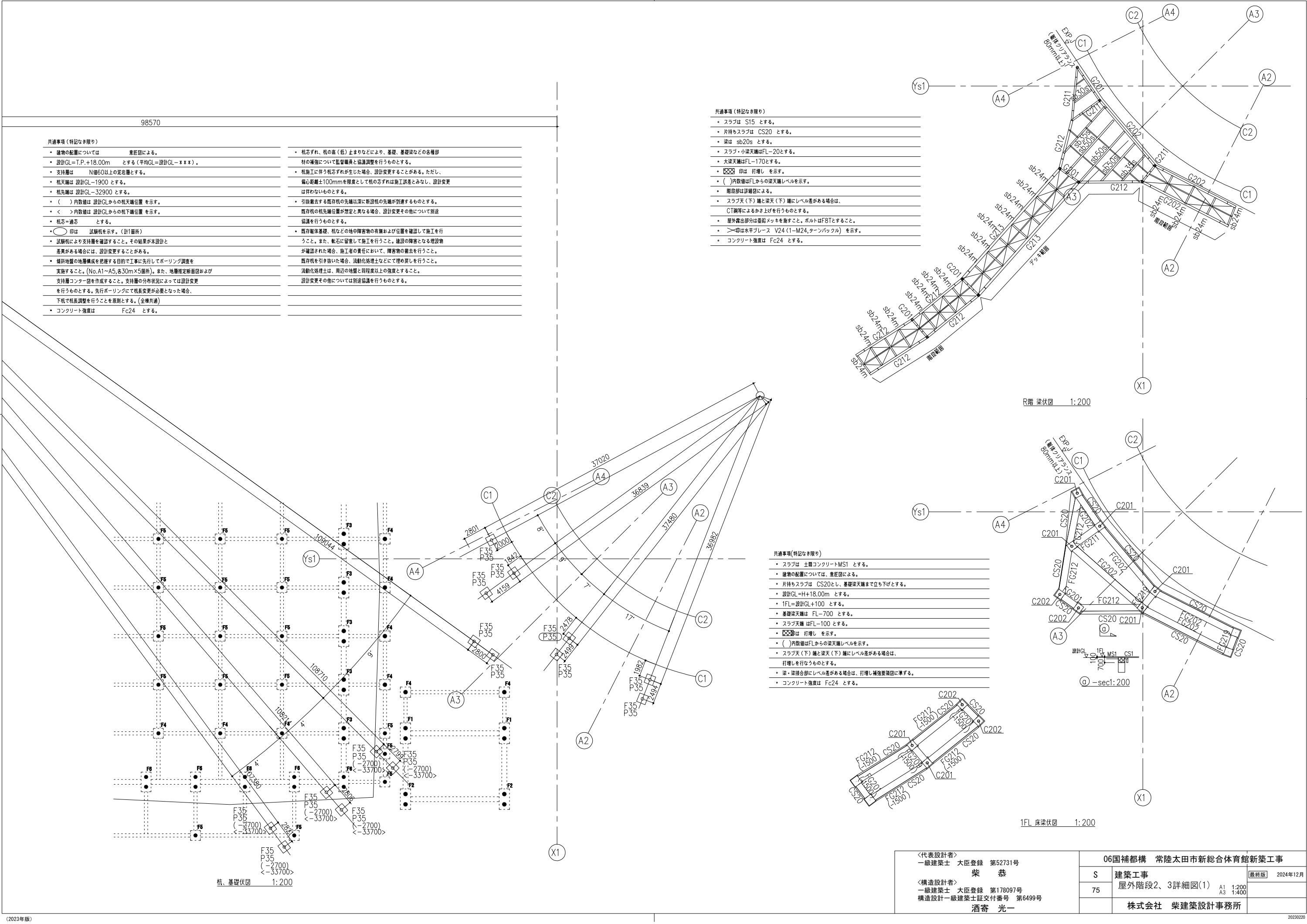
外周部ササPLと大梁取合い詳細図 1:30

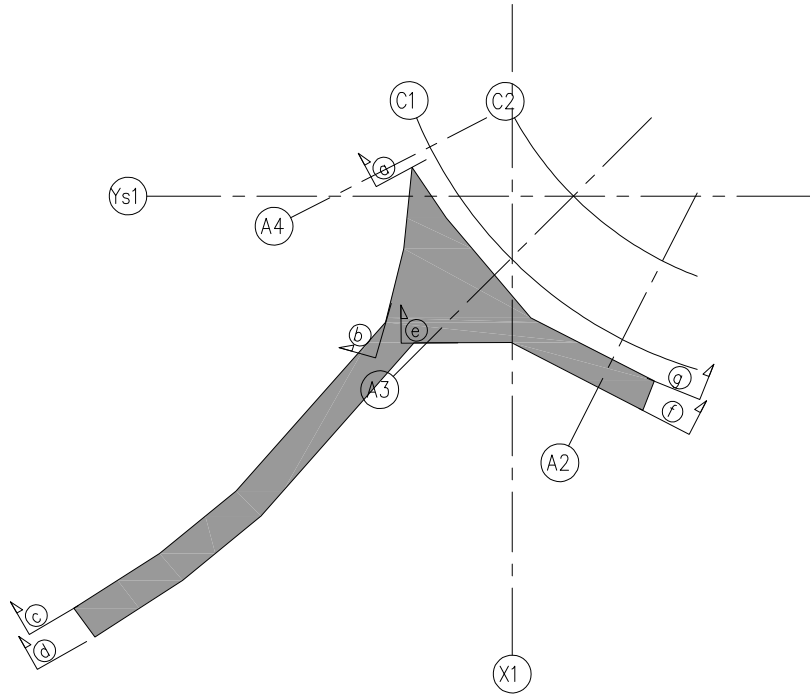
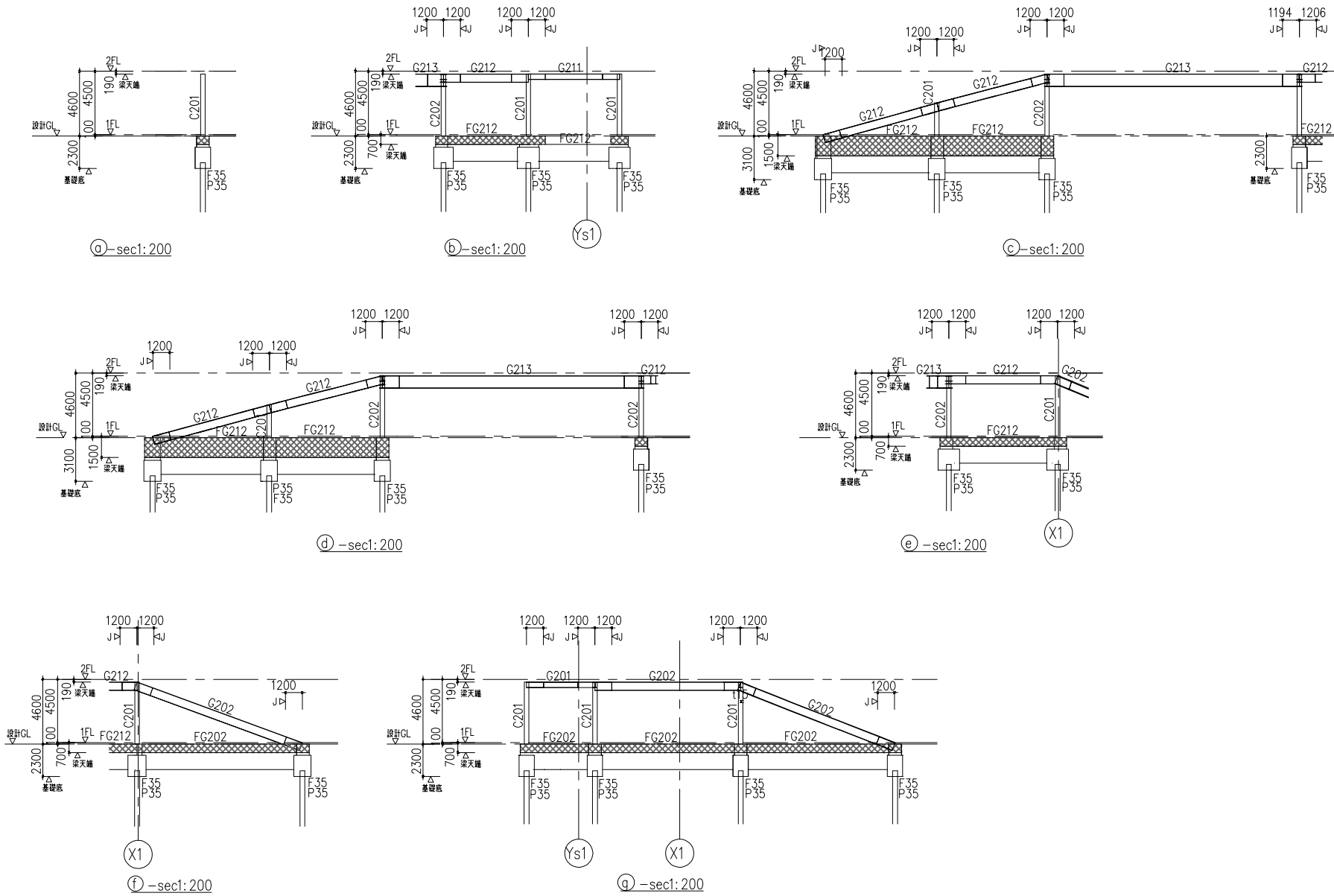


中間部手摺り受材 取り付け詳細図 1:30

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事			
S	建築工事	最終版	2024年12月
74	屋外階段1詳細図 (4)	1:50 (A1) 1:100 (A3)	
株式会社 柴建築設計事務所			





軸組図キープラン

共通事項（特記なき限り）

- スラブ天端はFL-40、梁天端はFL-190とする。
- △印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。柱より1200の位置とする。
- コンクリート打増しを示す。
- 本柱BPL下端は 梁天端+50 とする。
- 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
- 主体系構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
- 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。
- 柱節割については、施工条件等によって監理者の承認の上、最終決定するものとする。
- 通しダイヤフラムはSN490C (t>40はTMCP鋼、大臣認定品)とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- 階段部の大梁形状は詳細図による。
- コンクリート強度は Fc24 とする。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S

建築工事

最終版

2024年12月

76

屋外階段2、3詳細図(2)

S-1:200 (A1)

S-1:400 (A3)

株式会社 柴建築設計事務所

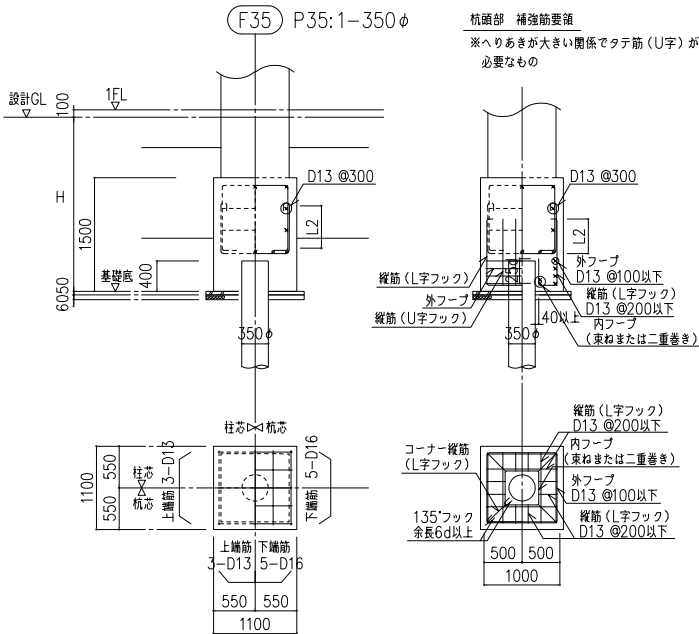
杭リスト

共通事項（特記なき限り）
・ 使用材料は、杭コンクリート：Fc105
・ 継手：無溶接継手（継手低減率0%のものを用いること。また、引抜き力が生じる杭符号はT付きで示しており、引張方向の継手低減率も含めて0%のものを用いること。）
・ 施工法は プレボーリング拡大根固め工法 とする。
・ 施工に先立ち施工計画書を提出し 監督職員の確認を得ること。
・ 支持層の確認方法
支持層の確認：原則、オーガー駆動装置の電流値変化を積分電流計等により計測する。
根固め部形状の確認：支持層根固め部付近におけるビット拡直径を確認する。
拡直径の確認は管理装置により油量や油圧により全数実施する。
管理記録データや写真を報告書にまとめ、監督職員に提出すること。
根固め部の仕様：認定条件のもと、指定強度を確保できるものとする。
水セメント比の上限は60％とする。
流量計等により、根固め液の注入量の確認を全数実施する。
管理記録データや写真を報告書にまとめ、監督職員に提出すること。
・ 認定構法上、杭先端の水平方向拡大率は1.0とし、支持層へ着着可能であることを原則とする。

符 号		P35
上杭	杭 径（mm）	350
	杭 種	PRC杭 I種（Fc105）
中杭	杭 長（m）	5.0
	杭 径（mm）	300
下杭	杭 種	ST杭+PHC杭（B種、Fc105）
	杭 長（m）	9.0 + 9.0
杭	杭 径（mm）	300～450
	杭 種	節付きPHC杭（A種、Fc105）
杭	杭 長（m）	8.0
	杭総長（m）	31.0
杭	杭頭補強筋	NCPアンカー 7-D25（SD345）
	α	300（拡大比α=1.0）
杭	長期支持力（kN）	1000
	杭本数	状況による
杭	埋込み長（mm）	400

基礎リスト 1:50

共通事項（特記なき限り）
・ 基礎深さ Hは 杭・基礎伏図 による。
・ 土に接する基礎下地層は 捨てコンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。
・ 鉄筋材質は D10～D16:SD295A とする。
・ 杭頭の中詰めコンクリートはフーチングへの杭頭埋込み長さ以上とし、基礎フーチングのコンクリート仕様同等以上とする。



基礎梁リスト 1:50

共通事項（特記なき限り）
・ 鉄筋材質は、 D10～D16：SD295A、D19～D25：SD345 とする。
・ 止筋は D10@100 とする。
・ 土に接する基礎梁下地層は 捨てコンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。
・ 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。
・ 2・3段目主筋 カットオフ長さ（LD）は MAX（リスト内数値、Lo/4+15d）とする。

柱リスト 1:50

共通事項（特記なき限り）
・ 通しダイヤフラム材質は SN400C、内ダイヤフラム材質は SN400B とする。
・ 鉄筋材質は、 D10～D16：SD295A、D19～D25：SD345 とする。

・ 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。
・ 柱脚は 親子フィラー同等品 または 座金を増厚して、座金全周溶接 とすること。

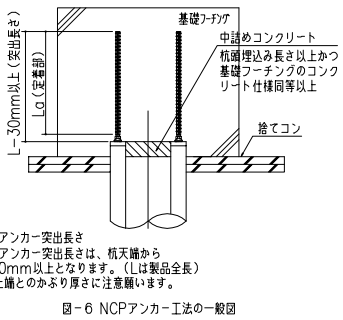
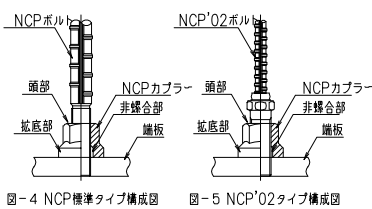
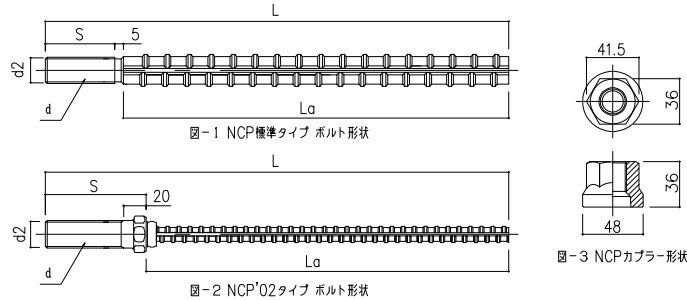
符 号	C201	C202	G202・G212	柱脚 要領図
鉄骨柱	○-318.5x10.3 (STKN490B)	○-355.6x16 (STKN490B)	HY-600x250x12x22 (SN400B)	
柱 脚				
ベースプレート	BPL-28x600x600 (SN490C) 4リブPL-12 (SN490B) h=100	BPL-28x650x650 (SN490C) 4リブPL-12 (SN490B) h=100	BPL-28x450x900 (SN490C) 4リブPL-12 (SN490B) h=100	
アンカーボルト	8-M27 (ABR490) L=40d (フック付) 二重ナット締め	8-M27 (ABR490) L=40d (フック付) 二重ナット締め	8-M27 (ABR490) L=40d (フック付) 二重ナット締め	
RC柱型				
Dx x Dy	900 x 900	900 x 900	1000 x 1000	
主 筋	12-D25	12-D25	12-D25	
帯 筋	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	
備 考				

NCPアンカー工法

1.NCPアンカー工法概要

NCPアンカー工法は、既製コンクリート杭（PHC杭・PRC杭）の杭頭端板に設けられた雄ねじに、NCPボルトの雄ねじ部を挿入し、かつ、内面に非挿合部（ねじ無し部）を設けたNCPカブラーを雄ねじ部に装着してトルクレンチにより締め付けることにより、杭と基礎フーチングを接合する機械式杭頭接合法となる。

2.NCPアンカー部材形状及び構成



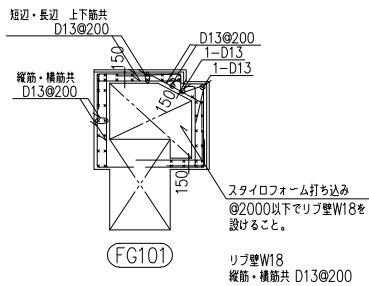
3.杭頭接合仕様

杭 仕 様		NCPアンカー仕様			
杭 径	杭 種	杭本数	鉄筋径	本/1杭	製品長さL
350	PRC杭 I種	7	25	7	750
【注意事項】					
1) NCPアンカーの鉄筋径は杭頭端板ねじ径により異なります。					
2) 杭頭端板ねじ径は、杭メーカー・杭径・杭種により異なります。					
3) 杭メーカー確定後、杭頭端板ねじ径を確認し上記表との取付仕様にて接続可能か確認する。					
4) 杭頭端板ねじ径が異なる場合は、設計時に使用した杭頭部図様にて再検討をする。					

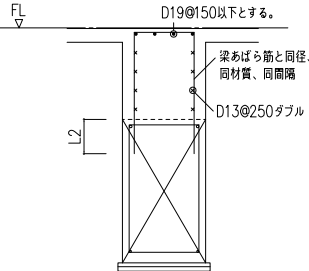
4.NCPアンカーの種類及び寸法 (SD345)

NCP タイプ	NCPボルト	NCPカブラー	鉄筋径 D	ねじ外径 d	ねじ有効径 d2	ねじ部 S	ねじ 無し部	定着部 La	製品全長 L	標準1/4値	養生A
NCP 標準	D22 - M20	NCP 20	D22	20	18.380	60	5	565	630	288 (N・m)	φ20
	D22 - M22	NCP 22		22	20.376					391 (N・m)	φ22
	D22 - W7/8	NCP 7/8		22.225	20.418					385 (N・m)	φ22
	D25 - M24	NCP 24	D25	24	22.051	75		640	720	497 (N・m)	φ24
	D25 - W1	NCP 1		25.4	23.367					577 (N・m)	φ24
	D29 - M27	NCP 27		27	25.051					727 (N・m)	φ27
	D29 - W1-1/8	NCP 1-1/8	D29	28.575	26.252			740	820	818 (N・m)	φ27

RC階段 配筋詳細図 1:50



基礎梁打増要領図



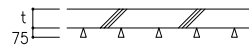
床版リスト

特記なき限り
・ 直押入部分は スラブ天端打増 ㊦10 を基本とする。
・ 土に接する梁下地層は 捨てコンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。
・ 鉄筋継手は 重ね継手 とする。
・ 床型枠用鋼製デッキプレートは、梁端部リブ形状に応じてカットすること。
・ 床型枠用鋼製デッキプレートと鉄骨梁はアークスポット溶接または隅肉溶接とし、面付スタッドにて一体化する。

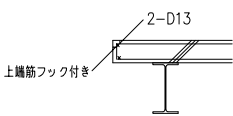
符 号	版 厚	層	短 辺 方 向（主筋方向）	長 辺 方 向（配力筋方向）	備 考
S15	150	上	D10・D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋 ※1
		下	D10 @200	D10 @200	
CS20	150	上	D10・D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋 ※1
		下	D10 @200	D10 @200	

床型枠用鋼製デッキプレート

コンクリート厚 t mmは 床版リストによる。
床型枠用鋼製デッキプレートの使用可能層は、2階以上とする。
床型枠用鋼製デッキプレート厚はt=1.2mmを標準とする。
受注者は施工に先立ち、施工の安全性を確認すること。
めっきの付着量はZ12相当とする。

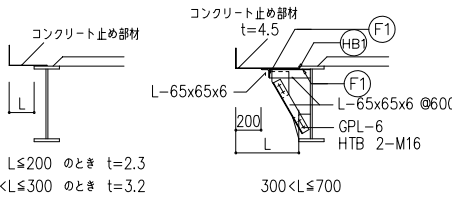


鉄骨造スラブ小口配筋要領 1:30



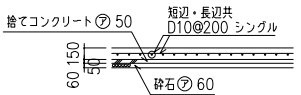
床端部コンクリート止め要領

※）床の端部が梁フランジ端部より外側にくる場合は、下記要領でコンクリート止め部材及び補強部材を設ける事。
コンクリート止め部材は 亜鉛メッキZ12 とする。
プールサイド部外周の床型枠は本図による。



土間コンクリート要領図 (MS1)

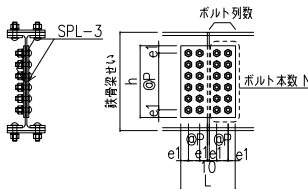
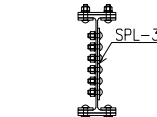
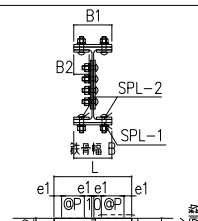
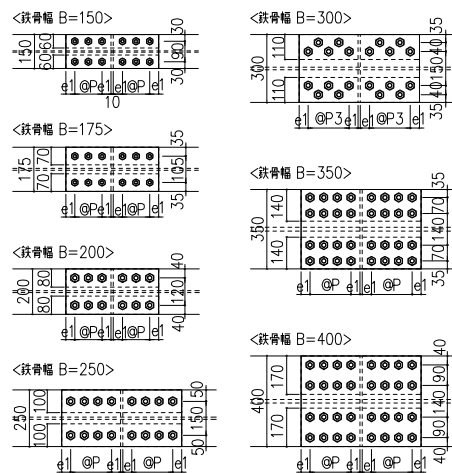
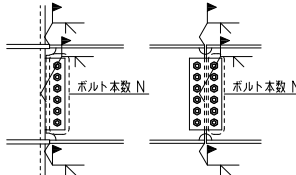
構造スラブと接する箇所は目地(意匠図参照)を設けること。



<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
<構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒 寄 光一	S	建築工事	最終版 2024年12月
	77	屋外階段2,3詳細図 (3)	1:50 (A1) 1:100 (A3)
株式会社 柴建築設計事務所			

大梁リスト		1:50	共通事項（特記なき限り）			
			鉄骨材質は SN400B とする。		ピン接合部材に対して、接続される部材のフランジ幅が不足する場合は、PL突合せ溶接より	
			H形鋼の使用区分は H: JIS規格H形鋼、HY: 外法一定H形鋼、BH: 組立H形鋼とする。		フランジ幅を延幅のうえ、GPLを溶接する。	
			HからHY、もしくはHYからBHへの変更は、部材の寸法・板厚が変わらない範囲で可とする。		なお、PLの材質・板厚は、取り付く大梁のフランジと同材質、同厚とする。	
			屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。		ピン接合部材の接合は継手リスト（ウェブ継手）による。バックリブPLは、ウェブSPLと	
			接合部は「鉄骨構造標準接合部 SCSS-H97」に準じてボルトおよびスプライスプレートを設けること。		同厚・同材質とする。	
階	符 号	G201	G202	G211	G212	G213
2 階	位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面
	断 面					
	鉄 骨	H-400x200x8x13	HY-600x250x12x22	H-400x200x8x13	HY-600x250x12x22	HY-900x300x19x28
	備 考					

鉄骨継手リスト （フランジ・ウェブ）		共通事項（特記なき限り）		
		継手は原則として「鉄骨構造標準接合部 SCSS－H97」による。	ボルトは、高力ボルト： S10T とする。	外装材取付ファスナー等の調整を行い、監督職員（設計者）の了承を得て
		スプライスプレートは 母材（中央断面）と同材質 とする。	ただし、溶融亜鉛メッキの範囲に継手がある場合は F8T とする。	継手形式を最終決定するものとする。
		フィラープレートは SS400 とする。		

材 質	部材メンバー （中央 断面）	フランジ継手								ウェブ継手						備 考																
		ボルト			SPL-1		SPL-2		L	ボルト			SPL-3																			
		径	列	本数N	板厚	B1	板厚	B2		径	列	本数N	板厚	h	L																	
SN400B （SS400）	H-400x200x8x13	M20	2	6	9	200	9	80	410	M20	1	4	9	260	170																	
	HY-600x250x12x22	M22	2	8	16	250	16	100	530	M22	1	7	9	440	170																	
	HY-900x300x19x28	M22	2	12	19	300	22	110	620	M22	2	16	16	710	290																	
柱・梁 ウェブ継手		柱・梁 フランジ・ウェブ継手（現場溶接）				柱・梁 フランジ継手																										
		ボルトについては上記および右記に準じる。 ウェブスプライスプレートを裏当てと併用。 																														
柱・梁 フランジ・ウェブ 共通																																
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>e1</th><th>P</th><th>P3</th></tr></thead><tbody><tr><td>M16</td><td>40</td><td>60</td><td>45</td></tr><tr><td>M20</td><td>40</td><td>60</td><td>45</td></tr><tr><td>M22</td><td>40</td><td>60</td><td>45</td></tr></tbody></table>			e1	P	P3	M16	40	60	45	M20	40	60	45	M22	40	60	45															
	e1	P	P3																													
M16	40	60	45																													
M20	40	60	45																													
M22	40	60	45																													

梁上スタッドボルト要領		共通事項（特記なき限り）
		スタッド高さ = デッキせい+30mm 以上とする。
		スタッドジベル仕様 ピッチ：7.5d 以上 かつ 600mm 以下、ゲージ：5d以上
		はしあき：40mm 以上（鉄骨端）、100mm 以上（コンクリート端）
		かぶり厚さ：30mm 以上

	B < 200	200 ≤ B < 300	300 ≤ B
鉄筋コンクリート床版 （床型特用鋼製デッキプレート）			
	φ16 シングル @150	φ19 ダブル @150	φ19 トリプル @150

鉄骨部材リスト		特記なき限り 鉄骨小梁・間柱 各共通事項		
		鋼材質 原則 SN400A とする（ガセットプレートも SN400Aとする）。		座屈止めは A-TYPE を基準とする。
		なお、SS400 の使用も可とする。		高力ボルトは、S10T（垂鉛メッキ箇所 F8T）を原則とする。
		H形鋼の使用区分は H: JIS規格H形鋼、HY: 外法一定H形鋼、BH: 組立H形鋼 とする。		屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。

符 号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート	2－SPL	備 考
sb20s	H－200x100x5.5x8	2－M16	PL－6	――	
sb30s	H－300x150x6.5x9	3－M20	PL－9	――	
sb35s	H－350x175x7x11	4－M20	PL－9	――	
sb50s	H－500x200x10x16	5－M20	PL－12	2PL－6	
sb24m	H－244x175x7x11	3－M20	PL－9	――	
V24	M24（ターンバックル付）	2－M20	PL－12	――	

小梁継手要領図

共通事項（特記なき限り）

- リブプレートは GPL と同材質・同厚とする。
- 座屈止め要領と仕様異なる場合は、座屈止め要領を優先する。
- ガセットプレート形状については座屈止め要領を考慮して定める。

(1) 一般継手要領

A-TYPE (1) Hg-Hb ≥ 250

	大梁の片側に小梁がつく場合	大梁の両側に小梁がつく場合
形式	- Hg：大梁せい、Hb：小梁せい とする。 - 大梁の両側に取付く場合は 片側のみでよい。	- Hg：大梁せい、Hb：小梁せい とする。 - 大梁の両側に取付く場合は 片側のみでよい。

A-TYPE (1) Hg-Hb < 250

	大梁の片側に小梁がつく場合	大梁の片側に小梁がつく場合	大梁の両側に小梁がつく場合
形式			

B-TYPE

	大梁（下端）－ 小梁（上端）間
形式	

鉄骨部材 ボルトピッチ・ヘリあき

共通事項（特記なき限り）

- 小梁・間柱・横座屈補剛等共通とする。

	M16	M20	M22
P	60	60	60
e	40	40	40

＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒 寄 光一		S	建築工事
		78	屋外階段2,3詳細図 (4) 1:30 (A1) 1:60 (A3)
			株式会社 柴建築設計事務所

共通事項（特記なき限り）

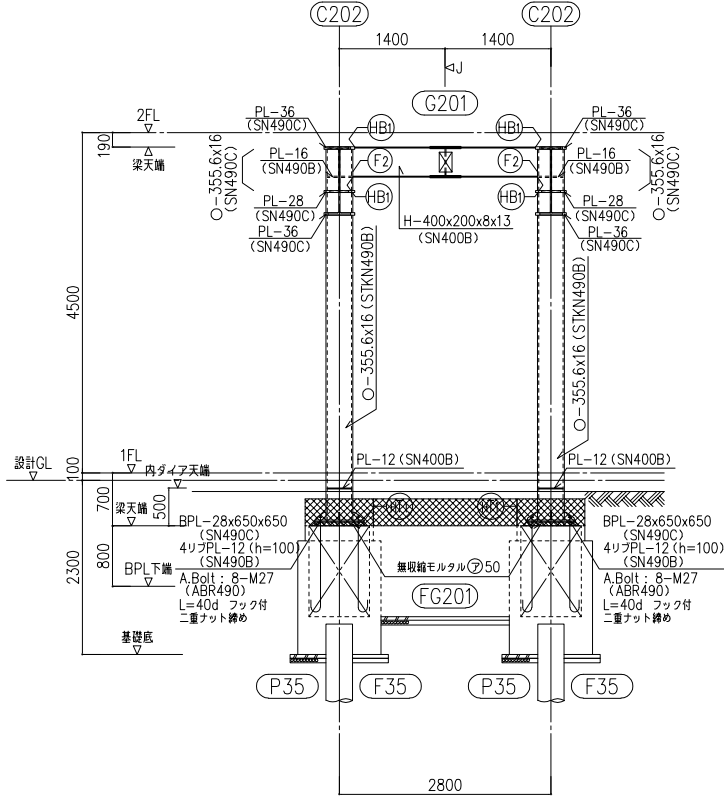
- 鉄骨材質は SN400A とする。
- ダイヤフラムの板厚は 梁フランジの2サイズアップ以上 とする。

- 柱・梁仕口部の鉄骨材質は 通しダイヤフラム SN490C、
内ダイヤフラム SN490B とする。

- 突合せ溶接部は 原則としてノンスカールップ工法 とする。
- 屋外階段は 溶融垂鉛メッキ 550kg/m² とする。

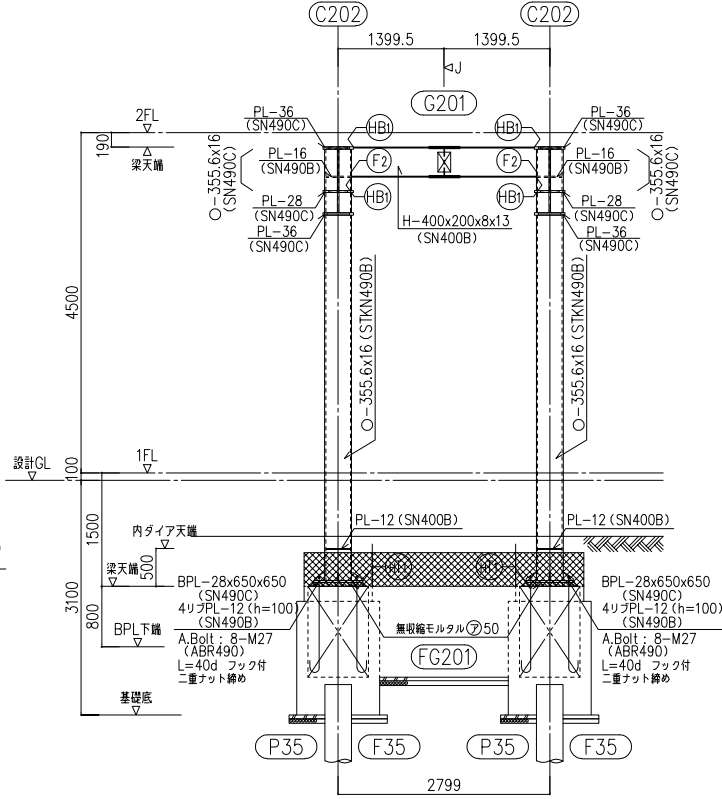
- ボルトは 高力ボルト：S10T、溶融垂鉛メッキの範囲内では、
メッキボルト：F8T とする。

- △Jは 継手位置を示す。



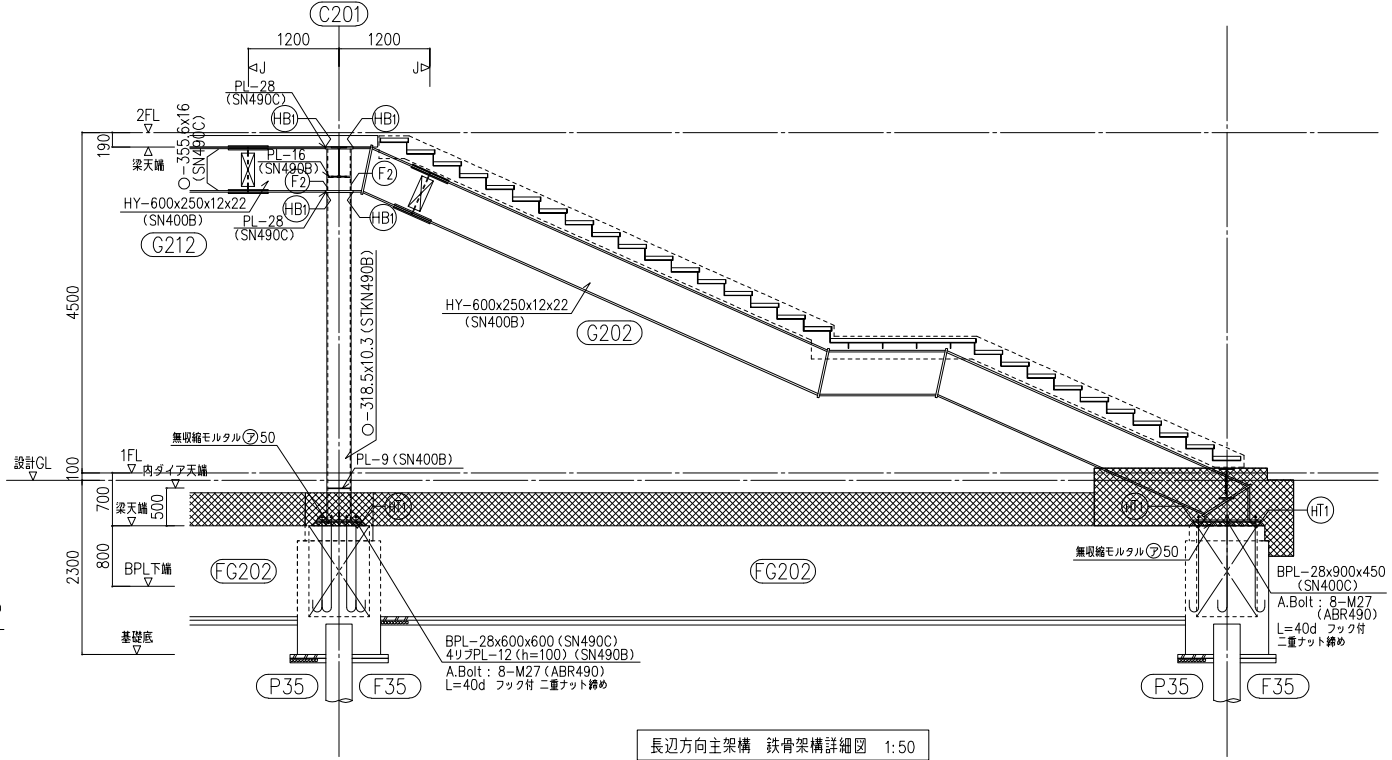
短辺方向主架構 鉄骨架構詳細図 1:50

(A) -sec



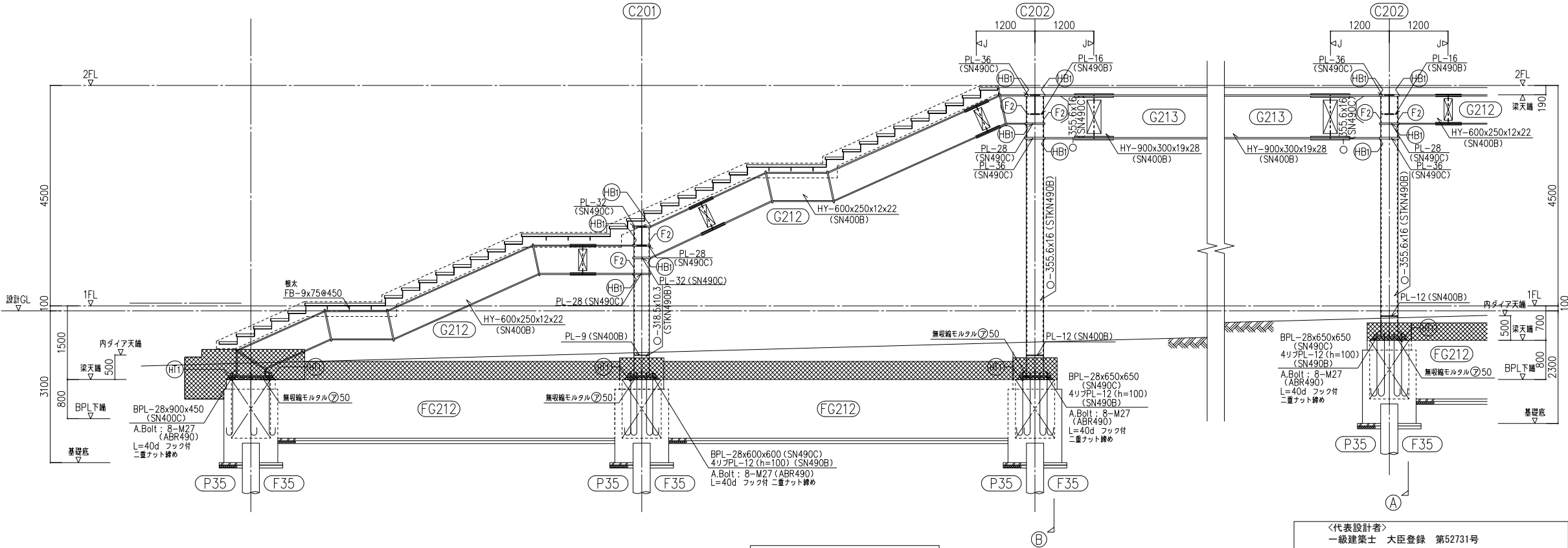
短辺方向主架構 鉄骨架構詳細図 1:50

(B) -sec



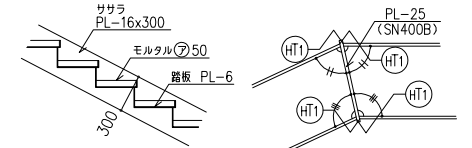
長辺方向主架構 鉄骨架構詳細図 1:50

(屋外階段 2)



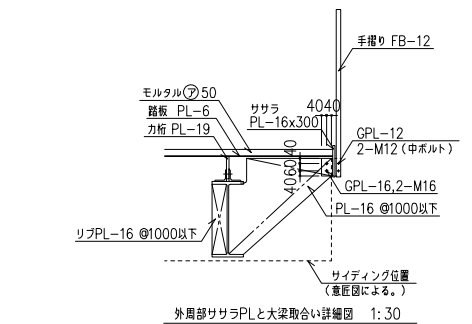
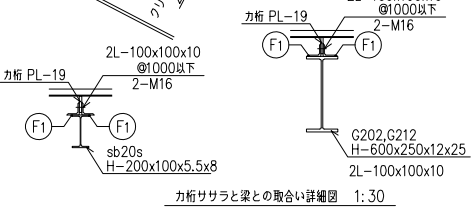
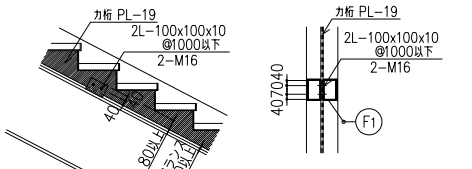
長辺方向主架構 鉄骨架構詳細図 1:50

(屋外階段 3)



階段部 詳細図 1:30

大梁折れ曲がり部詳細図 1:30



外周部ササラPLと大梁取合い詳細図 1:30

<代表設計者>
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
<構造設計者>
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒 寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事			
S	建築工事	最終版	2024年12月
79	屋外階段2,3詳細図 (5)	1:50 (A1) 1:100 (A3)	
株式会社 柴建築設計事務所			

- ・スリーブ外径は 呼び径 とする。
- ・補強要領はH形配筋としS-05による。
- ・梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品（大臣認定品）による補強とすることができる。補強要領は認定条件による。
- ・既製品による補強が計算書に示す現補強同等以上であることを提示し監督員の承認を得ること。
- ・特記なき建築工事のスリーブ材は VU とする。
- ・梁貫通に関しては、リストの数量を正とし、伏図は参考とする。
- ・※ 印は、切断した鉄筋と同径・同本数の鉄筋にて開口補強を行うものとする。
- ・－ 印は、補強不要 とする。
- ・床貫通について（スラブ鉄筋ピッチー50）以下となる径の開口の場合は、鉄筋を切断しないものとする。

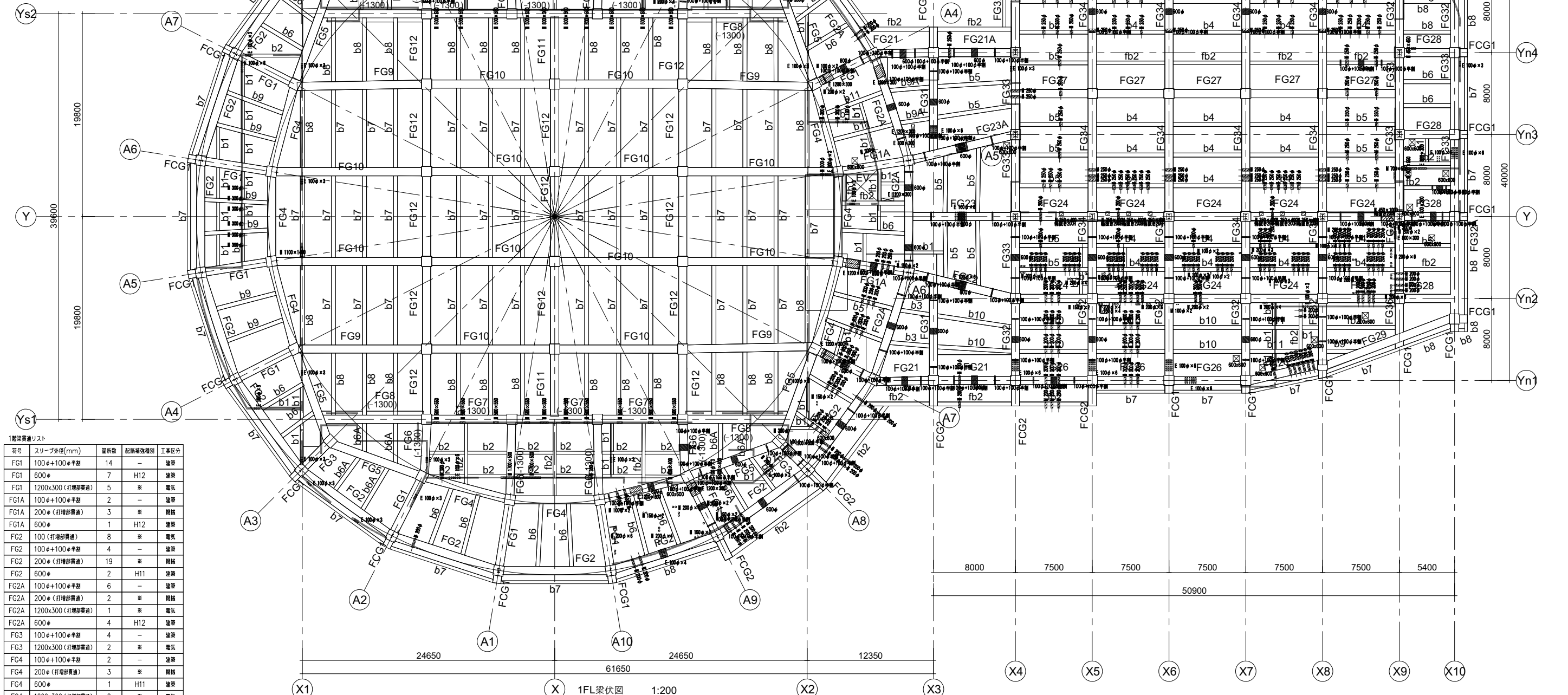
1階床貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	工事区分	
S15	100φ	2	機械	
S16	100φ	2	機械	
S17	100φ	12	機械	
S22	100φ	8	機械	
S24	100φ	4	機械	
S15	150φ	4	機械	
S16	150φ	2	機械	
S17	150φ	2	機械	
S22	150φ	6	機械	
S16	200φ	2	機械	
S17	200φ	35	機械	

1階壁貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	工事区分	
S22	200φ	56	機械	
S24	200φ	12	機械	
S15	350x400	12	機械	
S17	350x400	7	機械	
S17	450x1000	1	機械	
S15	600x600	7	建築	
S17	600x600	1	建築	
S22	600x600	10	建築	
S24	600x600	2	建築	

1階壁貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	工事区分	
S15	1200x300	1	電気	
S17	800x300	1	電気	
S17	1200x300	1	電気	
S22	100φ	6	電気	

1階壁貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	工事区分	
W18	250φ	3	機械	
W18	300φ	14	機械	
W18	350φ	12	機械	
W18	400x400	2	機械	
W18	450x450	1	機械	
W18	500x550	16	機械	
W18	600x650	1	機械	
W18	700x500	1	機械	
W18	800x500	4	機械	
W18	1100x1400	1	機械	
W18	1700x500	4	機械	

1階壁貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	工事区分	
W18	100φ	102	電気	
W18	800x300	3	電気	
W18	1200x300	1	電気	



1階梁貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	配筋補強種別	工事区分
FG1	100φ+100φ半割	14	－	建築
FG1	600φ	7	H12	建築
FG1	1200x300 (打増部貫通)	5	※	電気
FG1A	100φ+100φ半割	2	－	建築
FG1A	200φ (打増部貫通)	3	※	機械
FG1A	600φ	1	H12	建築
FG2	100 (打増部貫通)	8	※	電気
FG2	100φ+100φ半割	4	－	建築
FG2	200φ (打増部貫通)	19	※	機械
FG2	600φ	2	H11	建築
FG2A	100φ+100φ半割	6	－	建築
FG2A	200φ (打増部貫通)	2	※	機械
FG2A	1200x300 (打増部貫通)	1	※	電気
FG2A	600φ	4	H12	建築
FG3	100φ+100φ半割	4	－	建築
FG3	1200x300 (打増部貫通)	2	※	電気
FG4	100φ+100φ半割	2	－	建築
FG4	200φ (打増部貫通)	3	※	機械
FG4	600φ	1	H11	建築
FG4	1200x300 (打増部貫通)	2	※	電気
FG5	100φ+100φ半割	4	－	建築
FG5	600φ	2	H12	建築
FG6	100φ+100φ半割	6	－	建築
FG6	600φ (打増部貫通)	2	※	建築
b4	200φ	45	H3	機械
b4	250φ	38	H4	機械
b5	200φ	15	H3	機械
b5	250φ	9	H4	機械
b6	200φ	6	H3	機械
b6A	200φ	3	H3	機械
b10	200φ	12	H4	機械
fb2	100φ+100φ半割	4	－	建築

1階梁貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	配筋補強種別	工事区分
fb2	200φ	7	H6	機械
fb2	250φ	2	H7	機械
fb2	600φ	2	H10	建築
FG21	100φ+100φ半割	6	－	建築
FG21	200φ	1	H8	機械
FG21A	600φ	3	H12	建築
FG21A	100φ+100φ半割	2	－	建築
FG21A	250φ	1	H8	機械
FG21A	600φ	1	H11	機械
FG22	100 (打増部貫通)	6	－	電気
FG22	100φ+100φ半割	2	－	建築

1階梁貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	配筋補強種別	工事区分
FG22	600φ	1	H12	建築
FG23	100 (打増部貫通)	6	－	電気
FG23	100φ+100φ半割	2	－	建築
FG23	600φ	1	H11	建築
FG23A	100 (打増部貫通)	6	－	電気
FG23A	100φ+100φ半割	2	－	建築
FG23A	600φ	1	H12	建築
FG24	100φ+100φ半割	2	－	建築
FG24	200φ	17	H8	機械
FG24	250φ	3	H10	機械
FG24	600φ	1	H11	建築

1階梁貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	配筋補強種別	工事区分
FG25	250φ	1	H8	機械
FG26	100φ+100φ半割	2	－	建築
FG26	600φ	6	－	電気
FG26	200φ	13	H8	機械
FG26	600φ	1	H11	建築
FG27	250φ	3	H8	機械
FG28	100φ+100φ半割	2	－	建築
FG28	600φ	1	H13	建築
FG31	100 (打増部貫通)	6	－	電気
FG31	100φ+100φ半割	4	－	建築
FG31	600φ	2	H12	建築

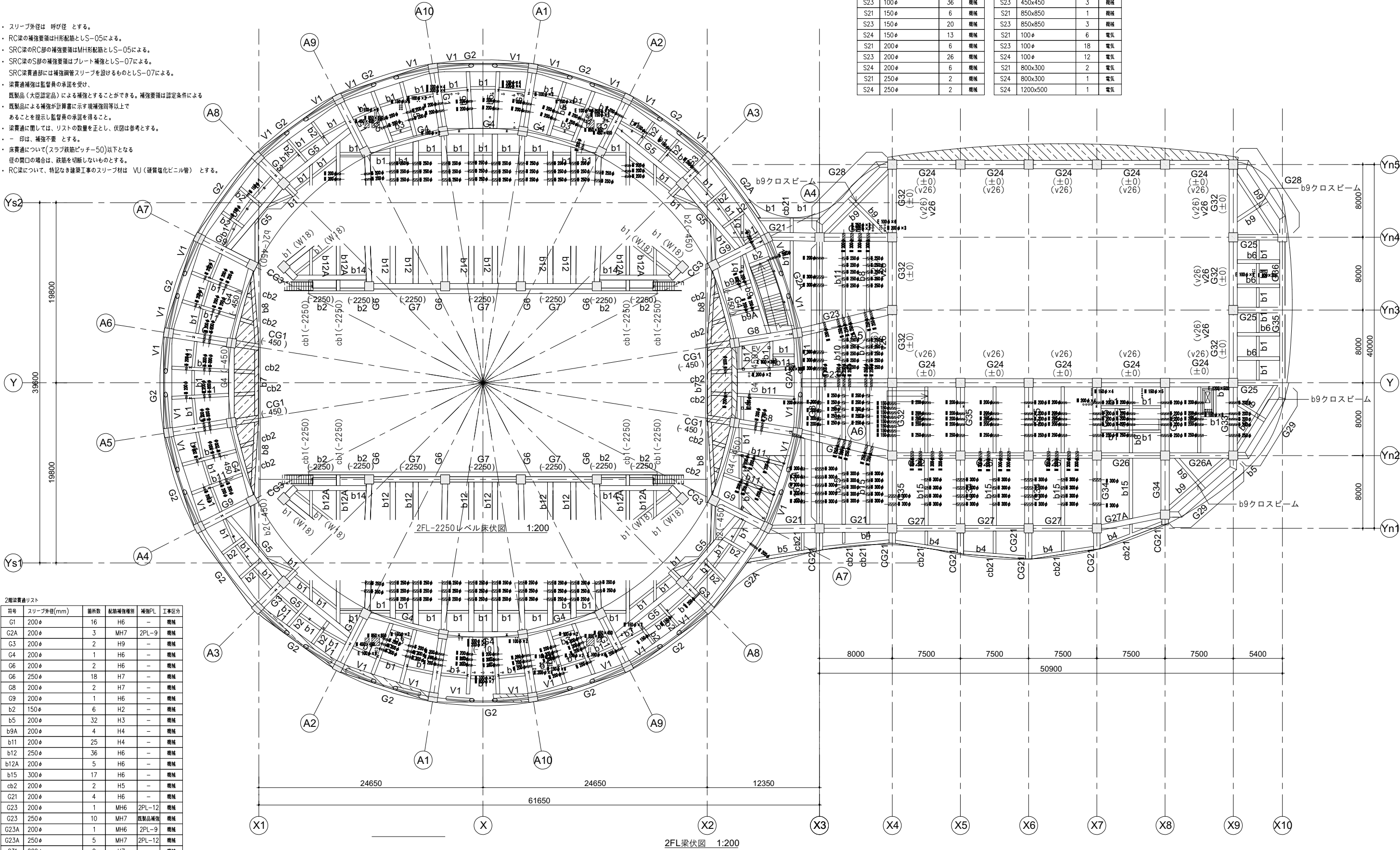
1階梁貫通リスト				
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	配筋補強種別	工事区分
FG32	100 (打増部貫通)	18	－	電気
FG32	100φ+100φ半割	4	－	建築
FG32	600φ	3	H11	建築
FG33	100 (打増部貫通)	6	－	電気
FG33	100φ+100φ半割	2	－	建築
FG33	250φ	2	H10	機械
FG33	600φ	1	H12	建築
FG34	100φ+100φ半割	16	－	建築
FG34	250φ	20	H10	機械
FG34	600φ	8	H12	建築
FG35	200φ	4	H9	機械

＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒 奇 光 一	S	建築工事		最終版 2024年12月
	80	梁貫通要領、1階床梁貫通伏図 1:200 (A1) 梁貫通要領、1階床梁貫通伏図 1:400 (A3)		
		株式会社 柴建築設計事務所		

- ・スリーブ外径は 呼び径 とする。
- ・RC梁の補強要領はH形配筋としS-05による。
- ・SRC梁のRC部の補強要領はMH形配筋としS-05による。
- ・SRC梁のS部の補強要領はプレート補強としS-07による。
- SRC梁貫通部には補強鋼管スリーブを設けるものとしS-07による。
- ・梁貫通補強は監督員の承認を受け、
- 既製品（大臣認定品）による補強とすることができる。補強要領は認定条件による
- ・既製品による補強が計算書に示す現補強同等以上であることを提示し監督員の承認を得ること。
- ・梁貫通に關しては、リストの数量を正とし、伏図は参考とする。
- ・－ 印は、補強不要 とする。
- ・床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ=50)以下となる
- 径の開口の場合は、鉄筋を切断しないものとする。
- ・RC梁について、特記なき建築工事のスリーブ材は VU（硬質塩化ビニル管） とする。

2階床貫通リスト					
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	配筋補強種別	補強PL	工事区分
G1	200φ	16	H6	－	機械
G2A	200φ	3	MH7	2PL-9	機械
G3	200φ	2	H9	－	機械
G4	200φ	1	H6	－	機械
G6	200φ	2	H6	－	機械
G6	250φ	18	H7	－	機械
G8	200φ	2	H7	－	機械
G9	200φ	1	H6	－	機械
b2	150φ	6	H2	－	機械
b5	200φ	32	H3	－	機械
b9A	200φ	4	H4	－	機械
b11	200φ	25	H4	－	機械
b12	250φ	36	H6	－	機械
b12A	200φ	5	H6	－	機械
b15	300φ	17	H6	－	機械
cb2	200φ	2	H5	－	機械
G21	200φ	4	H6	－	機械
G23	200φ	1	MH6	2PL-12	機械
G23	250φ	10	MH7	既製品補強	機械
G23A	200φ	1	MH6	2PL-9	機械
G23A	250φ	5	MH7	2PL-12	機械
G31	200φ	2	H7	－	機械
G31	300φ	13	H8	－	機械
G32	150φ	8	MH6	既製品補強	機械
G33	200φ	4	H6	－	機械
G33	250φ	1	H7	－	機械
G34	300φ	10	H8	－	機械
G35	200φ	16	H6	－	機械
G35	250φ	4	H7	－	機械
G35	300φ	2	H8	－	機械

2階床貫通リスト							
符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	工事区分	符号	スリーブ外径(mm)	箇所数	工事区分
S21	100φ	2	機械	S21	450x450	1	機械
S23	100φ	36	機械	S23	450x450	3	機械
S21	150φ	6	機械	S21	850x850	1	機械
S23	150φ	20	機械	S23	850x850	3	機械
S24	150φ	13	機械	S21	100φ	6	電気
S21	200φ	6	機械	S23	100φ	18	電気
S23	200φ	26	機械	S24	100φ	12	電気
S24	200φ	6	機械	S21	800x300	2	電気
S21	250φ	2	機械	S24	800x300	1	電気
S24	250φ	2	機械	S24	1200x500	1	電気



＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭	06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
	S	建築工事
＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一	81	2階床梁貫通伏図
	株式会社 柴建築設計事務所	